

2021

研究紀要

第36号



秀光中学校
仙台育英学園高等学校

巻 頭 言

秀光中学校
仙台育英学園高等学校
校長 加藤 雄彦

2019年12月、中国の武漢市で原因不明の肺炎の集団感染から始まった新型コロナウイルス感染症は、あっという間にパンデミックの波となり世界中を襲い、多くの尊い命を奪っています。

こうした状況に鑑み、本校においては2020年度当初から集団感染を防ぐべくZoomによるリモート授業への移行、さらに県内の感染状況を常に把握し、保護者の皆様のご理解をいただきながら、分散登校を実施するなど、感染防止のために最善と考え得る対応を他校に先駆けて実施して参りました。今年度、保護者の皆様に発信した「新型コロナウイルス流行に関する本学園の対応」文書も50報を超え、数多くの方々から、暖かい励ましと御理解、御支援をいただきながら教育活動ができたことにこの場をお借りして感謝申し上げます。しかし、未だ感染拡大は収まらず、県内においても、まん延防止等重点措置を発出する事態となりました。

そのような中、生徒が楽しみにしていた各種大会や行事の縮小や中止が次々と発表され、悔しい気持ちをもちながらも、気持ちを切り替え、短い練習時間の中で、常に前向きな活動を続けてきた生徒の取り組みは賞賛に値します。これまでの伝統を守り陸上競技部、サッカー部、硬式野球部、ラグビー部など、多くの部活動が素晴らしい活躍を見せてくれました。

さて、本校職員による研究・研修内容をまとめた研究紀要は、今回で36号を数えます。その概要は、これまで研究紀要に掲載した研究・研修の巻末の総目録によって紹介しております。内容は各分野ごとの授業研究に始まり、国際化教育への提案、海外研修や語学研修など多岐にわたっており、仙台育英学園の教育を真摯に支えてきた先人の先生方の、教育に対する熱意が十分に伝わる研究・研修が行われてきたことがわかります。

今年度の研究集録第36号に寄稿された先生方の報告内容は、令和4年度から順次導入される新学習指導要領に向けて、外国語教育の充実、ICTを活用したプログラミング教育、話し合い活動やプレゼンテーション能力の習得など多岐にわたっています。文科省が考えている、何を学ぶか、何ができるようになるか、そのためにどのように学ぶかなどを踏まえた「生きる力」を育てていくこと、つまり学びの先の自分の道を切り拓く力を身に付けさせることを十分踏まえた研究報告となっています。さらに、IB国際バカロレア・ディプロマプログラムは、日本語と英語で行うデュアルランゲージ・プログラムの実施が認められ、継続して実施しており、本校教育活動の改善の一翼を担っています。

今回、各コースにおける研修旅行がコロナ禍で実施されず誠に残念でしたが、その中において英進進学コースの「地球探究研修」への取組は、県内の価値ある貴重な文化財や震災遺構の学習を通し、郷土の歴史と現状を生徒が再認識することで郷土への愛を育む良い機会となったようです。

今後も本学園の教育活動が、新しい時代の教育に一石を投げ得る存在となるよう一層研究・研修を重ね、仙台育英学園の信頼をさらに高めるべく発信していきたいと思っております。

研究紀要36号

巻頭言 加藤 雄彦

トピック

- 秀光コース20期生 TOK実践報告と振り返り TOK担当 加藤 隆寛 1
「国際バカロレアMYPとDPを活用した中高一貫教育の取組」
..... 仙台育英学園IBチーフコーディネーター 高橋 郁夫 5

I 研究報告

- (1) 秀光中学校・秀光コース オンライン授業実績報告
..... 秀光中学校ICT推進委員 小保内陽大 10
- (2) 『先輩、教えて下さい!』～ICT活用からOn-Line授業へ
..... 特別進学コース 御代 力夫 18
- (3) 情報科学コース デジタル教科書における取り組みについて
..... 情報科学コース 金福 瞭 25
加藤 芳己
- (4) 公私間教員交流研修報告 外国語コース 小林 祐喜 28
仙台二華高等学校 上島 佐輔 35
- (5) ICT推進の取り組みについて 英進進学コース 五十嵐春祐 37
- (6) ICT推進の取り組みについて フレックス 技能開発コース 山田 大 41
フレックス・技能開発コースにおける広域通信制併修の取組
..... フレックスコース 小原沙希子 43
学級だよりの有効性～学級だよりを核にした学級経営の研究～
..... 技能開発コース 舘 和廣 50

II 令和2年度 研修報告

- (1) 英進進学コース
地域探求研修報告 尾林さつき 71

III その他

- (1) Office365・Zoomオンライン授業研修報告
..... 秀光コース 小保内陽大 79
..... 情報科学コース 日野 彰
- (2) 数学問題間の類似性認識に関する考察
～数学における問題づくりを通して～
..... 広域通信制課程ILC沖縄 新里 孝雄 89
スクーリングにおける理科実験の意義－ILC沖縄の理科実験教室－
..... 広域通信制課程ILC沖縄 渡邊 正俊 92

総目録 (第1～35号)

編集後記

秀光コース20期生 TOK（知の理論）実践報告と振り返り

TOK担当 加藤 隆寛

1 はじめに

TOKはIBDPコア科目の一つであり、批判的思考スキルや国際的な視野を身に着けることが目標である。具体的には以下のような思考プロセスがTOK的思考の基礎である。

- ① 実社会の状況（RLS）の探索、設定
- ② 知識に関する主張（KC）の抽出
- ③ 主張の分析
 - A. 知識の枠組み（KF）を用いた知識の領域（AoK）の特定
 - B. 知るための方法（WoK）の特定
- ④ 知識に関する問い（KQ）の抽出
- ⑤ KQの精査（同じあるいは別のRLSに適応させ、KQに関する答えを確認する）

TOKの授業では、これらのプロセスの練習を行い、他の授業や日常生活の中でも応用ができるように練習やもの見方を養っていく。取り扱うトピックには偏りが無いよう文系、理系それぞれバランスよく学ぶことが求められている。

TOKの最終試験では、以下の外部試験（課題文エッセイ）、内部試験（プレゼンテーション）を行う。それぞれの得点比率は2:1であり、エッセイの点数に比重が置かれている。

外部試験においては、IBOから課題が6題提示されており、その中から受験者は1つ選ぶ。2020年11月試験の課題は以下の6つであった。

- ① 『「知識に関する主張」をめぐる意見の不一致を解決しなければならないのであれば、両者に対して平等に注意を傾けることが極めて重要だ』これはどのような状況において良いアドバイスとなるか。
- ② 「何かを理解するには、それについての『もし…だったなら』という質問に答えられなければならない」。この主張にどの程度同意するか。
- ③ 「私たちの知識のあまりにも多くが、私たちを中心としたもので、まるで私たちが宇宙で最も重要な存在であるかのようだ」（カルロ・ロヴェッリの言葉より一部改変）。なぜこれが問題となり得るか。
- ④ 「知識を得る過程は、最終結果に到達するよりも価値がある」。2つの「知識の領域」に言及しながら、この主張について論じなさい。
- ⑤ 「私たちが問いかけることのできる質問は、私たちが何を知らないかよりも、すでに何を知っているかによって左右される」。2つの「知識の領域」に言及しながら、この主張について論じなさい。
- ⑥ 「信頼性のある知識が、確実性を欠くことはある」。2つの「知識の領域」に言及しながら、この主張を探究しなさい。

プレゼンテーションについては、思考のスタートとする実社会の状況を一つ設定し、自ら導いた知識に関する問いについての議論を行う。エッセイは与えられた問いを実社会の状況に応用して探究していくのに対して、プレゼンテーションでは自ら設定した実社会の状況をきっかけに知識に関する問いを分析していくという逆のプロセスが行われていることが一番大きな違いである。しかしながら、エッセイ、プレゼンテーションにおいて一貫しているのは、実社会の状況と知識に関する問いにどのような関連性があるのか、どのような要素が知識の構成に深く関わっているのかを議論する能力を評価している点である。そのため、問いを立てる能力、分析する能力その両方が最終的には求められる。

2019年度、2020年度のTOKの授業展開や取り組みを紹介しつつ改善点を議論していく。

2 授業計画

以下のスケジュールで授業を行った。

高校2年次

| | |
|---------|---|
| 4、5月 | 概要、TOK用語の定義確認 |
| 6月 | 「個人的な知識」と「共有された知識」「知るための方法」 「知識に関する主張」と「知識に関する問い」 「知識の領域」と「知識の枠組み」 ※総括的評価：ポスター作成 |
| 7月・9月 | 地域に根差した知識「タブーについて」 数学「統計学の正しさ」 |
| 10月 | 人間科学「母親学」 |
| 11月、12月 | 歴史「トロイの木馬について」 |
| 1月 | 自然科学「STAP細胞の真偽」 |
| 2月 | 倫理「トロッコ問題」、プレTOKエッセイ（2019年度11月セッション過去問） |
| 3月 | TOKエッセイ、プレゼンテーション準備 |

○各学期ごとの目標

- 1学期： TOK用語に慣れ、言葉の意味・定義について説明できる
- 2学期： 全員でTOK分析のためのディスカッションを行いつつ、知識を整理する
- 3学期： 個人でも限定的でありつつも、知識に関する主張や問いを立てることができる。知識の領域それぞれがもつ特徴・特性を枠組みから理解する。
- 4学期： プレエッセイから自分に不足している知識やスキルについて知り、振り返りを行う。

高校3年次

| | |
|------|-----------------------------|
| 4～8月 | TOKエッセイ準備、面談、執筆 (8/31提出) |
| 9月 | TOKプレゼンテーション準備 (9/25実施) |
| 10月 | 振り返り |

※高校3年次は基本的にエッセイ、プレゼンテーションの準備に取り掛かり、各生徒ごと差別化した指導を行った。

3 振り返り

○20期生DP全体傾向

20期生DP生は5名であり、全て文系の生徒であった。全体的にはそれぞれの生徒がお互いの意見を尊重しあうことができ、コミュニケーション能力が高い生徒たちで構成されていた。しかしながら、基礎学力の低さが原因によるThinkingやResearchスキルの低さはどの教科においても目立っており、TOKでも同様であった。

○授業について

TOKの用語を何も知らない生徒たちに指導するためには最低でも2か月は必要であるという実感をした。主な原因はTOK用語そのものがとても抽象的であり、なじみがないものであるため、どのようなものが正しいのかという感覚を共有しなければならないためである。理想的にはMYP段階から「知識が出来上がった経緯」を説明すると導入がスムーズである。私が担当する物理であれば、「ニュートンの3法則」はどのような経緯で発見されたのか？や、原子の周りを電子が周回しているモデルはどのようにして生まれたのか？などが例として挙げられる。教科書に掲載された知識は自然発生したわけではなく、人間が発見して精査してきた歴史があることを理解すべきである。これらを学習する中で、生徒がその知識の領域に対してどんな要素が深く関わっているのか具体的な例を提示することができ、抽象化されたTOKの議論をより深めることができる。

各知識の領域の分析のための実社会の状況は教員側で用意した。初年度は全ての内容を自前で作ることは難しかったこともあり、TOKの参考書籍である『国際バカロレア (IB) スキルと実践 知の理論』や『「知の理論」

をひもとくUNPACKING TOK』の実社会の実例を主に利用した。自然科学の分野は担当教科との関連も深いため、自分が特に取り上げたいと考えていたSTAP細胞を題材にした。

TOK分析の流れにばかり時間を取ってしまったことで、他授業との関連や現代の時事問題等に絡めた授業計画を立てることができなかつたことが反省点として挙げられる。特に、TOKの思考プロセスが各教科の内部評価と深く関わっているが、それらを反映できなかつたのは次年度以降の課題となる。また、TOKは文系、理系総合的なものの見方ができることが求められるが、どうしても担当教員の専門分野や得意分野に沿った取り組みや観点が色濃く出てしまう。担当教員だけでなく、DP担当の教員と議論し、生徒たちに差別化された柔軟なテーマ設定をした方が全体に最適化されるだろう。

○授業担当者総括的評価

・ 外部評価（エッセイ）

レベル3（合格点）以上が4人、レベル2以下が1人という担当者評価であった。高校3年次の多くの時間を個別面談のために費やし、個別最適を図った。多くの生徒に対して十分な時間をかけて個別最適化し、期限通りエッセイを提出することができたが、一部の生徒に関しては期限が迫ってきているにも関わらず構成から練り直す事態が発生したため指導が不十分な点があった。MYP段階から培ってきたATLスキル「自己管理スキル」や「情動スキル」の大切さを痛感する結果であった。どれほどポテンシャルが高い生徒であったとしても、全てのATLスキルが整っていなければIBDPの多くの課題を全てこなすことは難しいことを表していると言えるであろう。高校1年次までに基礎学力に加えてATLスキルの基礎を育てるための指導も大切である。

・ 内部評価（プレゼンテーション）

レベル3（合格点）以上が3人、レベル2以下が2人という結果であった。プレゼンテーションにかけた時間は2月時点で外国語コースの卒業生の動画視聴と4月の時点での説明、8月末からの1か月間であり、一人一人と2回ほど面談を行った。プレゼンテーションはエッセイに対して半分の配点であるため比重を軽くしていたが、結果としては考察が浅い生徒が目立った。よく見られた特徴は「ものの見方が一方向のみであること」、「知識そのものに対する分析ではなく、具体例に対する分析に終始してしまうこと」である。これらの特徴への指導には、エッセイ同様一人一人特徴を指摘し、個別最適化した指導が必要である。

・ IBOからの採点結果

秀光生のTOK評価は全員がC段階であった。TOKエッセイに関しては2名がD評価、3名がC評価という結果でありこれらの生徒についてはこちらの予想していたスコアとは異なる結果であった。

| | エッセイ（予想との差） | プレゼン | 最終スコア（ランク） |
|--------|-------------|------|------------|
| gyj277 | 3（-4） | 8 | 14（C） |
| gyj278 | 4（-2） | 3 | 11（C） |
| gyj288 | 4（-2） | 5 | 13（C） |
| gyj298 | 3（-2） | 6 | 12（C） |
| hzd094 | 5（+1） | 3 | 13（C） |

いくつか理由が考えられるが、主な原因として

- ・ 模範として示したTOKエッセイは7/10程度のもの（TOKワークショップin2018夏で示されたもの）であったが、得点の要素を抑えきれなかった。
- ・ カリキュラムの検討不足であり、授業によって深い分析力をつけることができなかった。
- ・ 採点官と自分の感性、着眼点の違い

などが挙げられる。TOKエッセイとTOKプレゼンテーションの点数比率は2:1であり、どれほどプレゼンテーション（IA）の点数が良かったとしても、エッセイの点数が悪ければ高得点につながらない。逆を言えば、プレゼンテーションがあまり良くなかつた生徒であったとしても、TOKエッセイである程度得点することができれば、全員にCランク以上（1点以上）の点数を獲得することが可能である。（今回の秀光生のスコアはエッセイの点数とプレゼンテーションの点数がある程度反比例するような関係性にあったおかげで全員がCランク以上獲得することができた経緯がある。）これらの経験を基に、担当教員の行うことは

- ・ TOKエッセイ採点基準標準化に向け、担当者評価の目を養う
- ・ 形成的評価の段階からの他教員との標準化作業
- ・ 良質な模範エッセイの獲得、分析

などが挙げられる。来年度以降はワークショップや議論の場への積極的な参加、教材研究の時間確保を踏まえてこれらの課題を解決していきたい所存である。

4 次年度（22期生）以降の指導に向けて

TOKでは、2020年度に比べて以下の点の改善を提案する。

- ・ TOK用語習得のためのロードマップの作成
- ・ 各授業担当者とのTOK授業案の協働設計
- ・ 成績上位者の事例の提示、生徒の目標認識

これらに加えて、各教科による学習内容の定着に加えてATLスキルの定着のためのアクティビティ、教科横断的・学際的な観点の育成が必要である。CPMではこれらの点を議論し、他教科の教員と情報共有しつつ授業展開を図るべきである。

5 まとめ

20期生より秀光では初めてIBDPの指導に挑戦した。生徒は基礎学力・ATLスキルこれらの全てがバランスよく必要とされ、TOK教員はDPのカリキュラム全体を俯瞰し、各教科の指導内容の把握やそれらをTOKの中でどう生かしていくかの具体案の提示などが求められる。今年度は特に各教員との連携が少なく、内部評価に入ってからTOKの大切さを痛感させられる場面が数多くあった。来年度以降はこれらの反省をもとにTOK教員が早めに授業計画の第一案を作成し、他教員からコメントを頂きながらブラッシュアップしていくことで相乗効果を図っていくことを期待する。また、TOKの外部評価であるTOKエッセイはワークショップ参加時にも参加者毎に点数が割れる現象が起こっており、素人目にはその点数を全て予想することは非常に困難である。しかしながら、指導の中でせめて点数の誤差を±1点に収めることは目指す必要がある。他IB校との連携や意見交換を密に行い、教員のレベルを上げていくことは今後の課題である。

6 参考文献

『「知の理論」をひもとく 第二版 UNPACKING TOK』，ふくろう出版，2017.

- 1) キャロル・犬飼・ディクソン他，
- 2) Wendy Heydorn, Susan Jesudason, 『TOK（知の理論）を解説する～教科を超えた知識の探究～』，Z会編集部，2016.
- 3) Sara Santrampurwala他，『知の理論 Theory of Knowledge』，Oxford，2015.

「国際バカロレアMYPとDPを活用した中高一貫教育の取組」

仙台育英学園IBチーフコーディネーター 高橋 郁夫

1 国際バカロレア（IB）を活用した中高一貫教育の取組

秀光中等教育学校は、平成15年に東北で初めて開校した“中等教育学校”として現在に至っていますが、平成8年に開校した秀光中学校を発展的に閉校し、全国で10番目の中等教育学校として誕生したものでした。仙台育英学園における中学校教育の歴史は、昭和23年に遡ります。仙台育英学園は仙台育英中学校（旧制）として開



復興のシンボル、新築された宮城野校舎

校し、戦後の学制改革により、昭和23年に仙台育英学園高等学校として再出発しましたが、同時に新制仙台育英中学校も併設しました。その後様々な社会的事情によって昭和31年に仙台育英中学校は閉校を余儀なくされました。したがって、秀光中等教育学校の誕生は、仙台育英学園にとっては、いつの日か中学校を再開し、6年間を通した中高一貫教育を行うという、創立者加藤利吉先生の理念を実現しようとする悲願が達成されたと言えます。

秀光中等教育学校の教育目標は、「高度な学力・豊かな感性・生涯学習者としての自覚を持ち、持続可能な社会の構築に至誠によって貢献するグローバルシティズン」の育成にあります。Language, Music & Scienceを教育の柱に掲げ、国際理解に欠かせない実践的な英語力を身に付け、世界共通の言語ともいえる音楽をとおして感性を磨き、科学の学習で探究力や問題解決能力を身に付けることで、世界で活躍できるグローバルリストとしての人材の育成を目指してきました。

秀光中等教育学校の教育の大きな特徴は、体験的・実践的であるところです。生徒は前期課程（中学校）で、カナダ（ヨーロッパやニューヨークの時もありました。）での異文化交流と様々なプロジェクトによって実践的に英語を学びます。また、入学時に必ず一つの楽器を選択し、演奏できるように在学中練習に励み、ニューヨークフィルハーモニックや仙台フィルハーモニーなどのプロの楽団との共演も経験します。科学については、大学教授による特別講座等に参加し、実験などを通して先端技術を学びます。その結果、英語のスピーチコンテストで優勝する、プロとして活躍する演奏家となる、また科学コンテストで金賞を獲得する生徒がおります。また、スポーツにも力を入れており、後期課程の卓球部が全国高校総体で優勝したり、前期課程の野球部が全国制覇を経験しております。



仙台フィルハーモニー楽団とのジョイントコンサート

令和3年4月から、秀光中等教育学校は、秀光中学校と仙台育英学園高等学校秀光コース（以下、秀光コース）での併設型中高一貫教育を実施します。

これは、平成30年4月に秀光中等教育学校が国際バカロレアの学習プログラムであるMiddle Years Programme（11歳～16歳までを対象 以下、MYP）の認定校になったことに伴い、IBによる6年一貫教育体制を整備するためです。そのため、令和元年からは秀光コースで国際バカロレアの学習プログラムであるDiploma Programme（16歳～19歳までを対象 以下、DP）を開講しました。Language, Music & Scienceを教育の柱として世界で活躍できるグローバルリストの育成を目指してきた秀光中等教育学校をさらに発展させるため、国際バカロレアのMYPとDPによる連携を活用した中高一貫教育を進めています。

2 何故国際バカロレア（以下、IB）なのか

1) IBとは

IBは、スイスのジュネーブにその本部をもち、もともとは国連等の国際機関で働いている職員の子弟の学力保証を目的として開発された教育プログラムです。国際的に通用する大学入学資格（国際バカロレア資格）を与え、大学進学へのルートを確保することを目的として設立されました。現在では世界で5,000以上の学校で採用されており、Primary Years Programme（3歳～12歳までを対象 以下、PYP）、MYP、DPに区分され、世界の複雑さを理解し、そのことに対処できる生徒の育成を目指しています。また、未来への責任ある行動をとるための態度やスキルを身に付けることにも力を入れています。まさに、混とんとした先の見通せない21世紀を生き抜くために必要とされる学習プログラムだと言えます。

2) デュアルランゲージディプロマプログラム（以下、DLDP）

平成26年、教育再生実行会議は「国は、国際バカロレア認定校について、一部日本語によるディプロマプ

プログラムの開発・導入を進め大幅な増加（16校から200校）を図る」という第3次提言素案を示しました。これを受け、文部科学省と国際バカロレア機構（以下、IBO）が交渉し、DP 6科目のうち2科目が英語、それ以外は日本語で授業が可能という日本語DPいわゆるDLDPが公式に承認されることになりました。それまではほとんどインターナショナルスクールでしか開講されていなかったDPが、1条校でも認定を受けることが可能になったのです。この決定を受けて、仙台育英学園高等学校は平成27年2月に日本で初めてDLDP認定校となりました。当初は仙台育英学園高等学校外国語コースでの開講となりましたが、令和元年度からは秀光コースでもDPを開講して現在に至っています。さらに、平成29年度に秀光中等教育学校でMYPの授業を開始、翌年正式にMYP認定校となりました。これも東北では初めてのことです。

3) 何故IBなのか

仙台育英学園の創業者である初代加藤利吉先生は、日露戦争に従軍し、頭部に銃弾を受けて生死の境をさまよう経験をしました。その時感じたことは、戦争の悲惨さと愚かしさでした。学校をつくり、教育の力で若い有為な人材を育て、世界平和に貢献できるようにしたいという強い思いから、仙台育英学園の創立を決意したのです。そして、世界で活躍できるようにと、創立当初から英語教育に力を入れて指導しました。その後も創立者の理念を受け継ぎ、仙台育英学園は国際交流を推進してきました。海外研修や留学の奨励によって多くの生徒を海外に送り出すとともに、海外から留学生を招き日本の教育を提供してきました。現在では世界に100校を超える姉妹校があり、200名以上の留学生を中国、韓国、インドネシア、タイなどから毎年受け入れています。文字通り仙台育英学園にはグローバルな教育環境が整っていると言えます。このような本学園の教育目標や取り組み・現状はIBの使命、すなわち、「多様な文化の理解や尊重の精神を通じて、より良い、より平和な世界を築くことに貢献し、探究心、知識、思いやりに富んだ若者の育成を目的としています」や「人が持つ違いを違いと理解し、自分と異なる考えの人々にもそれぞれ正しさがあると認めることのできる人として、積極的に、そして共感する心をもって生涯にわたって学び続けるよう働きかけています」とその理念を共有しています。

この現状認識が、MYPとDPによる連携を活用した中高一貫教育を目指すことにした主な理由です。秀光中学校と秀光コースは、6年間の一貫教育でIB教育を推進し、世界平和に貢献できるグローバルリストを育てることを目標にしています。

3 グランドデザイン

MYPからDPという系統的な教育プログラムを導入し、秀光中学校と秀光コースの連携を図る試みの土台となるのは、秀光中学校・秀光コースのグランドデザイン（別紙参照）です。これは、いわば秀光中学校・秀光コースの未来の設計図です。本校の教育目標である「高度な学力・豊かな感性・生涯学習者としての自覚を持ち、持続可能な社会の構築に至誠によって貢献するグローバルリストの養成」を、本学の建学精神「至誠 質実剛健 自治進取」、さらにIBの使命と融合させることにより所期の目標を達成しようというものです。そこで、教育目標を達成するための人財が備えるべき3BEを設定しました。

- 誠実で自信を持ち、グローバルな視点で意見を発信できること。
- 学びに対して責任を持つこと。
- 地域社会と国際社会における諸問題の解決に革新的な態度で取り組むこと。

3BEというのは上記下線部を英語（Be sincere and confident～、Be responsible～、そしてBe innovative～）に訳したものです。3BEを体現するため、開校以来本学園が生徒に実践を求めてきた生活信条七か条とIBの学習者像、学習方法（ATL、後述参照）を「人間性」「学びに向かう力」の両面に分け、お互いにその力を高めあって6年間のをとおして育成・修得に努めることとしています。

4 CPM（協働計画会議）

作成されたグランドデザインを具体化していくためには、まず教員がグランドデザインの内容と目的を理解し、その達成を目指して日々の教育の中で実践していく必要がありました。そのため、それまで不定期に実施していた協働計画会議（CPM）を平成30年度から定期的（毎週火曜日放課後）に開催し、グランドデザインとMYP教育実践についての情報を共有し、意思統一を図りながら理解と質的向上に努めています。

CPMのCは協働的の英語collaborativeの頭文字です。IBではグループで活動することが多く文字通り“コラボ”して学習に取り組みます。

IBの第一の特徴は、探究型・構成主義的な学習プログラムであるということ、いわゆるアクティブラーニングです。生徒は自分たちで調査し、ディスカッション等をおして学びを深め、自分の考えをまとめて口頭あるいは記述して発表します。IBの学習サイクルは探究（Inquiry）➡行動（Action）➡振り返り（Reflection）です。CPMの中では、テーマに沿ってグループで話し合い、意見を発表して全体で共有するというIBの学習方法に沿った形で協議が行われました。これにより、教員はIBの学習方法を、自然に身をもって知ることができま



文化祭での発表

す。

さらに教員間の情報共有の強い味方は、2020年4月に教員全員に学校から配布されたPC（surface）とコミュニケーションハブとしてのアプリケーションです。Microsoft Teamsがインストールされ、個人あるいはグループでチャット、テレビ電話によって情報交換・共有が可能となりました。おりしもコロナ感染が拡大し、臨時休校や分散登校を余儀なくされましたが、このシステムとZoomのおかげで、オンラインで授業に参加したり、職員が打ち合わせや会議をしたりすることができました。先日行われたCPMでは、DPの振り返りが行われましたが、各自がPCの画面を見ながら、ひとりずつ自らの教科について振り返りを行い、意見交換が行われました。CPMを経験し指導する教員自身が探究型の学習方法を身に付けていることを実感させられるような会議でした。

5 MYPとDPをつなぐ学習

IB教育の次の特徴は、「学際的な学習」ということです。同じ要素を各教科がそれぞれ取り扱うことで、その要素が強化された形で生徒の学びとして蓄積されていきます。毎週開催されるCPMで取り上げたそれらの要素について説明します。

1) 評価

IBの評価には総括的評価と形成的評価がありますが、国の評価基準と整合が図られています。

- A) 総括的評価は、評価基準や生徒の達成目標に準拠して行われ、ペーパー試験、レポート、プレゼンテーション、パフォーマンスなど、教科の特性を生かした評価方法を組み合わせることで達成状況を数値的に表します。各教科の評価はMYPの4観点（A B C D）と学園が定める観点E（国が定めた観点 関心、態度、努力）によって行われ、いずれも達成目標に準拠した絶対評価です。この評価は学期末に行い、年度末に最終評価を実施します。
- B) 形成的評価は定期的に複数回行われますが、最終的な評価に直接つながるものではありません。生徒の各段階での状況を確認し、今後の学習の方向性を定め、自らの可能性を最大限に伸ばしていくための学習方法改善に活用します。ディスカッション、アンケート、記録日誌など多様な方法が取られます。評価については、IBの理念と国の学習指導要領、学園の教育目標を十分理解したうえで指導と評価の一本化を構想して実施します。公平・公正な評価実施のためには、学校として統一した取り組みが必要であり、CPMの中で調整が図られています。

2) 概念理解



MYP授業風景

概念とは、時間を超越した、普遍的、抽象的、1～2語、もしくは短い言い回しであらわされたもので、「生徒は新しい知識を作り出す際、規則や関連性を探します。その過程で概念は総合的なレンズの働きをして、教科内、または教科を横断して考えの転移を促します。」（Erickson）とあるように、たとえば、英語で扱われた「変化」という概念が、個人と社会でも扱われれば学際的な学びとなり、「変化」という概念が「転移」します。

MYPでは16の「重要概念」（美しさ、変化、コミュニケーション、コミュニティ、つながり、創造性、文化、発展、形式、グローバルな相互作用、アイデンティティ、論理的なものの見方、関係性、システム、時間・場所・空間）があります。また特化した、教科に焦点と深みをもたらす、より広範な「関連概念」があります。「重要概念」は各教科に4つずつ割り当てられており、「重要概念」と「関連概念」を学年横断的に、そして教科横断的に学び、生徒は「持続的で体系的な探究を通じた知識体系」（MYP基準と実践）を構築していきます。

3) グローバルな文脈

IBのプログラムは、グローバルな文脈を通して国際的な視野の拡大を意図します。それが生徒に意義深い学習経験を与え、「なぜこれを学んでいるのか」という問いに答えることにつながります。さらに地域、国内、国際的な問題を探究し、それらがグローバルな問題とどういう関係にあるのか読み解くスキルや価値観を育てます。グローバルな文脈には

- 1 アイデンティティと関係性
- 2 空間的・時間的位置づけ
- 3 個人的表現と文化的表現
- 4 科学技術の革新

5 グローバル化と持続可能性 6 公平性と発展
の6つがあり、教員はこれらの「重要概念」「関連概念」「グローバルな文脈」を組み合わせ、「探究のテーマ」や「探究の問い」を設定し、ユニットプラン（単元計画）を作成します。

4) ATLスキル

これは学習の方法（アプローチ）と呼ばれるもので、MYPでは学習にはどのようなスキルが必要かということによって表しています。この枠組みには 1 コミュニケーションスキル 2 探究スキル 3 思考スキル 4 社会的スキル 5 自己管理スキル の大枠のスキルがあり、この枠組みがさらに細分化されています。このATLスキルも単元の学習計画の中に組み入れ、年間計画の中で生徒が身に付けられるよう割り当てます。

この1) から4) の学習はMYPとDPをつなぐ強力なリンクとなります。CPMで共通理解を持つことにより、さらに連携が深めることが可能になっています。

6 トライアル

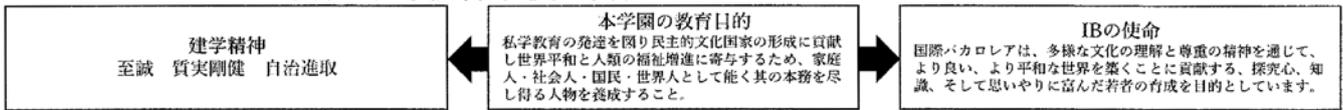
DPは2年次からのプログラムですが、秀光コースでは1年次の12月からガイダンスやいくつかのDP科目についてトライアルを実施しています。秀光コースでは原則的に2年次からDPを学ぶことになっていますが、このトライアル期間で自分にDPの授業が合っていないと感じた場合は他コースに転コースすることができます。また、逆に他コースから秀光コースDPを受講することも可能です。12月に面接試験を実施し、合格すれば秀光コースでDPトライアルが受けられるようになっています。また、DPをすべて英語で受講したい生徒は別の校舎で受講する道もあります。さらに、秀光コースは医薬学系の進学指導に伝統があり、指導のノウハウを持っていることから、令和3年度から医歯薬系進路志望者のための特別クラス「MAP」を設置する計画であり、秀光コースの1年次生は、2年次にMAPを選択することも可能になります。

7 まとめ

秀光中等教育学校で培われた中高一貫教育の伝統と実績を、IBのMYPとDPの連続による更なる発展として生かすため、令和3年度から秀光中学校・秀光コースに改組してIBスタイルの学習を中高一貫で実践し、社会に、そして世界平和に貢献できるようなグローバルリストの育成を目指していく所存です。

生徒が4年間のMYPの学びの上に高校2年からのDPを積み重ねて卒業するまで、まだしばしの時間が必要ですが、これまでのMYPの生徒の学習成果を記録したビデオをご覧ください。下記のURLからご覧いただければ幸いです。

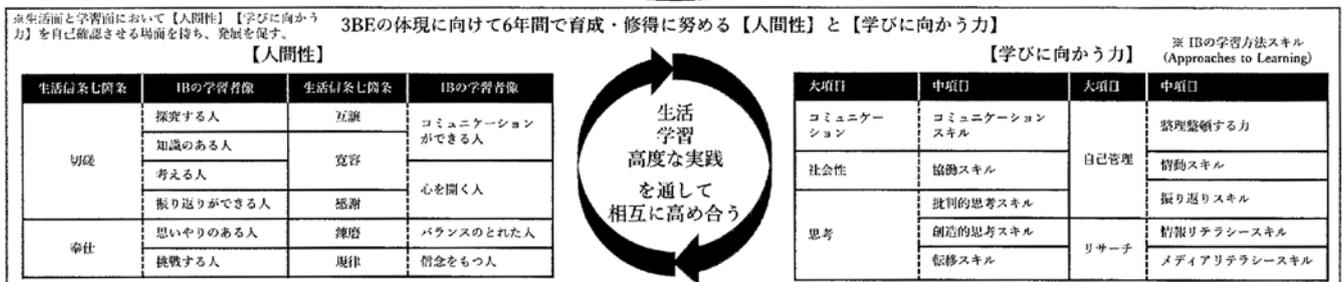
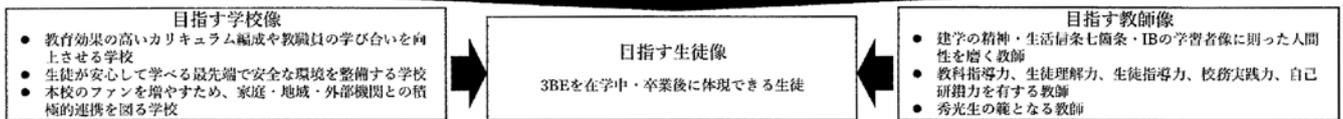
<https://www.sendaiikuei.ed.jp/shukoh/admission/opencampus/>



本校の教育目標
「高度な学力・豊かな感性・生涯学習者としての自覚を持ち、持続可能な社会の構築に至誠によって貢献するグローバルシティズン」の育成

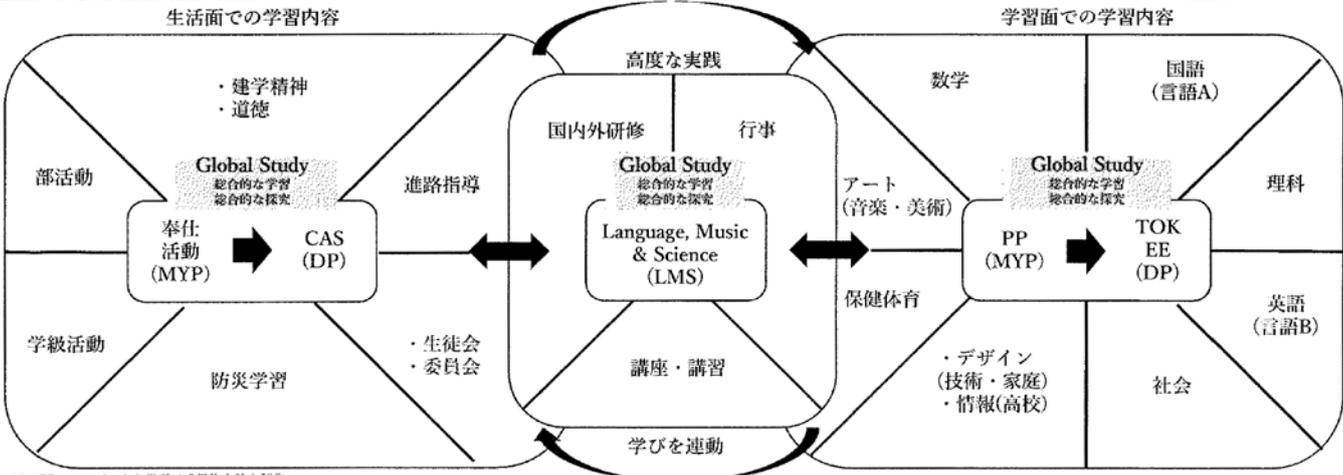
教育目標にある人材が備えるべき態度：3BE

| | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 誠実で自信を持ち、グローバルな視点で意見を発信できること。 ● 学びに対して責任を持つこと。 ● 地域社会と国際社会における諸問題の解決に革新的態度で取り組むこと。 | Be sincere and confident global communicators. Be responsible in our learning. Be innovative in addressing local and global issues in our community. |
|--|--|



| 学年別到達目標 | | | | | | |
|---------------------------|---|---|---|---|---|---|
| 重点項目 | 中学1年生(MYP) | 中学2年生(MYP) | 中学3年生(MYP) | 高校1年生(MYP) | 高校2年生(DP・DPコラポ) | 高校3年生(DP・DPコラポ) |
| 【人間性】と【学びに向かう力】 | ◎【人間性】の内容把握と実践に努める。 ◎特に「自己管理」「コミュニケーション」を定着させる。 | ◎【人間性】の理解と実践に努める。 ◎特に「自己管理」「リサーチ」を定着させる。 | ◎【人間性】の理解と意識的に実践に努める。 ◎特に「自己管理」「社会性」を定着させる。 | ◎【人間性】で特に苦手部分を克服できるよう取り組む。 ◎特に「自己管理」「思考」を定着させる。 | ◎【人間性】で特に得意部分を伸ばせるよう取り組む。 ◎特に「自己管理」「コミュニケーション」「リサーチ」を向上させる。 | ◎【人間性】を自発的に発揮する。 ◎特に「自己管理」「社会性」「思考」を向上させる。 ◎6年間で【人間性】【学びに向かう力】がどのように伸ばしたかを振り返り、意義やノウハウを下級生に伝える。 |
| 秀光生としての態度と教養 | ◎建学精神と秀光を知り、学級・学年の員として集団行動に励む。 ◎身近な世界の諸問題を知り、自己を見つめ直す。 | ◎秀光生の一員である自覚を持ち、中1の“良き手本”となる。 ◎地域・国際社会の諸問題を知り、意見を発信する。 | ◎中2の生活・学習習慣向上を支援し、中2の“良き手本”となる。 ◎身近な世界や地域・国際社会の諸問題と向き合い、解決策を議論する。 ◎LMSで育まれる国際的教養の価値を理解する。 | ◎中1の生活・学習習慣定着を支援し、中1の“憧れ”になる。 ◎身近な世界や地域・国際社会の諸問題に関する議論をもとに、解決策を提案する。 ◎LMSで伸ばす分野を見つける。 | ◎高3と協力しながら、秀光の伝統を発展させる。 ◎身近な世界や地域社会の諸問題を発見・分析・評価し、解決に取り組む。 ◎LMSの分野でオリジナルな見方・考え方を発見する。 | ◎下級生と協働することで“秀光”の伝統を創造する。 ◎身近な世界や地域・国際社会の諸問題に潜む「本質的な問い」を考え、オリジナルな理論を創造・検証する。 ◎LMSの学びを転移させる。 |
| キャリア意識 ※“夢”=世界で自分が果たしたいこと | ◎職業研究を行い“夢”を考え、目標を立てる。 | ◎職業・進路研究を行い、“夢”達成に向けた具体策を考える。 | ◎職業選択・適性・入試システムも含めた進路研究を行い、“夢”を意識した進路計画をたて、進路達成に努める。 | ◎留学生と国際的視野を並び、“夢”とリンクした大局的なキャリア観を持つ。 | ◎“夢”と密接にリンクした大局的なキャリア観を有し、現実的なキャリア計画を作成する。 | ◎“夢”と密接にリンクした大局的なキャリア観を有し、自らのキャリア計画に基づき進路達成に努める。 |

カリキュラムの全体像



※PP、EE：プロジェクト学習で成果物や論文制作
 ※TOK：私たちが「知っている」と主張することを、いったいどのようにして知るのかを考察
 ※CAS：C(創造的思考を伴う芸術などの活動)、A(DPでの教科学習を補完し、健康的なライフスタイルの実践を促す身体的活動)、S(学習に有益であり、かつ無報酬で自発的な交流活動。)

I 研究報告

(1) 秀光中学校・秀光コース オンライン授業実践報告

秀光中学校 ICT推進委員 小保内 陽大

1 はじめに

秀光中等教育学校、仙台育英学園高等学校秀光コースにおいては、新型コロナウイルス感染症対策としてZoomや様々なアプリケーションを利用したオンライン授業を実施してきた。オンラインでの実施であっても、IB教育を能動的に学習するために工夫された国語、数学、物理の3教科でのオンライン授業実践について報告する。

※それぞれの実践事例をまとめた動画は学園HPに掲載

2 国語の実践事例について

2.1 授業概要

学 級：秀光コース 第1学年 14名

授 業 者：横山 佳絵

教 科 名：文学A (JapaneseA)

単 元 名：introduction

unit 1—Part 1 「家族とはどのように定義できるか」

教 材：introduction

・米津玄師「lemon」

unit 1—Part 1 「家族とはどのように定義できるか」

・小川洋子『博士の愛した数式』/よしもとばなな『キッチン』

使用端末：surface、MacbookなどのOwn PC

2.2 授業内容

DPトライアルでは高校2年生からのDP履修に備え、IBの理念、DPの学び、DP文学で学ぶことについてのガイダンス授業を行っています。introductionとして文学探究の一つの要素であるシンボルの表現効果について、米津玄師「lemon」を使って練習をしました。

unit 1では『博士の愛した数式』（小川洋子）『キッチン』（よしもとばなな）『ヴェニスに死す』（トーマス・マン）を扱います。まずPart 1『博士の愛した数式』では家族とはどのようなものかについての探究を大きなテーマにしてテキストを解釈、分析していきます。今回の授業はintroductionの文学Aの授業で学ぶことについてのガイダンスから『博士の愛した数式』の初回の授業となります。



図1 introductionとして行った米津玄師「lemon」についてのグループディスカッション/Miro

2.3 授業の流れ

2.3.1 DP文学ガイダンス

前回までにDP 2年間の流れ、文学の授業で探究していく概念や探究の領域についてガイダンスを行っており、今回の授業では文学の授業で学習する大切な要素の3つ目「グローバルな問題」についてのガイダンスと試験に関わる「command term（指示用語）」のガイダンスを行っています。

【授業をするうえでの工夫】

ガイダンスの授業はこちらから情報を与える講義形式になってしまうことが多いので、事前に資料を共有すること、教員が説明した内容についてこまめに感想を聞いたりしながら生徒の理解度を確認して次の説明に移るようになっています。



図2 ガイダンス資料/Prezi

2.3.2 unit1『博士の愛した数式』

今回は『博士の愛した数式』の初回授業です。事前に予習精読プリントを共有しており、各自予習してきたことをグループで共有し、ディスカッションするという流れです。グループワークはZoomのブレイクアウトルームを利用し、グループディスカッションの記録にオンラインホワイトボード、Miroを利用しています。また、Miroの中にReflectionスペースを設け、授業終了後に他のメンバーの意見を聞いて、気づいたことや自分の考えに影響を与えたこと、それを受けて最終的に自分がどう考えたかという思考の過程を振り返って記入するように指示しています。

今回の授業では登場人物の人物像、人物関係、人物の設定の意味（「博士」はなぜ80分しか記憶が保てないという設定にしたのかなど）について予習したことを共有し、グループディスカッションをしています。今後は登場人物について理解したことをレポートとして1200字程度で記述する課題に取り組むことになります。



図3 『博士の愛した数式』 グループディスカッションのReflectionスペース/Miro

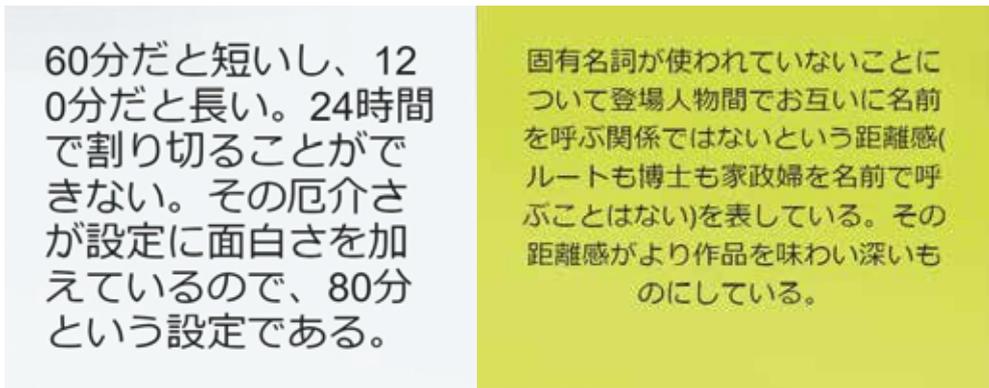


図4 『博士の愛した数式』について生徒の意見の一例/Miro



図5 『博士の愛した数式』登場人物についてレポート課題とルーブリック（評価基準）

【授業をするうえでの工夫】

Miroを使うと、生徒は自分の意見を打ち込むことに集中してしまいがちなので、各グループを回り、Miroに記入すると同時に話し合っって考えを深めることを促すようにしています。

2.4 オンライン授業の効果

Reflectionに取り組む生徒が多くなったように思います。対面授業だと授業終了後、改めてパソコンを開いたり、別紙に振り返りを記入したりという手間がありました。メモもReflectionスペースも全てオンラインに集約されることで手間が省け、授業が終わったらすぐに振り返りを記入するという習慣ができたと思います。IBでは振り返り（知識の定着のための復習や思考の過程の整理）をととても大切にしているので、授業中に出た意見と振り返りが集約されたことは良い効果だと考えます。

3 数学の実践事例について

3.1 授業概要

学 級：秀光コース 第1学年 14名

授 業 者：小保内 陽大

教 科 名：Mathematics Analysis and Approaches

単 元 名：Trigonometry (三角比)

授業のねらい：Relationships in space: geometry and trigonometry in 2D and 3D

使用端末：Surface,MacbookなどのOwn PC

3.2 授業内容

生徒はピラミッドや太陽と金星の距離などを例に、三角比が実生活においてどのように利用されているかを考えました。本時の授業では、導入として前回の振り返りと、自分の好きなトピックと数学の関連について簡単なプレゼンテーションを行います。その後のグループワークでの演習ではDesmos Activity Builderを利用し、生徒の進捗を一覧表示と自動採点で確認することで、コメントや解説をリアルタイムで行います。授業後には生徒の質問や回答をピックアップして、15分程度の振り返り動画を配信します。この動画を視聴した生徒のリアクションやコメントを確認し、次回の授業構成に活かしていきます。

3.3 授業の流れ

3.3.1 導入とグループワークでの演習

毎回の導入部分のスライドでは「あなたの理想的な数学の授業は?」「今日はどんな気分ですか?」「あなたがよく知っているトピックを3つ挙げてください。」といったテーマで簡単なプレゼンテーションを行うことで、互いの価値観や考えを知るためのチームビルディングを行います。ブレイクアウトルームを利用したグループワークでの演習では、生徒同士の会話を大切にするために、Desmos Activity Builderを用いて事前に設定した自動採点機能によって生徒の進捗をリアルタイムで確認し、コメント機能でのヒントや良い回答・興味深い回答のピックアップを行います。その後は、Snapshots機能を用いていくつかの回答をピックアップして比較や解説を行います。

【オンライン授業の効果】

グループワークが対面からビデオ会議ツール（Zoom）に変更となっている点以外は、普段とほぼ同じ形式での授業となっています。オンライン授業で自動採点を行うためには、PCやキーボードの操作に加えて、普段の授業内でアプリケーション（Desmos）の使用方法に慣れておく必要があります。事前の準備によって普段通りの授業が実現しました。



図6 授業の流れ

3.3.2 単元の振り返り

授業は生徒の話し合いとアウトプットを中心に行うため、他のグループの意見や正しい回答を共有する必要があります。そのため、授業後に15分程度の振り返り動画を配信し、生徒が疑問に思った内容や良い回答をピッ

クアップして詳しく解説していきます。「Loom」を用いることで、生徒は解説動画に絵文字を用いたリアクションやコメントをすることができ、その内容を基に次回の授業の内容や導入の振り返りを考えていきます。

【オンライン授業の効果】

リアルタイムで生徒の回答を確認できるツールを導入することでアウトプットを中心とした授業が実現するとともに、生徒の授業記録を後からピックアップしてまとめることでクラス全体でのアイデアの共有が実現しました。教員が準備した解答を解説するのではなく、生徒のアイデアを取り上げて比較することで、より深い理解や気付きにつながり、集中力の持続しにくいオンラインでの授業でも主体的に取り組むことができています。



図7 オンライン授業を実施する上で心がけていること

4 物理での実践事例について

ここでは、仙台育英学園高等学校秀光コース1M1における授業実践例を紹介する。

4.1 予備授業

動画プラットフォームYoutubeに自作の授業動画をアップロードし、事前学習を行う。投稿した動画はマイリストに登録し、いつでも生徒が確認できるようにする。動画撮影には自前のスマートフォン（iPhone11）を利用し、動画編集にはInShot、Adobe Premiere Pro、iMovie、Vrew等のアプリケーションを利用し、必要に応じて字幕やワイプを入れるようにする。また、編集が手間である場合にはOBS Studioの録画機能を利用し、直接マルチタスクの動画を撮影する。OBS Studioは編集の手間がないため、補足説明など簡易的な説明をするときに重宝している。



図8 予備授業動画の例

4.2 事前準備

授業で使う教材については、Google Driveにて共有している。このため、生徒は必要に応じて印刷を行う、あるいはプリントをwordファイルでダウンロードし、自分のデバイスを利用して直接書き込みを行うことができる。

4.3 オンライン授業

(導入) 重要概念確認・作業説明 (5分)

基本的にはシミュレーションを用いたアクティビティベースで行う。まずは、事前共有した自作プリントをZoomの画面共有機能を利用して、重要概念確認やアクティビティの内容など最低限の説明を行う。

(展開) グループ作業 (30~40分)

指定したWebサイトにアクセスし、グループ毎にアクティビティに取り組む。グループ分けは教員がランダムで指定したブレイクアウトルーム機能を用いて、毎時間別のチームを作っている。物理で主に利用しているシミュレーションサイトにはPhET、Geogebra、高校物理CG動画教材、Desmos、JavaLabなどが挙げられる。特にGeogebraは簡易的にシミュレーションを作成し、必要に応じて拡張現実 (Augmented Reality) 機能を用いるこ

ともできるため優れていると考えている。これらのサイトによって得られたデータをGoogle Spread SheetやExcelによる数値解析によってグラフ化したり、プリントにまとめたりする。この間ブレイクアウトルーム間を行き来し机間巡視の代わりを行う。

(振り返り) グループ別発表 (10分)

メインルームに戻り、それぞれのグループの代表者が結果を共有してもらいつつ発表を行う。このとき結果に不具合等がある場合には、他の生徒や教員が質問をしながら探究を行う。

全て終了後次回に向けたアナウンスを行い、終了する。



図9 授業内グループ別発表の様子

4.4 自宅学習

授業や学習によって生まれた質問には、Slackを利用して回答を行う。高校1年生だけではなく、同じグループ内に上級生も含まれており、質問・回答の共有ができるようになっている。また、直接教員に匿名でも質問ができるフォームも用意している。



図10 Slackによる質問回答例

4.5 形成的評価

Google Formを利用した小テスト³を実施している。自動採点機能を利用して正答率が70%に満たない生徒には補習を行う。

4.6 総括的評価

IBMYPのカリキュラムに則りA～Eの5観点で評価する。それぞれの観点を主に以下の総括的課題を利用して評価している。

| 観点 | 総括的課題 |
|------------------|-------------------|
| A 評価「知識と理解」 | 定期考査、実験計画書、実験レポート |
| B 評価「探究と計画」 | 実験計画書 |
| C 評価「手法と評価」 | 実験レポート |
| D 評価「科学的影響の振り返り」 | エッセイ |
| E 評価「学びに向かう力」 | 関心・意欲・態度 |

※一学期には重力加速度測定の実験を行い、それに関する実験計画書と実験レポートを総括的課題に設定した。

実験中は生徒持参のデバイスを利用して動画撮影を行っている⁴。

4.7 効果と課題

IBMYPでは、知識の定着だけではなく、ATL (Approach to Learning) スキルと言われる質の高い学びを実現するためのスキルの形成も求められる。ICTを利用した学びには、コミュニケーションを促進する、必要な情報を収集し記録するリサーチスキルの育成など、ATLスキルを育てるための要素が含まれていると言える。デバイスさえあれば場所を選ばず同質の学びを行うことができるため、休校措置に悩まされる心配はない。

シミュレーションを利用した授業では、説明や実際に実験することが難しい事象においても理想的な状況を実現することができる。実際に、生徒の声からもとても学びになったという声が全体の87.5%という結果を得ることができた。また、シミュレーションを用いることで実験に必要な解析のスキルを身につけることもできたため、MYPの観点B, Cに対して学びを深めることができた。普段から対話重視の学習を行っていることもあり、総括的課題の実験レポートでは能動的に他グループの実験結果と自分の実験結果を比較した考察も見られており、協同学習の成果も見られた。

小テストは家でも行うことができ、時間を使って学習に取り組むことができるため、不明な点を自ら調べ学習する習慣づけや目標を明確化することができる。アクティブラーニング主体や遠隔授業のスタイルでは、知識の定着が課題となるが、生徒の学習定着度が視覚化される取り組みは今後も継続していくべきである。

一方課題として見えてきた点もある。事前学習の動画は集中力維持の観点から10分以内の動画製作を主としてきた。学力下位層に対してはある程度の効果があるものの、教科書を読んで一から理解できる生徒にとっては動画視聴へのモチベーションにつながらなかった。動画製作には編集も含めて一本あたり平均2時間程度の時間がかかるため、現状の運用ではコストパフォーマンスの点で改善余地がある。

加えて、オンライン授業内での良質な問題演習については見出しきれていない。Classi NoteやGoogle Documentを利用したクラウドサービス上にノートを作り、提出されたものに対して添削する方法もあるものの、タッチペンの使用状況や紙に記入した内容を改めてアップロードしなければならないなど手間がかかることは否めない。

このように協同学習を促進する、簡易的に重要概念を理解するための方法は定着させることができたものの、授業動画の運用や通常授業で行われる問題演習の質の向上はこれからの課題である。

4.8 今後の展望

授業動画の運用について挙げられた問題については、Edpuzzleと呼ばれる動画内にいくつか質問を埋め込むことができるサービスを利用して解決できる可能性がある。生徒それぞれの質問への回答結果や視聴状況も管理することができるため、自宅で回答してもらった内容を元に授業内で議論することも可能である。この場合、事後学習ではなく事前学習の段階から生徒の学習定着度を把握し、柔軟に授業展開を行うことができる。

問題演習については、全員一斉授業を諦め、個人の弱点に合わせたアダプティブ・ラーニングができるアプリ

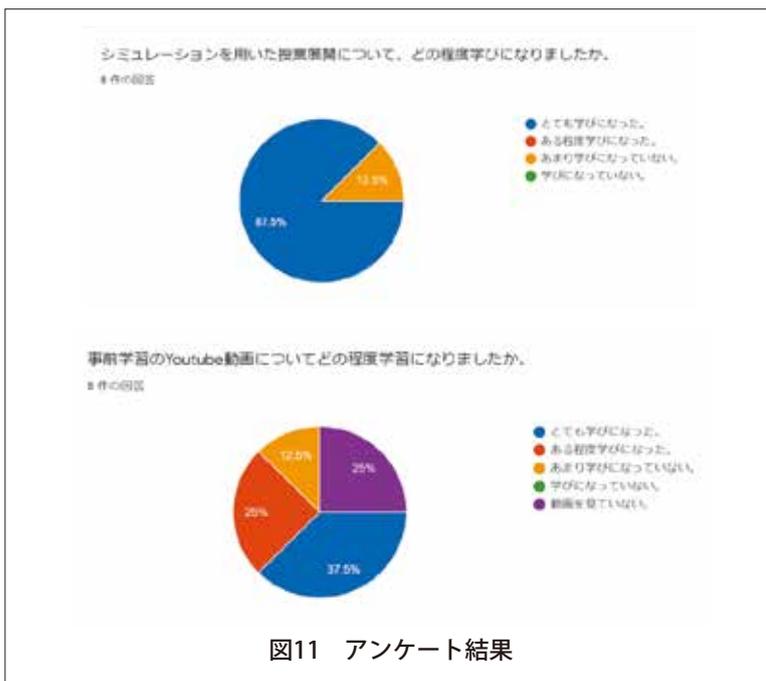


図11 アンケート結果



図12 Edpuzzle動画学習の例

ケーションの利用もアイデアの一つである。現在ClassiもKnewtonと提携し、問題をレベル別にレコメンドすることができる機能が搭載されているものの、問題数が少なく未だ上手く機能していない状態である。他サイトを利用する場合、ck-12も候補に挙がるがこちらは言語が英語であるため、日本語のテストと合わせると混乱する可能性がある。このように、未だいくつかの問題を抱えてはいるものの、Classiのアダプティブ・ラーニングについて、問題数の充実やAIの性能が向上された場合、授業時間内の問題演習の時間をできるだけ少なくすることはできるかもしれない。

また、シミュレーションの質の向上も授業力向上の要素の一つである。今後の展望として、Unityと呼ばれる自作ゲームを作成することができるソフトウェアを授業内に組み込むことができないかと検討している。このソフトウェア内では現実の物理現象をプログラミングにより再現することができる。これを用いればゲームを行いながら物理を理解できるようになるかもしれない。また、生徒がプログラミング技術を習得すれば、課題の中で各々がゲームを作成し評価し合うようなことができるかもしれない。このUnityは現在実際のテレビゲームやアプリ開発にも利用されているソフトウェアであるため、キャリア形成につながる可能性が高い。

4.9 まとめ

オフラインで行っていたことをどのようにオンライン授業で再現するかという論点から抜け出し、場所を問わず良質な教育方法を提供するためにはどのような取り組みを行ったらよいのかという観点を持ち授業展開を行った。シミュレーションサイトを用いた授業展開によって、場所を問わず能動的に学習することができるようになった。また、オンライン会議ツールを用いて授業時間内で他生徒と協同学習できる環境づくりは十分成功したと言える。今後はAIを活用したアダプティブラーニングによって自宅で自分にあった問題演習やソフトウェアの開発を通して、生徒が自ら学びに向かう力を育てていきたい。

(2) 『先輩、教えて下さい!』 ～ICT活用からOn-Line授業へ～

特別進学コース 教諭 御代 力夫

3年前の冬(2018年2月)、あるテレビのトーク番組で出演者の一人であった阿川佐和子さんがこんな事を言っていた。「年を取ると後輩だらけになってしまうので、新人として扱ってくれる世界に入って、周囲を自分の先輩だらけにしたいのよ。」と…。

－ 自分の周りを先輩だらけに －

まさにその時の自分がその立場であった。公立高校の退職時に声をかけていただき、現在の職場に来てもう4年目になったが、周りを見れば年上はもちろん年下の先輩も大勢いて、毎日鍛えられている。何より楽なのは「～について教えてください。」と堂々と言えること。これが実は壮年期におけるICT活用の授業を進める上で、とても重要である。どこの職場にも、見渡せばPCに詳しい若手教員が大抵二人や三人はいる。だから、もしもわからないことがあったならば、「先輩、教えて下さい。」と即座に聞けばよいのだ。

職場(宮城野校舎)にはホワイトボードと電子黒板が各教室に設置されており、いつでもICTを活用した授業が可能である。五、六年前のことになるが、勤務していた学校の先生方が手作りのキャリアで小さいスクリーンと移動式のプロジェクターを教室に持ち込み、工夫しながら素晴らしい授業を実践していたのを覚えている。その様子を見ながら、自分もやってみたくてずっと思っていたので、新しい職場で挑戦してみたのだ。まずは、必須の知識としてPower Point(以下PP)は欠かせないが、実は一度も使ったことがない。初心者用の解説本を2冊買い込んで読んでみた。スライドのデザインはできるようになったが、機能の使い方がよくわからない。諦めが頭に浮かび始めた頃に、たまたま安河内哲也氏(東進予備校英語講師)の講演を聞く機会があった。その時、「パワポはアニメーションさえ覚えれば何とかできます!何より授業が活気づきますよ。」という言葉に耳にした。この発言を頼りに再び挑戦することになり、わからない時は、すかさず若手の力を借りて対応することにした。スライド作成の際のアニメーションの指示、音声ファイルの貼り付け、音声トリミングの方法など、不明なことがあればすぐに聞いた。また、若手教員も嫌がらず、根気よく付き合ってくれた。ありがたかった。3年経過した今でも、沢山教えてもらっている。昨年11月、校内でPPによるスライドを取り入れた研究授業を行う機会をいただいたので、日頃の恩返しのつもりで引き受けた。実践しているのは所謂、伝統的な訳読中心の授業であるが、そこにICTをどう効果的に組み込めるのか模索している。

－ 訳読授業をリアレンジ －

所属している特別進学コースは45分7時間で授業が組まれている。休憩5分を挟んで2時間連続セットが通常である。普段の展開は90分でパートひとつが終わる目安で進めている。ICT活用の授業をイメージした時に一番に浮かんだのは、授業内容のルーティーン化である。90分ワンセットの流れをどう構築するかを考えた結果、現在の内容になったのである。

流れはこうだ。まずは教室に教師用PCを持参し、プロジェクターに接続すること。教室の黒板にあたる部分はホワイトボードなので、プロジェクターの映像と音声機能が機能するかを確認すれば、電子黒板の出来上がり。どの教室でも同じことができる。慣れれば1～2分で準備が可能。係の生徒が前方のライトを消したら、号令をかけてもらう。その後はスライドショーを使いながら、授業を展開していくことになる。手順は以下のとおり。

授業手順

1. 挨拶、前時の確認（パートの表紙スライド1枚：タイトルと重要文法項目）
2. 新出単語の意味類推演習（2枚）：
スライド内容⇒1枚に付き2～3語を選び、Oxford Advanced Learner's Dictionaryによる定義を提示し、頻度の高い意味を紹介する。時に口頭による解説も添える。予習として事前に単語の意味調べを行っていることを前提に、生徒が英語による定義を読んで、意味を類推する力を養うことが目的である。Onlineではチャットで答える。
3. 新出単語の発音練習（1～2枚）：Pronunciation Practice
スライド内容⇒1枚に発音練習の指示英文と付属の教材（音声ファイル）を添付。
4. 英単語アラカルト（1～2枚）：
スライド内容⇒単語に関する豆知識、語源、大学入試問題など新出単語に関連した演習問題等を提示。Onlineでは、音声やチャットを使って知識の共有を図る。
5. 本文（パート全体）の聞き取り練習（1枚）：Listening Practice / Slash Reading
スライド内容⇒音声ファイルを聞きながら、教科書の本文にスラッシュを入れていくように指示。「チャンツ」や「フレーズ」を意識して聞く。
6. スラッシュの位置確認作業（2～3枚）：Add slashes to the following passages.
スライド内容⇒本文を音声ファイルとエンドロール形式のアニメーションを合わせて起動させる。スラッシュの位置確認をしながら、音読スピードを意識させる。
7. 本文の読解（4～6枚）
スライド内容⇒重要構文を含む箇所を（音声ファイル）で確認し、文法・熟語・単語・和訳等を口頭で説明。
8. テキスト・シャドウイング（2～3枚）：Reading Practice / Text Shadowing
6のスライドを利用して、スラッシュを意識しながら、本文を目で追うシャドウイングを実施。
9. シャドウイング（1枚）：
本文の内容を理解した後、5のスライドを利用して、音だけに集中してシャドウイングを行う。

勤務した当初は、ホワイトボードを使って授業を行っていたが、前述のような動機でICTを活用した授業を始めることになった。事前にスライドを準備するのは大変だが、一度作成してみると汎用性は高く、授業のテンポがよくなる。また、板書の時間を大幅に短縮することもできた。実施してみて気づいた様々な利点や欠点について、次に挙げてみる。

・電子ペン

各教室に備え付けてあるが、色選びや消しゴムの切り替えに時間を要するので、テンポを重視する意味で、マーカーを使っている。また、非常の場合（停電時）に備えて、同色で板書ができるように、スライド使用の文字は基本の4色（黒・赤・青・緑）に限定している。

・スライド（PP）

教材研究の時間の大半が授業のスライド準備となり、スライド作り＝教案作成となる。また、スライドの順番がその時間の授業展開となるので、1時間の授業の流れ（procedure）の管理が楽。板書内容も事前に準備ができることから、書き落としもなくなる。書き写し損ねた生徒がいた場合、すぐにスライドを戻して見せることができる。また、復習材料として生徒が活用するため、その日のスライドをPDFにしてClassiで配信している。

・音声ファイル

音声教材をスライドに貼り付けることができ、必要なタイミングで再生できるので、CD playerの教室への持ち込みが不要。音声ファイルのトリミングもできるので、必要な部分だけを流すことができる。

・アニメーション

文字や図形を効果的に動かし、生徒の注意を引き付けることができる。できるだけシンプルなものを使うのがポイント。何事も使い方を覚えると嬉しくなって、あれもこれもと入れてみたくなるものだが、使い過ぎると説明や解説が一方的になってしまう。使い方は生徒の方が熟知しているので、凝ったものを使い過ぎると失笑を買うはめに。

・ストップウォッチ（時間の可視化）

小テストやペアワークなどの時間管理に活用する。スライドに秒単位等のデジタル表示ができるので、生徒たちを焦らせることができる。

・MY LESSON REPORT

4技能のバランスという点から、特にWritingの学習が不足がちになるのを補う目的で、各課の内容について、英語による要約と感想を提出するよう求めている。また、この作業によって教科書で学んだ事柄に社会的な問題

意識を加えて、さらに考えを深めることを期待している。

以上のように、利点や欠点も含め様々な課題があることも承知の上で、ICT活用授業に取り組んだ経緯を述べてみた。拙い中身ではあるが、これからICTを使った授業を実践しようとする方々の不安解消に少しでも、繋がれば幸いである。

－ オンライン授業を実施してみた －

今後も新しい工夫を取り入れて、ICT活用授業を進めていこうと考えていたところに、このコロナ禍である。新学年が始まって間もなく、4月中旬から黄金週間明けまで臨時休業となった。実質、4月下旬よりビデオ会議アプリ「Zoom」によるオンライン授業が始まったのである。イメージとしては、教室での授業がそのまま映像で流れて生徒に届くと考えていた。また、双方向のやりとりもテレビ電話のようにできるものと受け取っていたが、それ以前の問題だった。まず、セッティングの仕方がわからない。ミーティングルームというWeb上の教室をつくり、そこに入ってもらうのだが、そのIDとPWを取得し、受講生徒に伝えないと授業ができない。セキュリティー体制がきちんと機能していたので、5月にはスムーズに立ち上げられるようになり、現在に至っている。オンライン授業の話が出た4月中旬に、ICT担当者から“PPを使って普段から授業をしているのであれば、そのまま「Zoom」で流せますよ。”と言われて、その方法を教えてもらった。予め、PCに本時のPPスライドを開いておき、「Zoom」を立ち上げる。次に、そのスライドを画面共有するようにセッティングをしたら準備完了。PPをスライドショーにして授業開始、前述の**授業手順**がそのままオンラインで実施できるのである。

－ 求められる“授業を止めない姿勢” －

勤務校の授業体制として全員オンラインの場合・分散登校（クラスの半分が対面授業、半分がオンライン授業）の場合など感染状況に応じて様々な対策を取っている。分散登校の場合は対面の生徒には教室のプロジェクターにPPスライドを映し、同じものを「Zoom」で配信しながら、授業を展開する。生徒は自宅のPCやスマホなどの端末で受講する。双方向なので、質問があれば直接音声でも、チャット機能でも対応可能である。また、重要構文の説明にはオンライン用の電子ペンを用いて、PC画面のスライド上に直接文字を書いたり、線を引いたりして指導を行っている。回線の状況により若干の時差は避けられないが、非常に便利である。オンライン授業の流れも普段の授業手順とそれほど変わらないのであれば、生徒にとっても安心である。「次にこの練習をするはずだ」という想定に見合った流れを、生徒に提示できたことが大変良かった。ルーティーン化は大事である。緊急事態宣言が発出されて以降、世間では9月入学や大学入学共通テストの実施時期など、様々な議論が巻き起こった。その最中に変化を求める声もあったが、生徒たちが求めていたのは授業の再開とそれを通して級友と学べる機会の保障だったと記憶している。それに応える術は、コロナ禍でも質を落とさない普段どおりの授業を行うことだと思う。他校の先生方も様々な工夫をして、生徒の学びを止めないよう最善を尽くされたであろうことは想像に難くない。感染が収束したなら、その苦労話をしながら互いの努力に敬意を表したいものだ。

< 参考文献 >

- ・『電子黒板亡国論』 戸松幸一 著 創元社
- ・『外国語を話せるようになるしくみ』 門田修平 著 サイエンス・アイ新書
- ・『英語デジタル教材作成・活用ガイド』 唐澤 博・米田謙三 著 大修館書店
- ・『進路アドバイザーのための基礎知識 2017』 特集 教育におけるICT活用 監修 仙崎 武 編集責任 新井立夫 大学新聞社
- ・「新英語教育 特集 ICT・電子黒板をどう生かす？」 7月号, 2017 メトロポリタンプレス
- ・「英語教育 第1特集これからのリスニング指導」 9月号, 2019 大修館
- ・「英語教育 新しい生活様式に対応して」 8月号 2020 大修館
- ・「英語教育別冊 英語教師のためのオンライン授業・動画配信ガイド」 2020年10月 大修館
- ・「Zoom120% 活用術」 宝島社

【『2021 英語教育研究会報 第56号 寄稿文』一部改稿】

使用スライド例

 Lesson 8 - Part 2 (online)
Edo: A Sustainable Society

注意すべき
関係代名詞の
非限定用法
/
独立分詞構文



Lesson 8 Part 2

Guess what word the English below matches.
a liquid or powder that helps remove dirt, for example from clothes or dishes:
detergent n.

a substance added to soil to make plants grow more successfully:
fertilizer n.

a pot or other object made of clay that has been made permanently hard by heat:
ceramic n.

Lesson 8 Part 2

1 to restore ~ that is broken, damaged or torn to good condition:
2 to say or do ~ in order to improve a bad or unpleasant situation: right
repair vt.

the gray or black powder that is left after ~, especially tobacco, wood or coal, has burnt:
ash n.

1 not unusual or different in any way:
2 having no unusual or interesting features:
ordinary adj.

Lesson 8 Part 2

<Pronunciation Practice>
Repeat after the model pronunciation.



Lesson 8 Part 2

次の単語の意味を答えなさい。

- in(中に) + clude(閉じる)
⇒ 中に閉じ込める
→ vi./vt. (~を含む、含める、~を内包する)
- con(完全に) + clude(閉じる)
⇒ 完全に閉じてしまう
→ vi./vt. (~に結論を下す、まとめる、終える)
- ex(外に) + clude(閉じる)
⇒ 閉め(締め)出す
→ vi./vt. (~を除外(排除)する、考慮から外す)

Lesson 8 Part 2 Let's challenge!

- () () my expectations, he failed. [国学院大]
・私の予想に反して、彼は失敗しました。
- She was () () leave home. [名古屋学院大]
・彼女はちょうど家を出るところだった。
- Our task has been easy () (), but it will be difficult from now on. [豊橋聖大]
・私たちの仕事は、これまでは簡単だったが、今後は難しくなるだろう。

Lesson 8 Part 2 Let's challenge!

- (**Contrary**) (**to**) my expectations, he failed. [国学院大]
・私の予想に反して、彼は失敗しました。
- She was (**about**) (**to**) leave home. [名古屋学院大]
・彼女はちょうど家を出るところだった。
- Our task has been easy (**so**) (**far**), but it will be difficult from now on. [豊橋聖大]
・私たちの仕事は、これまでは簡単だったが、今後は難しくなるだろう。

Lesson 8 Part 2

< Listening Practice >
Listen to the following passage **once** carefully. 

Add slashes to the following passage while paying attention to the phrasing.

Lesson 8 Part 2

Let's take a closer look / at life in the Edo period. / Clothes were so precious and expensive then / that ordinary people bought old clothes / from secondhand dealers / or recycled their clothes / for other purposes. / Worn-out clothes were reused / as floor cloths, / and finally burned to ashes. / Even the ashes were used as fertilizer, / used in dyes and detergents, / or sold to ash buyers. / The buyers would then sell the ashes / to farmers as fertilizer. /



Lesson 8 Part 2

As for paper, / people used it many times / and then sold it / to used paper buyers. / These buyers resold it / to paper makers, / who made it into recycled paper. / In addition, / used paper collectors walked around towns / picking up paper trash / to sell to used paper buyers. / On the other hand, / printed paper was passed on / from one generation to another. / According to records, / one arithmetic textbook in a *terakoya* / (temple school) / was used for 109 years. /



Lesson 8 Part 2

When household articles were broken, / they were never thrown away / but repaired by specialized craftsmen. / For instance, / tinkers repaired old pans, / kettles and pots. / Ceramic repairers fixed broken dishes and bowls / with glue. /



Lesson 8 Part 2

p.131 / 1.2-4

These buyers **resold it** to paper makers, **who made it into** recycled paper.

•resell:

「～を転売する」

•関係代名詞の非制限的用法:

..., who = and they

•make A into B:

「A(材料)をB(製品など)にする、(既製の物)を(新しい物)に作りかえる、仕立て直す」

Lesson 8 Part 2

p.131 / 1.4-6

In addition, used paper collectors **walked** around towns **picking up** paper **trash** to sell to used paper buyers.

•分詞構文(同時進行): 2つの動作が並行して行われている状況

walk + adv. / 自+C: 「～しながら(して)・・・する」

•pick up ~: ⇔ pick down

「～を拾い上げる、取る、迎えに行く、同乗させる」

•trash:

「塵、屑、我楽多(主に乾いたごみ)」

rubbish / garbage / litter / refuse / waste

こういった買い付け業者は
製紙業者に紙を転売し、その
製紙業者はそれを再生紙に
作りかえました。

Lesson 8 Part 2

p.131 / 1.6-7

On the other hand, **printed** paper was **passed on from one** generation **to another**.

•print:

「～を印刷する、出版する、出力する」

•pass on:

「(～を)移す、遺伝する、譲る、伝授する、伝える」

•from one ~ to another:

「(ひとつの)～から(別の)～へと、～によって」

▶ Traditions vary from one country to another.

さらに、古紙回収業者が、古紙買い付け業者に売る紙くずを拾いながら町を歩き回りました。

- rubbish [garbage (生ごみ・空き缶・空き容器) + trash (紙屑・包装紙・段ボール)]
- refuse [廃棄物(家庭ごみ・事業ごみ)]
- litter [公共の場に散らしたごみ]
- waste [産業廃棄物・排水]

一方、印刷された紙は世代から
世代へと伝えられました。

Lesson 8 Part 2 (Shadowing)

Let's take a closer look / at life in the Edo period.
/ Clothes were so precious and expensive then /
that ordinary people bought old clothes / from
secondhand dealers / or recycled their clothes /
for other purposes. / Worn-out clothes were
reused / as floor cloths, / and finally burned to
ashes. / Even the ashes were used as fertilizer, /
used in dyes and detergents, / or sold to ash
buyers. / The buyers would then sell the ashes /
to farmers as fertilizer. /



Lesson 8 Part 2 (Shadowing)

As for paper, / people used it many times / and
then sold it / to used paper buyers. / These
buyers resold it / to paper makers, / who made
it into recycled paper. / In addition, / used
paper collectors walked around towns / picking
up paper trash / to sell to used paper buyers. /
On the other hand, / printed paper was passed
on / from one generation to another. /
According to records, / one arithmetic textbook
in a *terakoya* / (temple school) / was used for
109 years. /



Lesson 8 Part 2 (Shadowing)

When household articles were broken, / they
were never thrown away / but repaired by
specialized craftsmen. / For instance, / tinkers
repaired old pans, / kettles and pots. / Ceramic
repairers fixed broken dishes and bowls / with
glue. /



Lesson 8 Part 2

◀ Reading Practice ▶

Please follow the model reading.



MY LESSON REPORT

Title:

Author:

Main Character:

Story Setting:

Story Summary:

Main Events:

Story Conclusion:

Write your opinion about this story.

T () No.

Name:

(3) 情報科学コース デジタル教科書における取り組みについて

情報科学コース 金福 瞭
加藤 芳己

1 はじめに

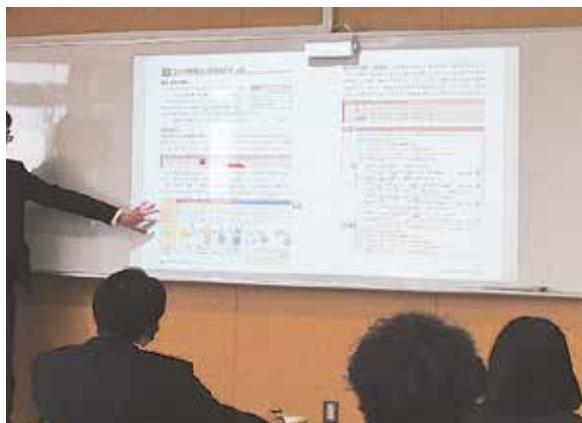
情報科学コースでは、設立から8年間「コミュニケーションツールとして自在に活用できるコンピュータ技術の習得」を目的としております。情報科学コースの教育目標として、情報技術に係る生涯学習者としての自覚・感性・能力を持ち、地域振興に寄与する情報技術のエキスパートを育成することが求められます。また、専門的な情報処理に係る資格取得を推進することで情報技術に関わる生涯学習者としての自覚を養うことが目標とされています。

そのため、令和2年度からは、デジタル教科書（化学基礎・化学）を導入し、「生徒1人1台のPC貸与」の体制をさらに前進させ、教材ツールとしての活用を目指しています。

令和3年度からは、理科以外の教科にも数多くの科目での導入を予定しております。授業のデジタル教科書の活用例、今後の課題や展望について、以下の通りレポート致します。

2 デジタル教科書について

デジタル機器や情報端末向けの教材には、既存の教科書の内容と、それを閲覧するためのソフトウェアに加え、編集移動、追加、削除などの基本機能があります。また、動画視聴やアニメーション再生といった機能もあります。自分自身でタッチして動かすといったアクションを授業に取り入れることで紙媒体のときよりも楽しんで授業に取り組むことができます。



Picture 1. デジタル教科書を使った授業風景



Picture 2. 生徒のsurface デジタル教科書

3 デジタル教科書を活用した授業展開（授業の流れ）

(1) : 導入

生徒は、事前に配布した授業者自作のパワーポイントによる小テストをzoomの画面共有機能を利用して解く。

また、デジタル教科書を見ながら予備知識（pHと指数の関係）を確認する。

このとき、酸・塩基の強弱、計算上の注意点の指導に留意したい。

(2) : 展開

酸と塩基の中和反応式を通して、中和反応を理解する。

この時、デジタル教科書の動画再生を活用し、理解を深めた。

(3) : 工夫した点について

授業展開で練習問題を解く際、チャット機能や投票機能を活用し、生徒の理解度合を確認しながら進めた。

チャット機能や投票機能による教師生徒間のコミュニケーションだけでなく、グループ機能を活用した生徒間のコミュニケーションを取り、双方向型授業を行うよう心掛けた。

(4) : 成果

デジタル教科書を活用することにより、事前の予備知識（小テスト等）の調査と、学習後の理解度を知ることができた。さらに、デジタル教科書内にある中和滴定動画及び問題を通し、生徒自ら興味・関心を高めることができ、生徒の学習意欲を向上させ学んだ知識の定着を促すことにもつながった。

今現在の情報化社会において、アクティブラーニングやe-ラーニングの授業を行う上でデジタル教科書は教育内容や学習手段の選択肢が増し、学習者の学びをより豊かにすることが可能となると考えられる。

アンケート内容
 ①学校や家庭で「デジタル教科書」を使用することについて
 ②「デジタル教科書」のみ使用、「デジタル教科書」と紙の教科書を併用のどちらが望ましいか

Picture 3. デジタル教科書使用に関するアンケート

4 デジタル教科書を利用する課題

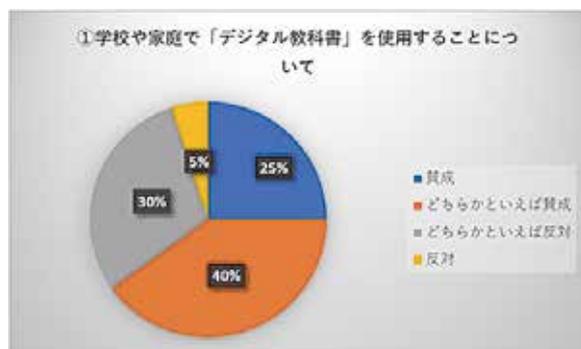


Figure 1. 学校や家庭で「デジタル教科書」を使用することについて

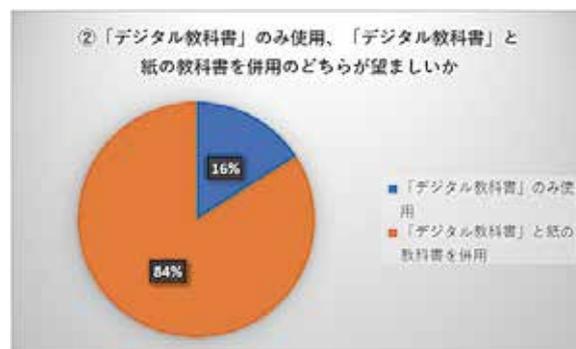


Figure 2. 「デジタル教科書」のみ使用、「デジタル教科書」と紙の教科書を併用のどちらが望ましいか

デジタル教科書を使用した授業を行う学年（全120人）に、学校や家庭で「デジタル教科書」を使用することについてのアンケートを行いました（Figure 1）。Figure 1より、65%（120人中78人）の生徒が「デジタル教科書」を使用することについて賛成していることが分かりました。

さらに、学校や家庭で「デジタル教科書」を使用することについて「賛成」または「どちらかといえば賛成」と回答した78人の生徒に、「デジタル教科書」のみ使用、「デジタル教科書」と紙の教科書を併用のどちらが望ましいかというアンケートを行いました（Figure 2）。Figure 2より、デジタル教科書を利用する課題が見えてきました。それぞれの解答理由をTable 1、Table 2にまとめます。

Table 1に示すように、実際に「デジタル教科書」を使用した生徒は多くのメリットを感じていることが分かりました。デジタル教科書の最大のメリットは、動画や音声といった、生徒の理解を深めたり発展的な学習をしたりするために役立つ豊富なコンテンツを利用できるところにあると思います。さらに、生徒自らが関心をもったコンテンツや気になったところをPCやタブレットに保存できれば、その後の反復学習やさらなる発展学習にもつながることができると考えます。

| 「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した理由 | |
|--|-----|
| 項目名 | 回答数 |
| デジタル教科書では健康面への影響が大きいと考えるから | 35 |
| デジタル教科書では書く力や考える力、知識の定着面で、不安が残るから | 22 |
| 社会のデジタル化の流れでも、教科書は紙媒体が良いと考えるから | 17 |
| デジタル教科書では保護者の費用負担が生じると考えるから | 10 |
| その他（主な意見） | 8 |
| <ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書は紙より使用環境が制限されるから 情報の流出に懸念があるから デジタル教科書やその周辺機器への知識が必要になるから | |

Table 3. 「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した理由

多くのメリットを有する「デジタル教科書」ですが、「デジタル教科書」と紙の教科書を併用も望む声が多く挙げられました。Table 2より、多くの生徒が学習内容によっては、紙の教科書の方が望ましいものと「デジタル教科書」の方が望ましいと考えていることが分かりました。「デジタル教科書」を不便だと感じた点について、学校や家庭で「デジタル教科書」を使用することについて「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した42人の生徒に、「反対」または「どちらかといえば反対」と回答した理由についてアンケートを行いました。それぞれの解答理由をTable 3にまとめます。

Table 3に示すように、実際に「デジタル教科書」を使用していくつかのデメリットを感じていることが分かりました。「デジタル教科書」使用にあたって、およそ8割の生徒が健康面に不安を感じていることが分かりました。目が疲れる、視力低下の誘因にならないかといった不安の声が多く挙げられました。また、セキュリティ管理等の問題やPC使用環境の整備、金銭面の問題など数多くの課題があることが分かりました。

| 「デジタル教科書」のみ使用の理由(複数回答可) | |
|---|-----|
| 項目名 | 回答数 |
| 動画や音声といった、紙の教科書にはない機能があるから | 20 |
| 紙の教科書と比べて、持ち運びやすいから | 10 |
| 紙の教科書より、多面的多角的に学べるから | 12 |
| ICT活用能力がつくと考えたから | 6 |
| その他(主な意見) | 6 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・紙の教科書は重いから、軽いほうが良いから ・PC1台でまとめられているため、持ち運びが楽だから ・これからの環境に適しているから ・ペーパーレスになるから | |

Table 1.「デジタル教科書」のみ使用がよいと答えた理由

| 「デジタル教科書」と紙の教科書を使用の理由(複数回答可) | |
|--|-----|
| 項目名 | 回答数 |
| 学習内容によっては、紙の教科書の方が望ましいものと「デジタル教科書」の方が望ましいものがあるから。 | 42 |
| 紙の教科書とは違い、書く力や考える力が身につけにくいから。 | 30 |
| 学習には、紙の教科書の機能(一覧性等)も必要だと考えるから。 | 25 |
| 「デジタル教科書」のみでは機器の不具合時などに授業進行の不安を感じるから。 | 10 |
| その他(主な意見) | 7 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「デジタル教科書」が万能だと思っていないから ・PC不具合時など教科書の閲覧ができないから ・教師が使いやすいほうを使えば良いと考えるから ・「デジタル教科書」が故障した際の保証に不安を感じるから | |

Table 2.「デジタル教科書」と紙の教科書を併用がよいと答えた理由

5 まとめ

デジタルの時代に、コンピュータをはじめとするICTを学校の教育に活用することは様々な面で有効だと考えられます。ICTを活用することで、授業準備の時間の短縮につながり授業指導を効果的に行うことができます。また工夫次第で生徒の興味・関心を引き出すための工夫を加えることができます。

6 謝辞

恵まれた教育環境を整えて頂き、多大なる御指導、御配慮を賜りました理事長 加藤雄彦校長先生に心から感謝申し上げます。また、常務理事 加藤聖一先生はじめ阿部文男教頭先生、諸先生方にも常日頃たくさんのご支援を頂き感謝を申し上げ、結びとさせていただきます。



(4) 公私間教員交流研修報告

所属校 仙台育英学園高等学校

派遣校 宮城県仙台二華高等学校

教諭 小林 祐喜

- 1 研修期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日（1年間）
- 2 研修目的 高等学校における公私間教員交流研修を通して、公立高校の組織体制や学校運営にかかる組織マネジメントについて比較することで理解を深め、特色ある学習環境や指導法を学び教科指導力を高め、教員としての資質能力向上を図る。

3 派遣校（宮城県仙台二華高等学校）概要

(1) 学校教育目標 豊かな心と高い知性を持ち進取の気風と創造性にあふれ、社会のリーダーとして世界に貢献できる人材の育成

(2) 本年度重点目標

- ・主体的な学びを引き出す授業実践
- ・ICT（情報通信技術）を活用した授業実践
- ・国際バカロレア実践に向けた校内体制の整備

(3) 校訓

- ①進取創造 Pioneering Spirit : Be progressive and creative
(新しいことに積極的に取り組み工夫創造を心がける。)
- ②至誠貢献 Loyal Service : Be sincere and contribute
(誠実な気持ちを持って何事に対しても力を尽くして取り組み、世の中の役に立てるよう心がける。)

今年で117年を迎える伝統ある学校である。開校当時の精神は、明治、大正、昭和、平成、令和へと時代を超えて受け継がれている。

(4) 主な変遷

1904年（明治37年）母体となる私立東華女学校が創設（図2）

1921年（大正10年）宮城県第二高等女学校に統合

1948年（昭和23年）宮城県第二女子高等学校に名称変更

2010年（平成22年）男女共学校、中高一貫校となり
仙台二華中学校・高等学校と校名変更

2019年（平成31年）学年制から単位制へ移行
国際バカロレア・ディプロマプログラム候補校

2020年（令和2年）国際バカロレア・ディプロマプログラム認定校

※母体が私立東華女学校であり、その後公立学校と統合しているため中高一貫校の創設や国際バカロレアの認定を受けるなどチャレンジ精神に溢れているように感じられる。

(5) 在籍生徒数（令和2年5月1日現在）

表1 全校の在籍生徒数

| | 中学1年 | 中学2年 | 中学3年 | 中学合計 | 高校1年 | 高校2年 | 高校3年 | 高校合計 | 中学高校合計 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|
| 男子 | 58 | 55 | 47 | 160 | 103 | 89 | 85 | 277 | 437 |
| 女子 | 47 | 49 | 58 | 154 | 142 | 148 | 150 | 440 | 594 |
| 合計 | 105 | 104 | 105 | 314 | 245 | 237 | 235 | 717 | 1031 |

表1に全校の在籍生徒数を示す。表の左側が中学校、右側が高校をそれぞれ表す。中学校の在籍生徒数において、男子生徒数が女子生徒数を上回った。

表2 高校1年次の在籍生徒数

| | 11HR | 12HR | 13HR | 14HR | 15HR | 16HR | 17HR | 合計 |
|---------|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 男子 | 14 | 17 | 14 | 17 | 14 | 13 | 14 | 103 |
| 女子 | 21 | 18 | 21 | 18 | 21 | 22 | 21 | 142 |
| 合計 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 | 245 |
| 高入生/一貫生 | 高入生 | 一貫生 | 高入生 | 一貫生 | 高入生 | 一貫生 | 高入生 | — |

表2に高校1年次の在籍生徒数を示す。男子生徒数が初めて100名を超えた。高入生は高校から入学した生徒（奇数クラス）、一貫性は中学校から引き続き高校へ進んでいる生徒（偶数クラス）を表している。



図1 校章について

二つの松の実を中心に置き二枚の松の葉を圖案化してこれを囲み、外側に鏡をかたどったものである。松の実は日頃の学習教養の結実を意味し、松の葉は霜雪にも変わらぬ常磐の緑から節操を表し、鏡は人間としてのあるべき姿を示す鑑を象徴している⁽¹⁾。



図2 私立東華女学校

仙台二華中学校・高等学校の源流となる東華女学校の校舎。SEEK TRUTH AND DO GOODの文字が掲げられ、現在の二華会館に引き継がれている⁽²⁾。

4 担当校務分掌等

- (1) HRクラス：高校1年次3組（13HR）副担任 学年便り担当
- (2) 教科：数学ⅠAⅡ（12コマ）＋課題研究（週2コマ）＋IB（週4コマ）＝週18コマ
- (3) 分掌部：研究企画・IB部
- (4) 部活動：ソフトテニス部

※各クラスに正担任と副担任がそれぞれ配置され、手厚く生徒・保護者の対応をおこなっている。



図3 国際バカロレアのマーク⁽³⁾
認定校のみ使用を認められている。

5 研修内容とその成果について

(1) 国際バカロレア（International Baccalaureate）認定について

- ①昨年9月1日（火）に公立学校として東北で初めてとなる国際バカロレア・ディプロマプログラム（International Baccalaureate Diploma Programme:IBDP）の認定を受け、世界標準であるIBワールドスクールとなった。2015年に認定を受けた仙台育英学園高等学校に続きIBDPの2校目の認定に携わることができ大変光栄である。
- ②仙台二華高等学校のIBDP認定校確認訪問は当初6月の予定であったが、新型コロナウイルスの影響を受け7月29日（水）、30日（木）の両日に変更となった。当初テレビ会議システムを用いた認定校確認訪問を想定して準備を進めていたが、日本国内のIB機構コンサルタント2名（日本人と外国人）が来校して実施された。
- ③ハード面として化学実験室にシャワーと洗眼用の蛇口を設置するなど事前訪問にて指摘された点を訂正・改善して望んだだめスムーズに認定された。更に、毎週水曜日1・2校時に国際バカロレアの勉強会を教職員間で実施しておりスキルアップに励んでいる。
- ④6月13日（土）の生徒・保護者説明会から始まり、IB体験授業を各教科・科目（コア科目含む）の体験授業が考查期間を除く隔週土曜日に開始された。その体験授業をもとにIB類型を希望する生徒（最終的には8名）がIBDP文系（3名）/IBDP理系（5名）と選択教科・科目（IB生物、IB物理、IB音楽、IB経済）の決定がおこなわれた。今後、IB類型希望生徒が次年度からスムーズにIBの学習に取り組むことができる準備と土台作りをしっかりと行いたい。
- ⑤学校教育法第1条で規定されている学校が国際バカロレアの認定校になるためには、学校教育法等関係法令と国際バカロレア機構の定める教育課程の双方を満たす必要がある⁽³⁾。そのため、各学校においては学習指導要領が定める各教科等の内容と国際バカロレアのカリキュラムの内容を比較し、国際バカロレアのカリキュラムに学習指導要領が定める学習内容を補うなどして、両方の内容を適切に満たすよう、教育課程を工夫して編成・実施することが求められる⁽⁵⁾。
- ⑥仙台二華中学校・高等学校の校地内にIB棟の建設工事が始まった。大きな音が出る作業は放課後や休業日などに行い、重機や資材運搬場所へ部外者の入出ができないよう通路を一部遮断するようにプレハブを建設するなど工夫がみられる。

(2) 緊急時の危機管理体制について

- ①新型コロナウイルスの影響のため今年度4月から5月が臨時休校となり、通常の教育活動が実施できず、多くの教育活動や行事の変更が余儀なくされた。その中で、伊藤俊校長先生を中心とした学校の危機管理体制について大いに学ぶことができた。
- ②特に、文化祭は2日間の予定を1日に短縮して実施した。生徒は各教室にてZoomで映像配信された学習成果発表を鑑賞した。また、クラスごとに時間をずらして第1体育館、第2体育館での学習成果発表を見学するなど生徒・教職員が工夫を凝らして実施することができた。
- ③仙台駅から一番近い中高一貫校であるため、毎日の生徒の体温チェックと教室の換気、手指の消毒、マスクの着用、定期的な机と椅子の消毒、三密回避など新型コロナウイルス予防を引き続き徹底している。

(3) 情報通信技術（Information and Communication Technology：ICT）教育について

- ①これまでのe-メッセージに加え、ベネッセコーポレーションとソフトバンクグループの合併会社が運営するClassiを新たに導入し臨時休業中の生徒・保護者への連絡と生徒への課題の授受に活用した。
- ②各教室にはプロジェクターとWi-Fiが完備されている。また、教職員には一人一台PCが貸与されている他に、iPadが使用可能であり、毎時の授業でも大いに活用している。Apple TVも使用可能である。
- ③生徒の一時登校日（5月12日（火））にはiPadとプロジェクター、そしてZoomを活用して各教室と職員室・PC室を繋いで双方向で生徒に説明することができた。その後、リモート学年集会や生徒総会、文化祭、グローバルスタディーズ（課題研究）などにも活用している。
- ④限られたICTリソースを工夫して、うまく組み合わせることで使用することにより、コロナ禍において生徒・保護者との連絡や課題の授受などに使用することができている。



図4 CASIO 関数電卓

(4) 公開研究授業について

- ①10月29日(木)公開研究授業を実施した。今回の研究授業は「主体的・対話的で深い学びを意識した授業作り～国際バカロレアの手法を参考に～」をテーマに、次年度から正式に開始されるIBDPの授業を意識した授業展開を心がけた。1年次の数学A(確率)の授業にIBの概念理解とApproach to Teaching(ATT)スキルの中のグローバルな文脈とローカルな文脈を取り入れた授業展開をおこなった。
- ②具体的には、表現(Representation)を概念に取り入れ、欧米の数学の授業で使用している関数電卓(Graphic Display Calculator:GDC)を小グループで扱い、手計算と関数電卓の結果が一致することを確認した。関数のグラフも容易にGDCを用いて描くことができることをデモンストレーションした。更に、英語で表記された数学の問題にも生徒はチャレンジした。最後に生徒が主体的に学んだ内容を発表し、IBの授業内容に近い授業展開を心がけた。
- ③今回の研究授業後の合評会にて、IBDP最終試験に使用する数学公式集⁽⁶⁾やIB資格を活用した国内外の大学についての資料^{(7)・(8)}を配付し情報を共有した。また、合評会にて頂いた建設的な意見やアドバイスを今後の授業作りに大いに役立てていきたい。当日は大変お忙しい中、県庁をはじめ仙台育英学園から多数の先生方にお越しいただき、誠にありがとうございました。

(5) 公私間教員交流研修報告会・情報交換会について

- ①2月19日(金)公私間教員交流研修の報告会・情報交換会が実施された。当初県庁(自治会館)で予定されていたが、新型コロナウイルスの感染が止まらないことからWebexでのオンラインで開催された。
- ②このオンライン会議には今年度公私間教員交流研修の先生方(3組6人)と次年度公私間教員交流研修の先生方が参加した。当日は大変お忙しい中、仙台二華中学校・高等学校 伊藤 俊 校長先生をはじめ、仙台学園高等学校 鈴木 茂幸 教頭先生、法人局 吉野 幸信 先生にもご参加いただきありがとうございました。
- ③公私間教員交流研修の報告会・情報交換会の開催前に事前の接続テストが2月3日(水)9:00~12:00に行われ、それを踏まえて2月19日(金)を向かえたため、当日は問題なく接続できた。
- ④一人10分~15分の発表時間であったが、話したいことが多くあり、時間が足りないくらいだった。年度初め4月、5月が新型コロナウイルスの影響で臨時休業となり、これまで実質6月~2月の9ヶ月間であるが研修内容がとても充実しており10分~15分で話さきれる内容ではなかった。私を含めて発表した多くの先生方が時間を少し超過していた。

6 まとめ・今後の展望

- (1)高等学校の公私間教員交流にて仙台二華高等学校で研修を行っているが、加えて併設中学校である仙台二華中学校の活動内容も学ぶことができた。職員室も同じ空間内にあるため義務教育である中学校の動きや情報も容易に把握することができた。高校の公私間教員交流研修であるのに中学校のこともまで学ぶことができ大変恵まれていた。中高6年間一貫教育として生徒を6年間継続して指導できるメリットを感じた。(高入生は3年間である。)生徒の様子を見ていると、一貫生がよい意味で高入生を引っ張っているように感じた。
- (2)公立学校と私立学校の先生方はともに生徒のために、献身的に一生懸命仕事されていることは共通である。お互いのメリットをうまく取り入れることによって、より良い学校を創造できると思う。学校現場に勤務する我々が日々改善できることから取り組み、生徒が卒業後に振り返った際、「この学校で学べて、本当によかった。」と思われるような学校創りをとおこなっていきたい。
- (3)生徒数が今後減少していくため、今後もIBなどを通して公立学校と私立学校が互いにコラボレーションし、切磋琢磨して宮城県、いや日本の教育をリードしていく時代が到来していると思う。混沌とした時代を生きる生徒を育てるために我々教員自身が高いアンテナを高く掲げて、常に学んでいかなければならない。
- (4)2015年に仙台育英学園高等学校にて国際バカロレア・ディプロマプログラム(IBDP)認定取得に続いて、今回、仙台二華高等学校で認定取得(2020年)のため一緒に働くことができたことを誇りに思います。公私間教員交流にて仙台二華高等学校で研修をしたこの1年間は私の教員人生の中で一番の財産になりました。

7 謝辞

最後になりますが、このような大変有意義で実り多い公私間教員交流研修へ参加する機会を与えてくださった仙台育英学園高等学校 加藤 雄彦 理事長・校長先生をはじめ、宮城県仙台二華中学校・高等学校 伊藤 俊 校長先生、また宮城県教育委員会、学校法人仙台育英学園などお世話になりました多くの方々へ感謝申し上げます。ありがとうございました。

8 参考文献

- (1)宮城県仙台二華中学校・高等学校ホームページ <https://nika.myswan.ed.jp/>
- (2)創立110周年 本校のこれまでの歩み 仙台二華中学校・高等学校創立 110周年記念日配付資料
(平成26年5月7日発行)
- (3)国際バカロレア(IB)の教育とは?国際バカロレア機構(2017年4月発行)
- (4)国際バカロレア・ディプロマプログラム(DP)
「数学:解析とアプローチ」指導の手引き 国際バカロレア機構(2019年5月発行)
- (5)文部科学省 IB 教育推進コンソーシアム <https://ibconsortium.mext.go.jp/ib-japan/authorization/>
- (6)Mathematics analysis and approaches formula booklet, International Baccalaureate Organization(2019)
- (7)国際バカロレアを活用した大学入学者選抜例 文部科学省(2019年12月)
- (8)Guide for IB students applying to US institutions, International Baccalaureate Organization(2018)

参考資料

国際バカロレアについて

1 概要⁽⁵⁾

国際バカロレアは1968年にスイスのジュネーブで設立されたインターナショナル・バカロレア機構(International Baccalaureate Organization: IBO)によって提供される国際的な教育プログラムです。全世界158以上の国と地域で5000校を超える学校が導入している国際的なプログラムである。IBOに許可・登録された学校で、その課程を履修して認定証書(ディプロマ)を取得すれば、世界100ヶ国以上、20,000校以上の大学で入学資格や受験資格として認められます。日本国内では仙台二華高等学校、仙台育英学園高等学校を含め122校が認定校(候補校を加えると161校)として認められています。内訳は以下の通りです。国際バカロレアには以下の4つの質の高い教育プログラムを世界の学校に提供しています。

- ・PYP (primary Years Programme) (3～12歳対象) 日本国内 認定校45校 候補校等15校
- ・MYP (Middle Years Programme) (11～16歳対象) 日本国内 認定校23校 候補校等13校
- ・DP (Diploma Programme) (16～19歳対象) 日本国内 認定校54校 候補校等11校
- ・CP (Career-related Programme) (16～19歳対象) 日本国内 認定校0校 候補校等0校

学校教育法第1条に規定されている学校は48校、日本語DP実施校は26校である。人数は令和2年11月30日時点です。また、理念(ミッション・ステートメント)は以下の通りです。

- (1) 多文化に対する理解と尊敬を通じて、平和でより良い世界の実現のために貢献する、探究心、知識、そして思いやりのある若者の育成を目的としています。
- (2) 世界中の児童・生徒に対し、他の人たちをその違いと共に理解し、自分と異なる人々にもそれぞれ理があり得ることが分かる、行動的で、共感する心を持つ生涯学習者となるよう働きかけています。

2 IBの学習者像⁽⁴⁾

表3に示すように、この「IBの学習者像」はIBワールドスクール(IB認定校)が価値を置く人間性を10の人物像として表しています。こうした人物像は個人や集団が地域社会や国、そしてグローバルなコミュニティの責任ある一員となることに資すると私たちは信じています。

表3 IBの学習者像(Learner Profile)について⁽³⁾

| 人物像 | 説明 |
|-------------------------------------|---|
| 探究する人 Inquirers | 私たちは好奇心を育み、探究し研究するスキルを身につけます。ひとりで学んだり他の人々と共に学んだりします。熱意をもって学び、学ぶ喜びを生涯通じてもち続けます。 |
| 知識のある人 Knowledgeable | 私たちは概念的な理解を深めて活用し、幅広い分野の知識を探究します。地域社会やグローバル社会における重要な課題や考えに取り組みます。 |
| 考える人 Thinkers | 私たちは複雑な問題を分析し、責任ある行動をとるために、批判的かつ創造的に考えるスキルを活用します。率先して理性的で倫理的な判断を下します。 |
| コミュニケーション ができる人 Communicators | 私たちは複雑な言語のさまざまな方法を用いて、自信をもって創造的に自分自身を表現します。他の人々や他の集団の物の見方に注意深く耳を傾け効果的に協力し合います。 |
| 信念をもつ人 Principled | 私たちは誠実かつ正直に公正な考えと強い正義感をもって行動します。そして、あらゆる人々をもつ尊厳と権利を尊重して行動します。私たちは自分自身の行動とそれに伴う結果に責任を持ちます。 |
| 心を開く人 Open-minded | 私たちは自己の文化と個人的な経験の真価を正しく受け止めると同時に、他の人々の価値観や伝統の真価もまた正しく受け止めます。多様な視点を求め、活を見だし、その経験を糧に成長しようと努めます。 |
| 思いやりのある人 Caring | 私たちは思いやりと共感、そして尊重の精神を示します。人の役に立ち、他の人々の生活や私たちを取り巻く世界を良くするために行動します。 |
| 挑戦する人 Risk-takers | 私たちは不確実な事態に対し、熟慮と決断力をもって向き合います。ひとりで、または協力して新しい考えや方法を探究します。挑戦と変化と機知に富んだ方法で活活に取り組みます。 |
| バランスのとれた人 Balanced | 私たちは自分自身や他の人々の幸福にとって、私たちの生を構成する知性、身体、心のバランスをとることが大切だと理解しています。また、私たちが他の人々や、私たちが住むこの世界と相互に依存していることを認識しています。 |
| 振り返りができる人 Reflective | 私たちは世界について、そして自分の考えや経験について深く考察します。自分自身の学びと成長を促すため、自分の長所と短所を理解するよう努めます。 |

3 学習の方法⁽³⁾

表4に示す学習の方法は相互に関連する5つのスキルのねらいは、全年齢のIB生徒が良い質問をし、効果的な目標設定をおこない、自分の願望を追求し、それを達成する決意をもった、自己調整が可能な学習者になるための力を与えることです。これらのスキルは生徒に自身の学習をアクティブでダイナミックなプロセスとして捉えるよう促し、客観的な判断を支えるものとなります。



図5 学習者像 (Learner Profile)⁽⁴⁾

表4 学習の方法⁽³⁾

| スキル | 説明 |
|--------------------------------------|--|
| 思考スキル Thinking skills | 批判的思考（クリティカルシンキング）、創造的思考、倫理的思考などの分野を含む |
| リサーチスキル Research skills | 情報の比較、対照、検証、優先順位付けなどのスキルを含む |
| コミュニケーションスキル Communication skills | 口頭および記述によるコミュニケーション、効果的な傾聴、および議論を組み立てることなどを含む |
| 社会性スキル Social skills | 良好な社会的関係を築いて維持する、他者の話に傾聴する、対立関係を解消することを含む |
| 自己管理スキル Self-management skills | 時間や課題の管理といった管理・調整スキル、および感情やモチベーションを管理する情意スキルの両方を含む |

4 指導の方法⁽³⁾

表5に示す6つの指導の方法は全てのIBプログラムの指導を支えるものです。これらの方法は意図的に幅広いものとなっており、各教師それぞれの文脈と担当する生徒のニーズを最大限反映できるように、各教師が特定の進め方を選択できる柔軟性をもたせてあります。

表5 指導の方法⁽³⁾

| 指導方法 | 内容 |
|---|---|
| 探究を基盤とした指導 Based on inquiry | 生徒がそれぞれ独自に情報を入力し、独自の理解を構築することが重視されています。 |
| 概念理解に重点を置いた指導 Focused on conceptual understanding | 各教科における理解を深め、生徒がつながりを見出し、新しい文脈へと学びを転移させることを助けるために概念の探究がおこなわれます。 |
| 地域的な文脈とグローバルな文脈において展開される指導 Developed in local and global contexts | 指導には実際の文脈と例を用い、生徒は自分の経験や自分の周りの世界と関連づけて新しい情報を処理することが推奨されています。 |
| 効果的なチームワークと協働（コラボレーション）を重視する指導 Focused on effective teamwork and collaboration | 生徒間でのチームワークと協働を促すだけでなく、教師と生徒間の協働関係もこれに含まれます。 |
| 学習への障壁を取り除くデザイン Differentiated to meet the needs of all learners | 指導は包括的で多様性に評価を置きます生徒のアイデンティティを肯定し、全ての生徒が自身の適切な個人目標を設定し、それを追求するため学習機会を創出することを目指します。 |
| 評価を取り入れた指導 Informed by formative and summative assessment | 評価は学習成果の測定だけでなく、学習の支援においても重要な役割を果たします。効果的なフィードバックを生徒に提供するというのも重要な指導方法のひとつとして認識されています。 |

公私間教育交流研修の発表スライド



公私間教員交流研修 報告について

所属校 仙台育英学園高等学校
派遣校 仙台二華高等学校
小林祐喜




『限りない未来への挑戦』を目標として、学校づくりに取り組みます。
『進取創造』『至誠貢献』



宮城県仙台二華中学校・高等学校
Seidai Nika Junior and Senior High School

1

仙台二華高等学校

<主な変遷>

1904年(明治37年)母体となる
公立学校と私立学校の統合「私立東華女学校」が創設
1921年(大正10年)宮城県第二高等女学校に統合
1948年(昭和23年)宮城県第二女子高等学校に名称変更
2010年(平成22年)男女共学校、中高一貫校となり
仙台二華中学校・高等学校と校名変更
2019年(平成31年)学年制から単位制へ移行
国際バカロレア・ディプロマプログラム候補校
2020年(令和2年)国際バカロレア・ディプロマプログラム認定校
チャレンジ精神に満ち溢れている





Seidai Nika Junior and Senior High School

2

<校訓>

●進取創造
Pioneering Spirit : Be progressive and creative
新しいことに積極的に取り組み工夫創造を心がける。

●至誠貢献
Loyal Service : Be sincere and contribute
誠実な気持ちを持って何事に対しても力を尽くして取り組み、世の中の役に立てるよう心がける。

全国的に有名な女子校です。
今年で117年を迎える伝統ある学校です。
開校当時の校訓は、明治、大正、昭和、平成、令和へと時代を超えて受け継がれています。




Seidai Nika Junior and Senior High School

3

- 施設名称 仙台二華中学校・高等学校 (宮城県第二女子高等学校)
- 完成年度 平成21年度
- 所在地 仙台市若林区通防一丁目4番1号
- 設計年度 平成18年度～平成20年度
- 工事年度 平成20年度～平成21年度
- 構造
 - 鉄骨造(校舎棟)
 - 鉄筋コンクリート造(第1体育館棟ほか)
- 敷地面積 21,743平方メートル
- 階数 地上7階(校舎棟)
- 延べ面積 11,538平方メートル
- 特筆等
 - 平成22年4月開校予定の中高一貫校
 - 中学校・高等学校の機能をコンパクトにまとめた7階建て高層校舎
 - 校舎中心に校庭を計画し、見る・見られる関係を構築した生徒同士が刺激し合える校舎
 - 校舎各フロアに読書・自習スペースを計画し、生徒の「居場所」を計画







Seidai Nika Junior and Senior High School

4

IB棟建設場所



IB棟建設場所

令和3年12月完成予定




Seidai Nika Junior and Senior High School

5

<分掌>

- ・学年 1年次3組(13HR)副担任
女子21名、男子14名、計35名
- ・教科 数学 I A II (週12コマ)
課題研究(週2コマ)
国際バカロレア(IB)(週4コマ)
合計 週18コマ
- ・分掌部 企画研究・IB部
- ・部活動 ソフトテニス部




Seidai Nika Junior and Senior High School

6

●仙台二華中学校・高等学校 在籍生徒数

| | 中学1年 | 中学2年 | 中学3年 | 中学合計 | 高校1年 | 高校2年 | 高校3年 | 高校合計 | 中学高校合計 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|------|--------|
| 男子 | 58 | 55 | 47 | 160 | 103 | 89 | 85 | 277 | 437 |
| 女子 | 47 | 49 | 58 | 154 | 142 | 148 | 150 | 440 | 594 |
| 合計 | 105 | 104 | 105 | 314 | 245 | 237 | 235 | 717 | 1031 |

※中学校の在籍生徒数において、男子生徒数が女子生徒数を上回った。

●仙台二華高等学校 1年次 在籍生徒数

| | 11HR | 12HR | 13HR | 14HR | 15HR | 16HR | 17HR | 合計 |
|----|------|------|------|------|------|------|------|-----|
| 男子 | 14 | 17 | 14 | 17 | 14 | 13 | 14 | 103 |
| 女子 | 21 | 18 | 21 | 18 | 21 | 22 | 21 | 142 |
| 合計 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 | 35 | 245 |

※男子生徒数が初めて100名を超えた。男子生徒数が増加傾向にある。



Seidai Nika Junior and Senior High School

7



国際バカロレア
ディプロマプログラム(IBDP)の
公開研究について

授業

授業

学校の危機管理・ICT

主体的・対話的で深い学びを意識した授業作り
～国際バカロレアの手法を参考に～

新型コロナウイルスへの対応



Seidai Nika Junior and Senior High School

8

公立学校として東北で初めての 国際バカロレア・ディプロマ プログラム(IBDP)認定校となる

2020年9/1(火)付

＜7/29(水), 30(木)認定校訪問で聞かれた主な内容＞

- ・他教科との連携について
- ・数学のコース概要と単元計画について
- ・コア科目(TOK, CAS, EE)との関連
- ・新しいカリキュラムとこれまでのカリキュラムの相違
- ・ATL(Approach to learning)とATT(Approach to Teaching)の関連
- ・内部評価(Internal Assessment:IA)
- ・関数電卓の使用について など



Sendai Hasei Gakuen High School and Shusho Middle School & Sendai Nika Junior and Senior High School

9

第3期県立高校将来構想 第1次実施計画

目指す学びの姿

【教育内容の充実】

- ① 基礎力の定着促進
- ② 主体的・創造的に学び、探究的に学ぶ
- ③ 主体的・創造的に学び、探究的に学ぶ
- ④ 主体的・創造的に学び、探究的に学ぶ
- ⑤ 主体的・創造的に学び、探究的に学ぶ
- ⑥ 主体的・創造的に学び、探究的に学ぶ

【教育内容の充実】

- ① 基礎力の定着促進
- ② 主体的・創造的に学び、探究的に学ぶ
- ③ 主体的・創造的に学び、探究的に学ぶ
- ④ 主体的・創造的に学び、探究的に学ぶ
- ⑤ 主体的・創造的に学び、探究的に学ぶ
- ⑥ 主体的・創造的に学び、探究的に学ぶ

国際バカロレア



Sendai Hasei Gakuen High School and Shusho Middle School & Sendai Nika Junior and Senior High School

10

国際バカロレア(IB)について

1968年にスイスのジュネーブで設立された非営利団体が母体である。全世界160以上の国と地域で5000校を超える学校が導入している国際的なプログラムである。日本国内では仙台育英学園高等学校、仙台育英高等学校など2校が認定校として認められています。また、文部科学省は今後IB校を200校に増やす計画があります。

- ・PYP (primary Years Programme) (3～12歳対象)
- ・MYP (Middle Years Programme) (11～16歳対象)
- ・DP (Diploma Programme) (16～19歳対象)
- ・CP (Career-related Programme) (16～19歳対象)



Sendai Hasei Gakuen High School and Shusho Middle School

11

国際バカロレア International Baccalaureate

国際バカロレア認定校数: 122校 (日本語DP実施校25校)
(Accredited school: 122) (DP dual language school 25)

候補校数: 39校 認定校+候補校=161校
(Candidate school 39) (Total 122+39=161) (令和02年11月30日時点)

認定校45校 候補校等15校



認定校54校 候補校等13校



認定校0校 候補校等0校



Diploma Programme Model

IBの資格を受けている学校は、令和02年4月時点で世界158以上の国・地域において、5,000以上の学校 (more than 5,000 school) over 158 country and region in the world. 学校数第1位に認定されている学校 (学校) 文部科学省教育課程コンソーシアムより引用

12

＜公開研究授業＞

(1) 本日は「IBDP」の公開研究授業を行いました。今回の研究授業は「主体的・創造的に深い学びを促進した授業作り～国際バカロレアの手法を参考に～」をテーマに、次年度から正式に開始されるIBDPの授業を意識した授業展開を行いました。1年次の数学A(線形)の授業にIBのApproach to Teaching (ATT) スキルの中の概念理解とグローバルな文脈とローカルな文脈を取り入れた授業展開をおこなった。

(2) 具体的には、表現(representation)を概念に取り入れ、欧米の数学の授業で使用している関数電卓 (Graphic Display Calculator: GDC) を小グループで扱い、手計算と関数電卓の結果が一致することを確認した。関数のグラフも容易にGDCを用いて描くことができることをデモンストレーションした。更に、英語で表記された数学の図解にも生徒はチャレンジした。最後に生徒が主体的に学んだ内容を発表し、IBの授業内容に深い授業展開を行った。

主体的・対話的で深い学び → アクティブラーニング

(3) 今回の研究授業後の合評会にて、IBDP最終試験に使用する数学公式集やIB資格を使用した国内外の大学についての資料を配付し情報共有した。また、合評会にて頂いた建設的な意見やアドバイスを今後の授業作りで大いに役立てていきたい。当日は大変お忙しい中、県庁をはじめ仙台育英学園から多数の先生方にお越しいただき、誠にありがとうございます。



Sendai Hasei Gakuen High School and Shusho Middle School & Sendai Nika Junior and Senior High School

13

＜まとめ・今後の展望＞

- 1 高等学校の公私間教員交流にて仙台二華高等学校で研修を行っているが、近頃は仙台育英学園高等学校と仙台育英高等学校の活動内容も学ぶことができ、様々な交流がもたらした協働教育である中学校の動きや情報も容易に把握することができ、中学校の公私間教員交流研修である中学校のことで満足することができ、より充実していた。中学校の協働教育として生徒を4年間継続して指導できるメリットを感じた。(高入生は3年間である。)生徒の様子を見ていると、一貫生がよい意味で高入生を引っ張っているように感じた。
- 2 公立学校と私立学校の先生方はともに生徒のために、熱意を持って一年懸命仕事されていることは共通である。お互いのメリットをうまく取り入れることによって、より良い学校を創ることができる。学校現場に属する我々が日々改善できることから取り組み、生徒が卒業後に振り返った際、「この学校で学んで、本当によかった」と思われるような学校づくりをおこなしていきたい。
- 3 今後、少子化の影響を受けて生徒数が減少していく。そのため、国際バカロレア (IB) などを通して公立学校と私立学校が互いにコラボレーションし、切磋琢磨して富強し、いつか日本の教育をリードしていく時代が到来していると思われ。また、強国とした時代を生きていく生徒を育てるために我々教員自身が高いアンテナを掲げて常に学び続けなければならない。
- 4 2016年に仙台育英学園高等学校にて国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) 認定校数に就いて、今回、仙台二華高等学校で認定校数(2020年)のため一緒に働くことができたことを誇りに思います。公私間教員交流にて仙台二華高等学校で研修したこの1年間は私の教員人生の中で一番の財産になりました。
- 5 国際バカロレア・ディプロマプログラムの認定を受け、次年度から正式にプログラムが始まる期間と土台作りをしっかりと行いたい。そして次年度から生徒がスムーズに授業を受ける環境を整えたい。

Sendai Hasei Gakuen High School and Shusho Middle School & Sendai Nika Junior and Senior High School

14

＜今後のために(要望等)＞

(1) 非常勤講師→常勤講師(兼任講師)

- ・北上川フィールドワーク(1泊2日)の研修旅行に生徒を引率して参加できなかった。
- (2) 研修期間: 1年間→1年間又は2年間など柔軟的な対応が必要ではないか。
- ・特に、今年は新型コロナウイルスのため4～5月(緊急事態宣言)臨時休校→研修期間実質10ヶ月
- ・例) 広島県との人事交流2年間

ご検討よろしくお願いたします。



Sendai Hasei Gakuen High School and Shusho Middle School & Sendai Nika Junior and Senior High School

15

謝辞

最後になりますが、このような大変有意義で実り多い公私間教員交流研修へ参加する機会を与えてくださった、仙台育英学園高等学校 加藤雄彦 理事長・校長先生をはじめ、宮城県仙台二華中学校・高等学校の伊藤 俊 校長先生、また宮城県教育委員会、学校法人仙台育英学園の方々などお世話になりました多くの方々に感謝申し上げます。ありがとうございました。



Sendai Hasei Gakuen High School and Shusho Middle School & Sendai Nika Junior and Senior High School

16

(4) 令和2年度高等学校における公私間交流研修報告

仙台二華高等学校 教諭 上島 左輔 (数学)
派遣校 仙台育英学園高等学校 (外国語コース)

1 はじめに

本年度、公立高校と私立高校の交流研修で令和2年4月1日から令和3年3月31日までの1年間仙台育英学園に勤務することになりました。普段、私は公立高校(仙台二華高等学校)の教員の身分ですが、1年間という期限付きで外国語コースに所属し、普段体験できない様々な経験をすることができました。以下、研修し学んだことを順に報告していきたい。

2 研修目標

- ①私立高校と公立高校との違いを学び、教員としての資質をのばす。
- ②IB(国際バカロレア)教育を学び、国際社会でも活躍できる人材の育成カリキュラムを学ぶ。

3 派遣校での校務分署

年次：外国語コース 1年次(副担任)

教科：数学・1年次レギュラークラス 数学I 3単位2クラス

・2年次 Math (SL) IBクラス 4単位 ・3年次 Math (SL) IBクラス 4単位

3 普段の様子

- (i) 仙台育英学園は多くの留学生を受け入れている。今年度は来日することが難しく減少したが、学園全体で約180名の留学生がいる環境である。普段の生活を送る場に留学生がいることで、生活環境に大きく変化を与えている。
- (ii) 配属された外国語コースでは能力が高い生徒が多い。外国語ということで、英語が得意な生徒はもちろん、帰国子女や、バイリンガルの生徒も多い。今まで、中学校ではマイノリティだと感じた生徒も、ここでは活気に溢れた生活を送ることができるだろう。また、自己表現が得意な生徒も多く驚いた。

4 東北初のIBDP(国際バカロレア ディプロマ プログラム) 認定校

- (i) 2015年2月に国際バカロレア ディプロマ プログラム(DP)の認定校となり、世界のIBワールドスクール(IB認定校)に仲間入りした。DPは原則的にどのコースからも受講可能である。

- (ii) IBの授業を担当して

2年生のIB(Math,SL)をメインで担当した。IBの授業は、通常の授業とは異なり概念や日常生活における実践的な学びに重点をおいている。特徴として、関数電卓の利用が挙げられる。基本的な計算力は必要ではあるが、関数電卓を用いてどのような計算でも瞬時に行うことが求められる。普段、計算機を用いる習慣がない分、初めは多くの生徒が計算機の使い方に苦労していた。また、教科書は全て英語で書かれており、相当な英語力が必要となる。私自身も苦労したが、生徒はさらに苦労しただろう。教える方法や学ぶ順番にも特徴がある。日本のカリキュラムでは数学IⅡⅢ、ABと段階を踏んで学ぶが、IBでは分野毎であり横断的に学ぶ。私自身も教える際の勉強になることが多かった。授業は、知識を教える場でもあるが、自ら学んだ知識で議論を行い、知識をどのように実践的に活用するのかを考えることが大切である。学問の本質を突いた学習方法だと感じた。実際にレポート課題として【日常における規則性を探し、法則を求めてみよう】【異常気象における相関を見つけよう】【コロナウイルスにおける、GoToキャンペーンの今後の在り方】を実施した。知識を学んだ上で、最後に自身で考えをまとめ活用させた。また、プレゼンを行いディベートを実施した。

5 私立高校における特徴

(i) ICT環境

- ・本年度より教員に1台Surfaceが貸与されることになった。Teams (Microsoft社) が導入され、学校での情報連絡は円滑に行うことができる。また、情報の扱いには細心の注意を測っており、校内でしか接続できないイントラに成績関係や個人情報が含まれるものを一括管理しており、情報漏洩に万全を期している。
- ・校内には無線LANが配備されており、いつでもどこでもインターネットにアクセスできる。また、生徒も利用できるため学習の幅が広がる。教室には備え付けのプロジェクターが配備されており、SurfaceをもっていだけでICTを活用した授業を行うことができる。今後、校内に5Gの配備する計画も進んでいる。今年は、学校のオープンキャンパスをオンラインで行い、コロナ禍においても生徒募集に大きな成果があったと考えられる。

(ii) コロナウイルス対応

今年度はコロナウイルスの影響により様々な制限があった。4月からは学校が休校となり、登校が始まっても分散登校となった。学校行事は文化祭(簡易化)以外全て中止となってしまった。この状況下において対応はとても速かった。休校になった後にすぐzoomを用いたオンライン授業をするようにと指示があった。誰もが初めて使うzoomであったが、私は4月27日に外国語コース1学年全員にzoomを用いた授業を行った。自宅から全生徒を対象に授業を行うという不思議な感覚は今も覚えている。現在でも、zoomを用いて自宅にいる生徒にも授業が受けられる環境を提供している。また、校門では自動検温装置を取り入れ、密にならない様教室を2つに分散し、登校する生徒自体を半分にして感染症対策を行った。生徒の登下校も時間をずらしており、今年は通常より5分短い45分授業を行っている。校長先生をはじめ多くの先生方の迅速な対応により、今現在まで大きな混乱もなく教育活動を実施することができている。

(iii) 時間の効率化

近年、教員の勤務時間の多忙が問題となっている。この解消には、時間をいかに効率化するかにかかっていると感じる。仙台育英学園では、全体の会議を極力減らし、必要最低の人数で会議を行い、決定事項の連絡が情報として挙がっている。専門性の高い教員で検討を重ね、昨年度の反省を活かしより効果的な方針があがってくる。また、Teamsを用いて、チャットでいつでも連絡が取れ、情報共有ができ仕事の効率は上がっていると感じた。会議をなくすことは反対だがあり方の検討、情報共有の手段、などを検討することにより、公立高校でも時間の効率化が図れるのではないかと感じた。

(iv) 仕事の実行力

業務を遂行する上で自らが、何かを実践したいと考えれば、伺いを立て報告を行うことで、実行できるという印象を受けた。教員が新しいことに向けて挑戦する機会が多くなり、目的意識を高く持ち勤務することができる。

11 まとめ

- ・率直な意見としては、学校の運営方針と教員団の努力によって生徒の教育活動の可能性は大きく広がるといことです。私立高校では決断が早く、行動に移しやすいという利点は多く聞かれますが、この緊急事態の時にその本領が発揮されていた。いち早くzoomを用いた授業を行い、今では非常勤の先生を含めて全ての教員がICTを活用した授業を行っている。校長先生の指示のもと、中心となる先生がコース全体を引っ張り、情報が一元化することにより、対応能力が早くなっている。
- ・IBの授業を担当させていただき、学ぶことは多かった。初めは通常のカリキュラムと異なり全てが分からず戸惑うことが多かった。育英高校でIBを担当している先生方のサポートもあり、乗り越えることができた。教員の中にはIBの教員向けのワークショップを担当する先生もいるので、一緒に勤務できた経験は財産となった。
- ・今回の交流人事で、私を引き受けていただいた加藤雄彦校長先生を初め多くの先生方に感謝申し上げます。充実した1年を過ごすことが出来ました。また、先生方にお会いできることを楽しみにしています。1年間ありがとうございました。

(5) 英進進学コース ICT推進の取り組みについて

英進進学コース 五十嵐春祐

1 はじめに

今年度は新型コロナウイルスの流行による授業のオンライン化やGIGAスクール構想により、全国的に学校内のICT環境が整備された一年となりました。PC端末やタブレット機器というものは、10年前においては、あまり生徒にとって馴染み深いものではありませんでした。しかし、今日では各家庭に最低1台あるのではないかといえる時代となりました。今では仕事でも家庭でもどこでも、社会のあらゆる場所でICTの活用があたりまえのものとなっています。その中で、私たち教員も食わず嫌いをせずに一人ひとりがICT活用の技術を磨きあい、そのことをもとに教育へ挑むことが必要であると考えています。

2 令和2年度ICT導入概要

英進進学コースでは1人1台端末としてiPadを1年次へ導入しました。その端末の中で"MetaMoji"、"Zoom"、"Classi"の各Appを特に活用しました。また、Zoomの基本的使用方法の研修会を全学年教員対象に実施し、オンライン授業の実践力、授業力向上に努めました。

●MetaMojiで実施できること

- ・PDF教材を生徒端末上にペーパーレスで配布
- ・生徒は配られた教材の上で自由に手書き学習
- ・拡大して細かく編集することや、写真・音声・動画等の貼り付け
- ・先生は、生徒の学習内容をリアルタイムでモニタリング可能
- ・ワークシートを共有し、実験のまとめや探求学習などの共同学習が可能

●Classiで実施できること

- ・校内グループにて全体連絡や、教科指導の補足・準備物や課題等の連絡
- ・メッセージ機能を用いた家庭連絡
- ・学習動画を用いた自発的学習
- ・学習記録機能を用いた勉強習慣定着への動機づけ
- ・ポートフォリオやアンケート機能を用いた日々の振り返り

3 実態と成果

4月より早速オンライン授業を実施することとなり、Ownデバイスの導入がされていない2年次3年次においては、各生徒への連絡が行き届かないことや、生徒の授業参加状況が不十分であるという声があがっていました。しかし、OwnデバイスとしてiPadを導入した1年次においては、Classiへ投稿がある度に、端末上へ通知が行くシステムとなっているため、今まで以上に連絡が行き届かせることができました。保護者からは「何かスケジュールや対応の変更等がある度迅速に連絡があったため、予定を立てる上で助かった。安心して過ごすことができた。よく子供がプリントを渡してくれないということが今まであったが、生徒保護者間で可視化できるため助かった。」というような感謝の声が面談等の際に多数寄せられました。

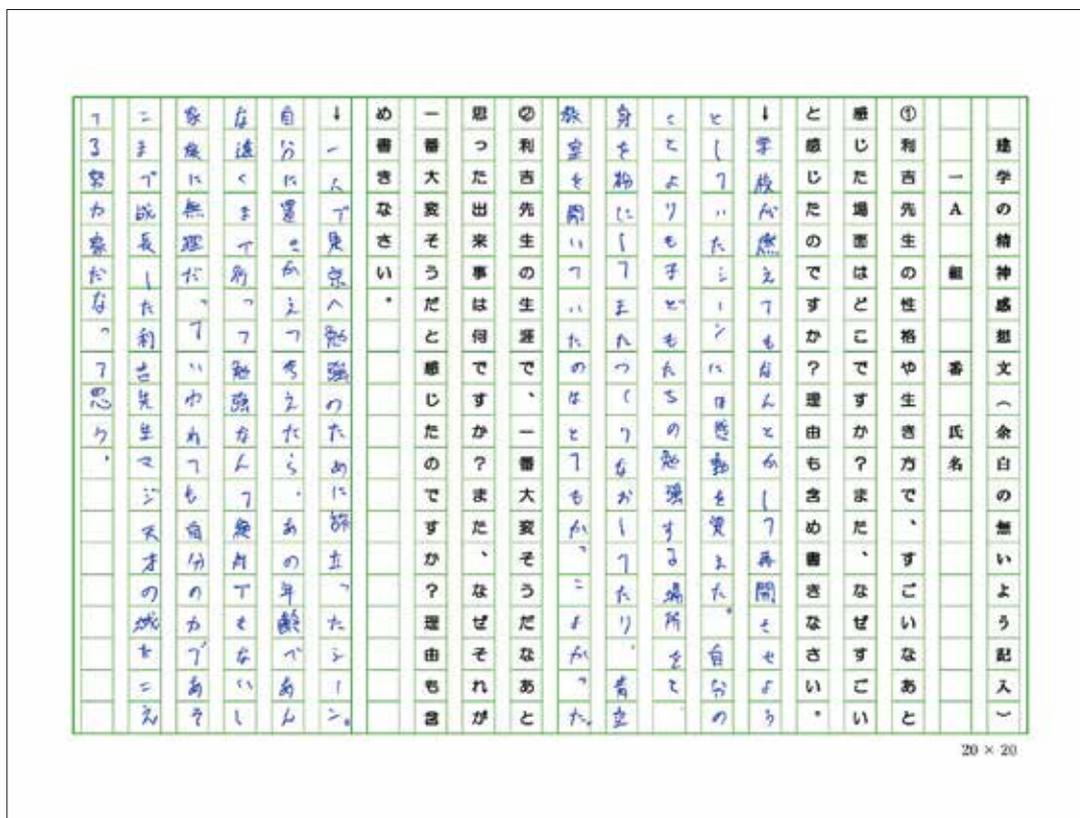
Classi校内グループでは、例年は生徒がコメントをできない設定にして活用を行っていましたが、今年度は試験的に1年次において生徒がコメントをできる設定にして活用を行いました。通常は何か質問等があれば、個別で先生が対応することが常でしたが、生徒自身でコメントを書き込めるようにすることで、投稿に関する疑問点等に対して、生徒同士でコメントを書きあい、解決に至ることもできている様子が見受けられました。

Zoomに関しては、このコロナ渦において注目をされ始めたものとなりますが、研修において使用方法を定着化し、今年度のオンライン授業では大変重宝しました。また、例年だと校内で行っている英検講習やその他の講習についても、今年度はZoomにて実施をすることで、教員も生徒もお互いに登校時間を省くことができ、有意義なものになったのではないかと思います。このことは、通常授業に戻った際にも活用ができるものではないかと考えています。

MetaMojiに関しては、教員にとっても初の試みとなりました。使用方法、授業展開に関しては、基本的使用方法をお伝えした後に、各担当の先生にお任せをする形でこの1年間活用をしました。紙のプリントを配る代わ

りにメタモジ上でデータ配信を行い、その中で記入をさせたり、ノートにメタモジ上で記入させたり、グループ活動でまとめを作成させたり…など、通常であれば紙に記入をしていく作業を電子媒体で全て行うことで、今年度のようなコロナ渦においても「場所を選ばず、時を選ばず」教員も生徒も授業を実施受講することができました。生徒に度々メタモジを用いた学習についてどのように感じているか確認も行いました。その中では肯定的な意見が多く、「様々なノートを持ち歩かずに、MetaMojiのAppを入れた端末さえあれば復習ができるので良かった。」「鉛筆などの筆記用具で記入をしつけないと、なかなか勉強をしている実感がわかないと最初は思っていたが、実際にMetaMojiを利用して学習をすることで、今までの紙のノートと同じように勉強できた。それ以上に勉強しやすい科目もあった。」というような声が多くあがった。教員側からも導入当初は、「実際に紙に書かせないと記憶の定着は難しいのではないか」というような声がかかっていたが、実際に活用を進めていった上では、「教員側としても様々な準備の手間が省けて便利である」「同じ場所にいなくても現在実施させている内容をリアルタイムで確認ができ、生徒全体や個々にアドバイスをしやすかった。」「生徒から、プリントをなくしました、忘れました等の対処に例年は手間取ることが多かったですが、MetaMojiの導入により対処に時間を要しなくなり、非常に助かった。」などの声があがり年度末においては好評でした

●メタモジ使用例（スクリーンショット画像）



10:54 3月31日(水) Lesson 09 練習問題

C. 日本語と同じ意味になるように、()内の語を並べかえましょう。(5点×4=20点)

- バターは何から作られていますか。
Is / from / butter / what / made?
→ What is butter made from?
- 女性は男性よりも長生きするとされています。
said / that / is / it / women live longer than men.
→ It is said that women live longer than men.
- 私の人生は彼の言葉によって変わりました。
My life then / by / changed / has / his words.
→ My life has been changed by his words.
- この公園では多くの種類の鳥が見られます。
birds / soon / kinds / can / many / be / of / in this park.
→ Many kinds of birds can be seen in this park.

D. 日本語と同じ意味になるように、文を完成させましょう。(5点×4=20点)

- エリックはその会議の議長に選ばれました。
Eric was elected as chairperson of the meeting.
- この小説は多くの言語に翻訳されています。
This novel is translated into a lot of languages.
- あなたの国ではクリスマスはどのように祝われますか。
How's Christmas celebrated in your country?
- 日本人は感情を表現することが苦手だとされています。
It is said that Japanese are not good at expressing their feelings.

E. こどもの日について書かれた()内の内容をもとに、この行事についてあなたが説明する英語の文章を完成させましょう。(10点)

こどもの日は五月五日に祝われる。こいのぼりと呼ばれる鯉の吹き流しをあげ、子供の健やかな成長を願う。ちまきや柏餅と言った伝統食を食べる。

Children's Day or *Kodomo-no-hi* is celebrated on May 5 every year. Carp-shaped streamers are placed to wish for the healthy development of children. The streamers are called koinobori. Traditional Japanese sweets, *kashiyamochi* and *chimaki*, are eaten on that day.

2/2 ページ

10:51 3月31日(水) R22学期考査対策数学...1 A4

数学 2学期考査対策問題 No.1 (A4) 1面 5/21

1. 関数 $y = x^2 + 2x - 3$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最大値を求めよ。

2. 関数 $y = x^2 + 4x + 5$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

3. 関数 $y = x^2 - 6x + 9$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

4. 関数 $y = x^2 - 8x + 16$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

5. 関数 $y = x^2 - 10x + 25$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

6. 関数 $y = x^2 - 12x + 36$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

7. 関数 $y = x^2 - 14x + 49$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

8. 関数 $y = x^2 - 16x + 64$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

9. 関数 $y = x^2 - 18x + 81$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

10. 関数 $y = x^2 - 20x + 100$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

11. 関数 $y = x^2 - 22x + 121$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

12. 関数 $y = x^2 - 24x + 144$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

13. 関数 $y = x^2 - 26x + 169$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

14. 関数 $y = x^2 - 28x + 196$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

15. 関数 $y = x^2 - 30x + 225$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

16. 関数 $y = x^2 - 32x + 256$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

17. 関数 $y = x^2 - 34x + 289$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

18. 関数 $y = x^2 - 36x + 324$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

19. 関数 $y = x^2 - 38x + 361$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

20. 関数 $y = x^2 - 40x + 400$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

21. 関数 $y = x^2 - 42x + 441$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

22. 関数 $y = x^2 - 44x + 484$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

23. 関数 $y = x^2 - 46x + 529$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

24. 関数 $y = x^2 - 48x + 576$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

25. 関数 $y = x^2 - 50x + 625$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

26. 関数 $y = x^2 - 52x + 676$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

27. 関数 $y = x^2 - 54x + 729$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

28. 関数 $y = x^2 - 56x + 784$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

29. 関数 $y = x^2 - 58x + 841$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

30. 関数 $y = x^2 - 60x + 900$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

31. 関数 $y = x^2 - 62x + 961$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

32. 関数 $y = x^2 - 64x + 1024$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

33. 関数 $y = x^2 - 66x + 1089$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

34. 関数 $y = x^2 - 68x + 1156$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

35. 関数 $y = x^2 - 70x + 1225$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

36. 関数 $y = x^2 - 72x + 1296$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

37. 関数 $y = x^2 - 74x + 1369$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

38. 関数 $y = x^2 - 76x + 1444$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

39. 関数 $y = x^2 - 78x + 1521$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

40. 関数 $y = x^2 - 80x + 1600$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

41. 関数 $y = x^2 - 82x + 1681$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

42. 関数 $y = x^2 - 84x + 1764$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

43. 関数 $y = x^2 - 86x + 1849$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

44. 関数 $y = x^2 - 88x + 1936$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

45. 関数 $y = x^2 - 90x + 2025$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

46. 関数 $y = x^2 - 92x + 2116$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

47. 関数 $y = x^2 - 94x + 2209$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

48. 関数 $y = x^2 - 96x + 2304$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

49. 関数 $y = x^2 - 98x + 2401$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

50. 関数 $y = x^2 - 100x + 2500$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

51. 関数 $y = x^2 - 102x + 2601$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

52. 関数 $y = x^2 - 104x + 2704$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

53. 関数 $y = x^2 - 106x + 2809$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

54. 関数 $y = x^2 - 108x + 2916$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

55. 関数 $y = x^2 - 110x + 3025$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

56. 関数 $y = x^2 - 112x + 3136$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

57. 関数 $y = x^2 - 114x + 3249$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

58. 関数 $y = x^2 - 116x + 3364$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

59. 関数 $y = x^2 - 118x + 3481$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

60. 関数 $y = x^2 - 120x + 3600$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

61. 関数 $y = x^2 - 122x + 3721$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

62. 関数 $y = x^2 - 124x + 3844$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

63. 関数 $y = x^2 - 126x + 3969$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

64. 関数 $y = x^2 - 128x + 4096$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

65. 関数 $y = x^2 - 130x + 4225$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

66. 関数 $y = x^2 - 132x + 4356$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

67. 関数 $y = x^2 - 134x + 4489$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

68. 関数 $y = x^2 - 136x + 4624$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

69. 関数 $y = x^2 - 138x + 4761$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

70. 関数 $y = x^2 - 140x + 4900$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

71. 関数 $y = x^2 - 142x + 5041$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

72. 関数 $y = x^2 - 144x + 5184$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

73. 関数 $y = x^2 - 146x + 5329$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

74. 関数 $y = x^2 - 148x + 5476$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

75. 関数 $y = x^2 - 150x + 5625$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

76. 関数 $y = x^2 - 152x + 5776$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

77. 関数 $y = x^2 - 154x + 5929$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

78. 関数 $y = x^2 - 156x + 6084$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

79. 関数 $y = x^2 - 158x + 6241$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

80. 関数 $y = x^2 - 160x + 6400$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

81. 関数 $y = x^2 - 162x + 6561$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

82. 関数 $y = x^2 - 164x + 6724$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

83. 関数 $y = x^2 - 166x + 6889$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

84. 関数 $y = x^2 - 168x + 7056$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

85. 関数 $y = x^2 - 170x + 7225$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

86. 関数 $y = x^2 - 172x + 7396$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

87. 関数 $y = x^2 - 174x + 7569$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

88. 関数 $y = x^2 - 176x + 7744$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

89. 関数 $y = x^2 - 178x + 7921$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

90. 関数 $y = x^2 - 180x + 8100$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

91. 関数 $y = x^2 - 182x + 8281$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

92. 関数 $y = x^2 - 184x + 8464$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

93. 関数 $y = x^2 - 186x + 8649$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

94. 関数 $y = x^2 - 188x + 8836$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

95. 関数 $y = x^2 - 190x + 9025$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

96. 関数 $y = x^2 - 192x + 9216$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

97. 関数 $y = x^2 - 194x + 9409$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

98. 関数 $y = x^2 - 196x + 9604$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

99. 関数 $y = x^2 - 198x + 9801$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

100. 関数 $y = x^2 - 200x + 10000$ のグラフを、下の図のように描く。この関数の最小値を求めよ。

1/2 ページ

なぜ $1\text{mol} = 6 \times 10^{23}$ 個?

① 相対質量の基準... ^{12}C

^{12}C 1個あたりの質量は $1.9926 \times 10^{-23}\text{g}$

② 原子量 12g とつり合わせるためには、

③ 何個必要か? 6×10^{23} 個!

アボガドロ数

*比較

アボガドロ数 6×10^{23} 個

アボガドロ定数 N_A 6×10^{23} $\frac{1}{\text{mol}}$

単位が異なるだけ

*物質を構成している粒の数量

H_2O 18g がたくさん

個数にして、なんと $600000000000000000000000000000000$ 個

6×10^{23} 個

1mol ← 笑いやアハ

なので、

$\times 0.5$ 1mol 6×10^{23} $\times 0.5$ $x = 6 \times 10^{23} \times \frac{0.5\text{mol}}{1\text{mol}}$

0.5mol 3×10^{23} $= 3 \times 10^{23}$

という風に計算できる。

物質量のポイント ① + ②

g や 個、L という異なる単位たちの架け橋となるのが **mol**!

$1\text{mol} \Leftrightarrow 6.0 \times 10^{23}$ 個

$1\text{mol} \Leftrightarrow \text{原} \cdot \text{分} \cdot \text{式} \cdot \text{g}$

$1\text{mol} \Leftrightarrow 22.4 \text{ L}$ (*標準状態 $0^\circ\text{C}, 1.013 \times 10^5 \text{ Pa}$)

例) CO_2

便利

44g — 1mol — 6×10^{23} 個

22.4L

4 課題

今年度はコロナ渦におけるオンライン授業の実施と1年次のOwnデバイスの導入が重なり、1年次においては非常に助かった一年間となりました。導入がない2年次-3年次においては、何とかしてClassiの使用率増加等を図り、必要事項の連絡をしている段階でしたが、1年次においては使用をしなければならない環境が必然的に発生したため、良いスタートダッシュをすることができました。しかしながら、教員側においては「ICT技術の必要性は認識をしているが、一部技術が足りず活用にあまり踏み出せない」「新しいことを覚えるのが苦手でなかなか手を出しにくい。」という状況がまだまだ見受けられます。このことは本校のみならず、全国の教育現場でも同様かとは思いますが、人それぞれにおいて得意なこと、苦手なことは異なりますが、これからの情報化社会を生きていく生徒へ教育をしていく中で、教員側がICTを十分に使えないのでは、生徒に「ICTの活用は別にしなくてもいいのだ」という誤った印象を持たせてしまうことへ繋がるかと思えます。そのようなことを避け、社会に出た際に率先して活躍する人を育むためにも、私たち教員一人ひとりが、「苦手だからできません」という声を上げず、教員同士で教えあうこと、また教えあいやすい環境づくりをすることが必要だと考えています。

5 結びに

加藤雄彦理事長・校長先生はじめ仙台育英学園と取引いただいている様々な業者の方々のおかげで本学園内でのICT環境が年々よりよいものとなり、今年度はそのおかげもありコロナ渦におけるオンライン授業実施にあたって、他校より、いち早い授業等の提供をすることができました。このような環境構築をしていただき、教育に取り組めることに心から感謝申し上げます。

今後も、年々変わる情勢や環境に対応し、生徒へ迅速で丁寧な教育の場を提供していくことが不可欠かと思えます。それぞれのコースの特色を生かしながらよりよい教育を提供できるよう、日々一教員として努力し、また他の教員に対しても可能な限り技術知識を広めていきたいと考えています。

(6) ICTの取り組みについて

フレックス 技能開発コース 山田 大

1 はじめに

2020年1月頃から世界的に流行した新型コロナウイルスの影響で、全国的かつ急速にICTの導入が進んでいる。本学園においても、教職員用Surfaceの導入、全コースにおいて2021年度入学生からICT端末一人一台制度の導入などが行われている。今回は、フレックス・技能開発コースにおけるICTの取り組みを紹介する。

2 職員同士のコミュニケーションツールMicrosoft Teams

2020年度より、教職員用のSurfaceが導入された。これにより、テレワークの実施やオンライン授業等、ICTを活用した取り組みが一気に拡大した。最初に紹介するのは、Microsoft Teams（以下Teams）である。これは、教職員同士でのコミュニケーションツールであり、以前まで利用していた内線に代わり活用できる。また、オンライン会議や複数人でのチャットを行えるため、会議や打ち合わせを集まることなく行うことができる。フレックス・技能開発コースでは、部活動における出張が多いため、今後もTeamsを活用し、教職員同士のコミュニケーションを円滑に行っていききたい。

3 オンライン授業ツールZoom

2020年3月2日から全国の小学校、中学校、高等学校の一斉休校が実施された。急な一斉休校となったため、当初は、プリント等での課題対応をしていたが、郵送その他多くの課題が見られた。そこで、導入されたのがオンライン会議ツールのZoomである。Zoomでは、同時に300名、参加者側は会員登録不要で、オンライン会議を行うことができる。2020年4月28日からフレックス・技能開発コースにおいても、Zoomを使用するオンライン授業を行うことになった。Zoomを用いた授業展開の方法としては2つ挙げられる。1つ目は、パワーポイントやホワイトボードなどを活用し、画面共有を行う方法、2つ目は、教室のホワイトボードに板書を行い、それをSurfaceのカメラで撮影し、生徒に見せる方法である。どちらの方法も一長一短あるが、教科の特徴や先生方個人のパソコンスキルなどを考慮し、授業を行っている。

しかし、Zoomでのオンライン授業には、課題がある。それは、授業担当者以外のZoom IDに誤ってアクセスしてしまう可能性である。そのため、当コースでは、Zoom IDを各教室に紐付けし、生徒は、自身が所属する教室のZoom IDにアクセスする体制を取った。その結果、誤ってアクセスすることやIDやパスワードを間違えてアクセスできないという事態を減らすことができた。また、教員側から生徒の状況を確認できない点も課題である。授業の際、生徒の様子を確認できない点は、フレックス・技能開発コースにおいては、極めて重要である。Zoomを接続しても、端末の前に生徒がいないことやノートを取っていないなどの可能性が考えられる。オンライン授業を受ける生徒の姿勢は今後の課題である。

4 生徒・保護者とのコミュニケーションClassi

Classiは、新型コロナウイルス流行前から導入していたが、正直、稼働率はそこまで高くはなかった。しかし、今回の新型コロナウイルスの影響を受け、当コースにおいてもClassiの稼働率が大きく向上した。向上の要因として考えられるのは、先生方や生徒・保護者の意識が改善された点が大きいと考える。臨時休校等でプリントが配布できない場合などにClassiを通じて連絡をするという流れが浸透してきた。そのため、生徒も保護者もClassiを活用するようになったと考える。今後もClassiの稼働率を維持していきたい。学園からの連絡、コースや学年からの連絡、担任連絡や部活動、さらに選択授業毎のグループなどきめ細やかな可能性があると考えられる。

5 ICT環境の整備

教職員用のSurface導入や教室常設プロジェクターの設置などのICT端末導入、寮のWi-Fi整備や生徒用ルーターの貸し出しなどICT環境の整備のために、理事長加藤雄彦校長先生よりご高配を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

フレックス・技能開発コースにおいても2021年度入学生から一人一台のChromebookを導入し、2023年度には、フレックス・技能開発コースの在籍生徒全員がICTデバイスを持つこととなります。これに伴い私たち、教職員もより一層のパソコンスキルの向上に努めて参ります。

(6) フレックス・技能開発コースにおける広域通信制併修の取組

フレックスコース 小原沙希子

1 なぜ併修を実施することになったのか

新型コロナウイルスの感染拡大により臨時休校が続き、必履修科目の単位修得のための年間授業時数の確保が困難になり得る状態であった。本学園では生徒の卒業・進級に影響が出ると考え、補完的な措置としてILC宮城の協力を得ながら通信制課程での併修という方策を導入した。本来ならば単位認定のために1単位1,2000円かかることを今回全校生徒を対象に無償で行った。

実施するに当たり、一連の処理（申請→編成→プログラム構成→実施→スクーリング処理→レポート処理→認定試験→単位認定）をコースによるばらつきを無くし円滑に行うために、各コースから代表を募り「併修チーム」を結成した。そして併修計画（作業工程）を作成し、それぞれのコースに合わせた併修の取り組み方や期間等といった調整を、併修チームと各コースの教頭、教務部長とで連携を取り合いながら行った。

2 実施するにあたって注意すること

生徒、教員共にレポート、スクーリング、Lネットスクーリング視聴等の実施状況が把握できるようにすることが重要であった。そのためFKコースでは各科目の名簿を作成し、教員が実施状況を記録するようにした。特にレポート関係で「提出した」「提出していない」などといったトラブルが起これないように配慮した。そしてレポートの提出が間に合わない可能性のある生徒には、教科担当者と担任が連携して定期的に声掛けをし、提出を促した。



FK コース用併修名簿ファイル

3 履修登録から単位修得まで

併修を行う前にまず履修する科目を登録する必要がある。そして履修登録完了後、その科目についての学習を行うことができる。学習はそれぞれの科目で設定されている規定回数のR（レポート）、S（スクーリング）、T（テスト）の3つそれぞれをクリアすることで単位修得となる。これらの流れは前期・後期共に共通である。

今回併修の実施にあたり、全日制課程の生徒の中でも登校日数が短くなる3年生の優先度を高くし、1・2年生についても、ILC宮城が設置する必修科目の履修登録をした。それによりILCの開設科目に合わせて履修したため、全日制では、例えば世界史Aを履修するところ、世界史Bに置き換えるなどした。

令和2年度FK併修履修科目一覧（*はILC開設科目に変更したもの）

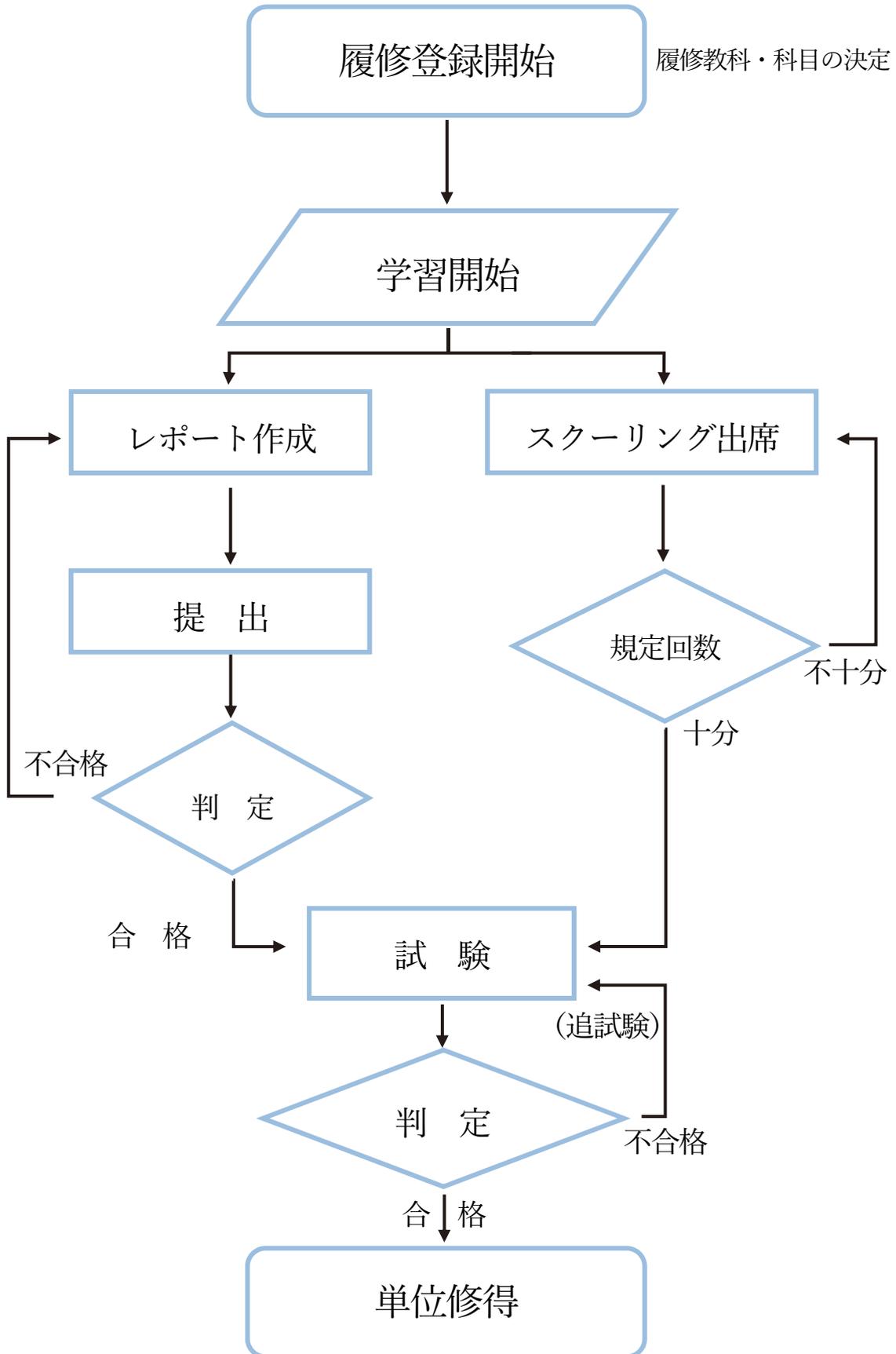
・前期分

| | 科目名 | 報告課題数 | 面接時数 | 試験回数 |
|----|----------------|-------|------|------|
| 1年 | 国語総合a | 6 | 2 | 1 |
| | 世界史Ba* | 6 | 2 | 1 |
| | 保健a | 3 | 1 | 1 |
| | コミュニケーション英語I a | 6 | 8 | 1 |
| 2年 | 数学I a | 6 | 2 | 1 |
| | 生物基礎a | 3 | 4 | 1 |
| | 体育2a | 1 | 5 | 1 |
| | 保健b | 1 | 1 | 1 |
| | 社会と情報b | 2 | 2 | 1 |
| | 家庭総合a（Fのみ）* | 4 | 4 | 1 |
| 3年 | 日本史Bb* | 6 | 2 | 1 |
| | 体育3ab | 1 | 5 | 1 |
| | 書道I ab | 3 | 4 | 1 |
| | 家庭総合ab* | 4 | 4 | 1 |

・後期分

| | 科目名 | 報告課題数 | 面接時数 | 試験回数 |
|----|-------------|-------|------|------|
| 1年 | 国語総合b | 6 | 2 | 1 |
| | 世界史Bb* | 6 | 2 | 1 |
| | 数学I a | 6 | 2 | 1 |
| | 社会と情報a | 2 | 2 | 1 |
| 2年 | 日本史Ba* | 6 | 2 | 1 |
| | 生物基礎b | 3 | 4 | 1 |
| | 体育2b | 1 | 5 | 1 |
| | 家庭総合b（Fのみ）* | 4 | 4 | 1 |

【履修登録から単位修得までの流れ】



4 学習について

通信制課程の学習はR（課題レポートの作成）、S（スクーリング＝対面授業）、T（テスト）の3つで成り立っている。それぞれの学習方法は以下の通りである。

【R】：レポート

（生徒）：各科目で出された課題レポートを指定された期日までに取り組み提出する。科目によってレポートの枚数が異なる。

既定枚数例：国語総合a … 6枚

家庭総合a … 4枚

（教員）：提出されたレポートをチェックし「A」か「C」の評価を付ける。C評価だった場合は再提出となる。（全日制全体の補完的措置として各科目数百名単位の処理となるため、レポート評価はA・Cの2つに絞ることとした）

| 宮城県加勢町立・仙台育英学園高等学校通信制課程教材 | | | |
|---------------------------|-------|----|----|
| 【生物基礎a第1回総合課題】 | | | |
| 生徒番号 | シール貼付 | 氏名 | 評価 |
| | | | |

第1問 [P.12～14]

(1) アブタナの名前は、葉や茎の色は多様であるが、花弁の色・数・つき方、めしべやおしべ（ ）はそれぞれ共通している。

(2) すべての生物が共通した特徴をもつのは、（ ）を共有しているためである。

(3) 英語の祖先から、さまざまな生物が（ ）してきた過程を、樹木状の形で表したものを（ ）という。

(4) 生物の特徴を答えなさい。
 ①細胞からきている。
 ・DNAをもつ。
 ・生物はDNAを（ ）として用いている。
 ②エネルギーを利用する。
 ・生物は代謝から得たエネルギーを利用して、さまざまな（ ）活動を行っている。
 ③自分と同じ構造をもつ細胞をつくる。
 ・生物は、自分と同じ構造をもつ細胞をつくり、形質を（ ）に伝える。
 ④体内の状態を一定に保つ。

【ポイント】
 すべての生物には、「（ ）からできている」「（ ）をもつ」「（ ）を利用する」「自分と（ ）構造をもつ細胞をつくる」「体内の状態を（ ）に保つ」という共通性がある。

第2問 [P.16]

(1) 原核細胞と真核細胞の共通点について答えなさい。
 ・細胞は、（ ）によって外界と仕切られている。
 ・濃縮物質として（ ）（ゾナキリンゴ糖）をもっている。

(2) 原核細胞と真核細胞の特徴について答えなさい。
原核細胞の特徴
 ・（ ）をもたない。→DNAは（ ）中に存在する。
 ・ミトコンドリア、葉緑体などの細胞小器官をもたない。
 ・DNA、細胞質基質、細胞膜、細胞壁で構成されている。
 ・真核細胞に比べて大きさが小さい。
 ・原核細胞からなる生物→（ ）という。

真核細胞の特徴
 ・（ ）をもつ。→DNAは（ ）の中に含まれる。
 ・ミトコンドリア、葉緑体などの（ ）が存在する。
 ・真核細胞からなる生物→（ ）という。
 ・植物細胞の特徴→（ ）細胞壁、葉緑体など、
 ・動物細胞の特徴→（ ）細胞核、ミトコンドリア、液状化した（ ）をもつ。

第3問 [P.20～22]

(1) 原核細胞や真核細胞は、多くの割合を（ ）が占め、次いでタンパク質や脂質などの（ ）が含まれている。

(2) 生物の体に含まれる有機物について答えなさい。
 ・（ ）→細胞を構成する有機物のなかで、種類と量が最も多い。
 ・（ ）→タンパク質やグルコースなどがあり、エネルギー源となる。
 ・（ ）→脂肪などがあり、水に溶けにくい性質をもつ。
 ・（ ）→遺伝子の本体である（ ）、タンパク質の合成に関係するRNAなどがある。

(3) 細胞を構成する物質のりょうについて答えなさい。
 ・（ ）→生物の体内で起こる物質の分解反応と合成反応のすべてを指す。
 ・（ ）→単純な物質（無機物）から複雑な物質（有機物）を合成する反応。
 ・（ ）→複雑な物質（有機物）を単純な物質（無機物）に分解する反応。

(4) 代謝とエネルギーの関係について答えなさい。
 ・物質の合成や運動などの生命活動には、（ ）が必要である。
 ・（ ）→有機物を異化することでエネルギーを取り出す反応。
 ・（ ）→太陽の光エネルギーを用いて、無機物から有機物を合成する反応。
 ・光合成で合成された有機物のエネルギーは、（ ）によって生命活動を支える。
 エネルギーに変換される。

(5) ATPについて答えなさい。
 ・細胞において、物質の分解反応・合成反応といった（ ）に伴うエネルギーの吸収や放出を伴う。
 ・細胞、動物にいたるまで、すべての生物が共通にもつ。
 ・生体内のエネルギーの受け渡しを行う物質であることから、エネルギーの（ ）ともいわれる。
 ・ATPがエネルギーを放出して分解されると、ADP（ ）とリン酸ができる。
 ・（ ）では、有機物を分解しながらATPを合成している。生物は、このATPを分解することで生命活動に必要な（ ）を得ている。
 ・ATPは、（ ）（腺素）と（ ）（糖）が結合したアデノシン、3つの（ ）が結合した化合物である。

課題レポート（生物基礎）

【S】：スクーリング（面接指導）

①通常スクーリング

通常の授業と同じように教室で50分の対面授業。科目によってスクーリングの出席回数異なる。

規定回数例：国語総合a … 2回

家庭総合a … 4回

【スクーリング風景】



日本史B スクーリング



生物基礎スクーリング

②Lネットスクーリング

Lネット動画（授業映像）を各個人で視聴する授業。

- ・Lネットスクーリングはレポート作成などの学習の補助として、スマートフォンやタブレット、パソコンなどで、いつでもどこでも視聴ができる。また、履修している科目の動画を継続的・計画的に視聴した場合にはスクーリングの一部（規定回数の10分の6）が免除される。視聴の際はログインが必要になるため、個々に配布されるID・パスワードをLネット総合サイト*から入力することで視聴が可能になる。

*Lネット総合サイト … Lネット総合サイトではレポートの提出枚数やスクーリングの出席回数が確認できるため、生徒個人で履修状況の把握をすることができる。

※今回併修を実施するにあたり、Lネットスクーリングの視聴になかった体育や新しく更新した書道のLネット教材を教科担当者が作成した。

【Lネット総合サイト画面】

Lネット総合サイトログイン画面

履修状況確認画面

『T』：テスト

前期・後期の学期末にそれぞれ1回ずつ行われ、40点以上で合格となる。

※ただし、受験資格は既定のレポート回数、スクーリング回数を満たしていることが条件である。

【テスト風景】



5 併修を実施してみ①

まず、この1年実際に併修を実施してみてどうだったか、良かった点と問題・課題点について一部の担当教員に尋ねた結果、以下のような回答をいただいた。

○良かった点

- ・生徒全員が同じレベルで進められた
- ・課題レポートに真剣に取り組む生徒の様子を見ることができた
- ・Lネットスクーリングもあるため、緊急時に行くには良かった
- ・臨時休校が続き、授業計画が予定通りに進められない可能性があり、併修の課題レポートで先取り学習ができて良かった

×問題・課題点

- ・単位修得までの流れ等が教員・生徒共に十分に理解できていないところがあった
- ・全日制課程の中に通信制課程の授業を取り入れたために、生徒個人で行う作業が増えてしまった
- ・一部生徒の課題レポートの回収が進まなかった
- ・オンライン授業と同時進行だったため、併修の時間を設けるのが大変だった
- ・公認欠席や係留生徒も多かったため、テストやスクーリングの終了時期が予定より伸びた

併修は初の試みであるため、やり方を確立するのに時間はかかったが、臨時休校が続いたとしても単位修得が可能な体制を取ることができたことが一番良かった点であると言える。しかし、初めて取り組む分散登校やオンライン授業もある中で、レポートの指導やスクーリングを同時に展開しなければならなくなったため、教員・生徒共に併修に対する理解が不十分だったり、計画以上に負担は大きかった。

6 併修を実施してみ②

併修は進級・卒業に向けた「単位認定」のための措置ということで実施されたが、全日制課程と通信制課程では教育課程や教務規程に違いがあったりと様々な制約がある中で、何を履修するのか、どのように全日制で取り組んでいけば良いのかが議論になった。まず、コースによってカリキュラムが異なるため、履修内容は各コースに合わせて取り組むこととなったが、FKでは特に必修科目が多い第1学年に大量のレポートをこなしたり、スクーリングを受けるのは負担がかなり大きいと話題になった。そのため必修科目の中でもより優先度が高い科目を履修させ、少しでも負担を軽減し、取り組ませた。

オンライン授業や分散登校と同時進行で実施された併修は予想以上に忙しく、教員は通常業務に加え、レポート添削や名簿への記入といった作業を教科担当者や担任が行っていたため、負担も大きかったように感じた。生徒達は併修カリキュラムにも頑張っており、単位修得に努めていた。そうして今年度を終え、FKコースの前期、後期それぞれの実施状況は以下の通りである。

【FKコース併修実施状況】

| 学年 | 実施状況（前期） | | | | | | | | 備考 |
|----|----------------|------|---------|-----|-------|-----|-------|-----|----|
| | 併修科目 | 併修者数 | スクリーニング | | レポート | | テスト | | |
| | | | 実施報告済 | 未完了 | 実施報告済 | 未完了 | 実施報告済 | 未完了 | |
| 1年 | 国語総合-a | 383 | 380 | 3 | 380 | 3 | 380 | 3 | |
| | 世界史-a | 383 | 380 | 3 | 380 | 3 | 380 | 3 | |
| | 保健-a | 383 | 380 | 3 | 380 | 3 | 380 | 3 | |
| | コミュニケーション英語Ⅰ-a | 383 | 380 | 3 | 380 | 3 | 380 | 3 | |
| 2年 | 数学Ⅰ-b | 345 | 345 | 0 | 345 | 0 | 345 | 0 | |
| | 生物基礎-a | 345 | 345 | 0 | 345 | 0 | 345 | 0 | |
| | 体育Ⅱ-a | 345 | 345 | 0 | 345 | 0 | 345 | 0 | |
| | 保健-b | 345 | 345 | 0 | 345 | 0 | 345 | 0 | |
| | 家庭総合-a | 345 | 345 | 0 | 345 | 0 | 345 | 0 | |

| | | | | | | | | | |
|----|---------|-----|-----|---|-----|---|-----|---|--|
| 2年 | 社会と情報-b | 345 | 345 | 0 | 345 | 0 | 345 | 0 | |
| 3年 | 日本史B-b | 290 | 290 | 0 | 290 | 0 | 290 | 0 | |
| | 体育Ⅲ-a | 290 | 290 | 0 | 290 | 0 | 290 | 0 | |
| | 体育Ⅲ-b | 290 | 290 | 0 | 290 | 0 | 290 | 0 | |
| | 書道Ⅰ-a | 290 | 290 | 0 | 290 | 0 | 290 | 0 | |
| | 書道Ⅰ-b | 290 | 290 | 0 | 290 | 0 | 290 | 0 | |
| | 家庭総合-a | 290 | 290 | 0 | 290 | 0 | 290 | 0 | |
| | 家庭総合-b | 290 | 290 | 0 | 290 | 0 | 290 | 0 | |

| 学年 | 実施状況（前期） | | | | | | | | 備考 |
|----|----------|------|---------|-----|-------|-----|-------|-----|----|
| | 併修科目 | 併修者数 | スクリーニング | | レポート | | テスト | | |
| | | | 実施報告済 | 未完了 | 実施報告済 | 未完了 | 実施報告済 | 未完了 | |
| 1年 | 国語総合-b | 379 | 371 | 2 | 371 | 2 | 373 | 0 | |
| | 世界史B-b | 379 | 371 | 2 | 371 | 2 | 373 | 0 | |
| | 数学Ⅰ-a | 379 | 371 | 2 | 371 | 2 | 373 | 0 | |
| | 社会と情報-a | 379 | 371 | 2 | 371 | 2 | 371 | 2 | |
| 2年 | 日本史B-a | 340 | 340 | 0 | 340 | 0 | 340 | 0 | |
| | 生物基礎-b | 340 | 340 | 0 | 340 | 0 | 340 | 0 | |
| | 体育Ⅱ-b | 340 | 323 | 17 | 340 | 0 | 340 | 0 | |
| | 家庭総合-b | 191 | 191 | 0 | 191 | 0 | 191 | 0 | |

7 終わりに

仙台育英学園高等学校は全日制課程と通信制課程の両課程があるため、今回「併修」の実施が可能となったが、全日制課程をこなしながら通信制課程の内容をこなすのは教員・生徒共に負担が大きかった。しかし、今までにない取り組みの中で試行錯誤しながらも無事に全ての工程を終えることができたのは、学校一丸となってやってきたからではないだろうか。来年度はオンライン授業の体制が整ったため、今年度のような補完的措置としての併修は実施しないということが決定したが、大変貴重な経験をすることができたと思う。

昨年度まで私はILC青森に所属していたこともあり、今回併修チームに参加することになった。各コースから送られてくる大量のレポートやスクリーニングなどの入力作業や変更・訂正についての事務的処理など数が多く大変ではあったが、スムーズに行うことができた。その点については併修チームに貢献できたのではないかと考えている。この度は併修チームに参加させていただき、ありがとうございました。また、新型コロナウイルス感染拡大により臨時休校が続く、学校再開時期の見極めが難しい状況の中で、通信制課程併修をご提案、ご指導、ご助言いただきました加藤雄彦理事長・校長先生に心より感謝申し上げます。そして、併修チームの先生方、この一年間大変お世話になりました。ありがとうございました。

(6) 学級だよりの有効性 ～学級だよりを核にした学級経営の研究～

技能開発コース 館 和廣

序章 はじめに

本論文は、「学級だよりの有効性～学級だよりを核にした学級経営の研究～」をテーマとした研究論文である。

本論文は学級だよりの有効性と学級だよりを核にした学級経営について考えることを意図している。筆者個人としてはテーマ設定以来8年目の継続研究であり、2年目時点の実践については、多賀城市教研「教育研究論文」で発表している。

序章では、筆者が本論文のテーマを設定するまでの経緯と、本研究の目的と基本的立場について述べていく。

0-1 本研究の意図

本研究は、学級だよりの有効性と学級だよりを核にした学級経営について考えるものである。筆者は、学級だよりの発行は、生徒の成長や学級経営に有効に働くと考え、筆者がこのように考えるに至った理由は以下である。

学級だよりとの出会いは、筆者の子ども時代である。特に中学校時代の恩師は年間何百という発行号数であり、筆者の教師観・教育への志の根幹となる出会いである。

筆者は、教育現場に就いて1年目から学級だよりの毎週発行を始めた。当時中学1年の担任をして、秋頃になって2つの問題が生じた。学級活動の課題の中で「自分のよさ」や「友人のよさ」を書き出す授業では、友人のよさはもとより自分のよさを書き出すことができない生徒がいたのである。また、同じく学活の課題「ピア・カウンセリング」の授業では、友人の悩みを解決し合う書き込みをするのがねらいであるが、悪口ばかり書き込む生徒がいたのである。（※あくまで1年目の失敗談であって、この授業は本来、事前の約束事の徹底とそこに至るまでの温かい人間関係づくりが必要である。）

「自分のよさ」に気づけない自己有用感の不足、悪口に囲まれ、ひいては「いじめ」にも発展する冷たい人間関係という2つの問題を解決する手立てを考えていた中で、当時偶然ACジャパンのテレビCM「イイトコメガネ」を目にした。この「イイトコメガネ」をヒントに、短学活で「よい所探し」を取り入れ、生徒同士で友人の良い所を見つけて発表させた。生徒の見つけた良い所に担任の見つけたものも加えて学級だよりに毎週掲載していった。それまで負の連鎖にあった人間関係と雰囲気明るく・生き生きとしたものへと大きく変わっていったのである。見つけてもらって（褒めてもらって）学級だよりに名前が載ることを生徒は嬉しく感じたり、名前を載せてもらうために（褒めてもらうために）良いことをしようと頑張ったりと良い運動が生まれた。家庭でも我が子の良い所について話題にするなど、学校・生徒・家庭が1つのチームとして協同することにつながったのである。

この高崎中学校時代（2013）の学級だよりは、理想教育財団からプリントコミュニケーションひろば新人賞に選ばれた。以来、2019年まで7年連続で入賞・入選を果たしている。このことは学級だより発行の励みになっている。また、大きな自信・強みを拠り所にしながら、学級だよりを核にした学級経営を行う原動力にもなっている。

東京有楽町の朝日ホールでの受賞式の様子（2014）
立食パーティーも催された。



第16回受賞者（2020年12月発表）

※前任校の令和元年度分が発表された

| | |
|-----------------------|--------|
| ●学級通信 函館市立亀田中学校 | 綿谷 魁 |
| ●学級通信 岩手県葛巻町立葛巻中学校 | 鈴木 朋弘 |
| ●学級だより 多賀城市立高崎中学校 | 館 和廣 |
| ●学級通信 酒田市立第三中学校 | 宮嶋 真佐美 |
| ●学級便り 酒田市立第三中学校 | 村田 里里 |
| ●学級だより | |

0-2 本研究の目的と基本的立場

本研究は、学級だよりの有効性と学級だよりを核にした学級経営について考えるものであった。

前述したテーマ設定に至る根幹・経緯・原動力から、筆者は学級だよりが学級経営に有効に機能するという立場に立つ。

すなわち、本研究の目的は、『学級だよりの有効性と学級だよりを核にした学級経営』を考えることである。これが本研究の基本的立場であり、本研究の目的である。

第1章 令和2年度学級だよりと学級経営の実践

序章では、本研究の意図を示し、本研究の目的と基本的立場を明らかにした。

本章では、令和2年度に実際に発行した学級だよりと学級経営の実践について紹介する。

1-1 令和2年度の実践

本章では、令和2年度に実際に発行した学級だよりと掲示物との連動、学級経営の手段の詳細について紹介していく。まず、学級だよりの制作方法について以下に示す。

筆者の制作手順は、Excelで1ページ目を作成し、2ページ目以降はWordで作成し、これらをA4裏表印刷で組み合わせて配布している。令和元年度まではすべてのページをWordで作成していたが、個別データを掲載する上ではExcelが有効である。しかしExcelはWordほど高い自由度でテキストボックスや画像を配置することが困難であるため、Wordと併用している。

10月発行のVol.23 これが基本レイアウト



こちらは3月最終日の様子を伝える紙面



タイトル画像はフリー素材のイラストAC (<https://www.ac-illustr.com/>) を利用して、作っている。紙面のデザインは、テレビ番組のテロップや各種SNSやスマホアプリの画面、雑誌等から配置・フォント・色の組み合わせ・グラデーション等を参考にしながら作り上げている。

印刷は基本的には白黒印刷で、写真を主として見せたい場合には個人の持ち込みプリンター (Canon TR153) で印刷した。教室の掲示板には、3つのクリアポケット (セキセイAZ-575) に入れて毎週掲示した。

毎週金曜日の発行で正規の号数で第42号まで発行した。その他号数を付けなかった臨時発行も含めれば50号を越えた。

1-1-1 予定のコーナー

毎号掲載したのは予定のコーナーである。毎週金曜日発行のため、次週の予定を掲載した。予定には登校時間・日直・SHRの司会担当・掃除当番と時間割、次週以降の予定を掲載した。今年度はさらに分散登校の班、登校教室、ZOOMのID、パスワードも掲載した。

生徒も保護者も先の見通しをもつことは、安心感のある生活を送る上で不可欠であると筆者は考えている。また、筆者自身も予定を再確認することができ、LHRや総合、テスト計画等生徒にやらせるべきことを、見通しをもって考えることができ、便利である。

デザインは、様々な雑誌・スケジュール帳、スマホアプリのカレンダー、スケジュールアプリ、ホームページなどを調べた結果、NHKのホームページの表示形式が一番見やすいと結論付け、筆者は採用している。

登校の週の予定

| 今週がんばると4連休 | |
|--|--|
| 来週の分担: 3期室長・黒板係・美化係 掃除当番: たてファンクラブ/女子B班 金曜のみ室長: 班長会(悠真君・拓斗君・望暁さん・みなみさん)の担当 | |
| ◆9:10登校・スマホBOXに収納・着席完了 | |
| 9月 月曜 | 39名全員通常一斉登校 ①公文2世3情4現社5総 6国 2学期考査 14日前 |
| 14日 | 9月 火曜 |
| 15日 | ①数2英3体4B学5国 ごみ捨て ※D学級選択生徒は8校時あり |
| 9月 水曜 | ①科2体3世4保5LHR6英 |
| 16日 | 9月 木曜 |
| 17日 | ①体2国3公文4B学5現社 ごみ捨て ※D学級(1K2は該当者なし) |
| 9月 金曜 | ①英2科3国4数(プレテスト) ※C学級選択生徒は5校あり |
| 18日 | ●9/19(土)~22(火)4連休シルバーウィーク(テスト1週間前です。勉強しないと) ●9/28(月)~10/2(金)2学期考査 |

登分散・オンラインの週の予定

| | |
|---|--|
| A班の日 A班の室長・黒板係・美化係 掃除当番: 掃除班B/We | |
| B班の日 B班の室長・黒板係・美化係 掃除当番: イイトコメカネズ/女子班 | |
| ◆9:10登校・スマホサイレント設定・着席 オンライン班も9:10~帰りにまでしっかりど参加。パスワード「3684111」1K2D: 881-062-1852. 情報はID: 399-048-7422 | |
| 11月 月曜 | A班登校B班オンライン 1公文2世3情4現社5総 6国 |
| 16日 | 11月 火曜 |
| 17日 | B班登校A班オンライン 1数(B班プレテスト)2英3体 4B学5国 ※D学級生徒は6校時あり ごみ捨て |
| 11月 水曜 | A班登校B班オンライン 1科2体3世4保5LHR6英 |
| 18日 | 11月 木曜 |
| 19日 | B班登校A班オンライン 1体2国3公文4B学5現社 ※D学級(該当者なし) ごみ捨て |
| 11月 金曜 | A班登校B班オンライン 1英2科3国4数(A班プレテスト) ※C学級生徒は5校あり せり7掃除あり |
| 20日 | ●23日~の週 月 勤労感謝の日(祝日) 火・木B班登校A班オンライン 水・金A班登校B班オンライン |
| ●3学期考査 1年生午後登校(2・3年午断) A班1K2教室・B班2K2教室で受験 | |

1-1-2 提出物・宿題・持ち物のコーナー

事務書類の提出物から各科目の宿題、長期休み明けには上靴や雑巾等の持ち物について掲載した。今年度はさらに広域通信制課程併修での毎週のレポートの提出期限も掲載した。

こちらも筆者自身、毎日の呼び掛けを正確に欠かさず行うことができ、便利である。

提出物/持ち物/宿題

- 尿検査未提出者 10(金) 最終回収
- テスト計画表6日(月) 回収します。
- Classi7/1 投稿「自宅でのオンライン学習環境の確認」(生徒) 入力する
- B学「漢字検定」受講者 7/6, 7/7の昼休みに進路指導室で申込です。受講者以外でも希望者は漢検申込可
- ロッカー鍵すぐ取付けを (5,25,31,36,37の方)
- 通信制併修レポート提出
A班 7/10まで(英5保3世3④)
B班 7/10まで(英5保3)
- ※レポートと教科書は持ち帰って進め、授業でも必要なもので持ってくる。

提出物/持ち物/宿題

- レポート提出 12/11(金) 国⑥世⑥
- 今年と来年の漢字 12/8(火) 提出
- 自宅学習日の各ポートフォリオの入力
 - ◆ テスト計画 (2/1期限)
 - ◆ 映画のクイズ・感想 (2/3に入力)
 - ◆ 総合の新聞 進路学習① (2/5まで)

1-1-3 学習記録のコーナー

◆Classi 学習記録学習日数 MVP

年間 4/22~ 3学期 10/5~

| | |
|------------|----------|
| 208日 彩音さん | 47日 春華さん |
| 198日 春華さん | 46日 隼士君 |
| 197日 隼士君 | 44日 彩音さん |
| 178日 みなみさん | 34日 純一郎君 |
| 153日 望暁さん | 28日 望暁さん |
| 152日 純一郎君 | 23日 星奈さん |
| 152日 華奈さん | 23日 唯心君 |
| 142日 優さん | 21日 琉偉君 |
| 133日 来流さん | 19日 優さん |
| 127日 聖奈さん | 18日 桃華さん |
| | 18日 華奈さん |

現在も全学園全コース No.1 記録率!
学園を先頭から引っ張る31 K2

◆学習記録 週合計学習 MVP

テスト計画1週目 11/9~

| | |
|--------------|---------------|
| 男子の部 | 女子の部 |
| 唯心君 31時間 20分 | 望暁さん 39時間 40分 |
| 有橋君 12時間 30分 | 華奈さん 14時間 15分 |
| 隼士君 10時間 00分 | 瑠衣さん 13時間 00分 |
| 蒺炎君 9時間 55分 | 星奈さん 11時間 30分 |
| 琉偉君 8時間 30分 | 聖奈さん 10時間 20分 |

2週目 11/16~ 灯し合おう!
チームメイトの綱魂に火を

| | |
|--------------|---------------|
| 男子の部 | 女子の部 |
| 蒺炎君 13時間 00分 | 望暁さん 31時間 40分 |
| 唯心君 11時間 30分 | 聖奈さん 17時間 45分 |
| 魁君 6時間 15分 | 来流さん 11時間 30分 |
| 純一郎君 6時間 00分 | 瑠衣さん 9時間 30分 |
| 集嵐君 6時間 00分 | さくらさん 9時間 30分 |

家庭学習の時間や宿題の進み具合、取り組み日数等を集計して生徒名を表彰形式で掲載した。「どうせ、みんなやってないから大丈夫」という意識から「みんなやってるからやらなきゃばい」と思わせるねらいがある。筆者も保護者も「勉強しなさい」と声掛けをする以上の効果が期待できると考える。「1日10時間」「ワーク7回目」など周りの生徒が刺激を受けるような情報も掲載した。

学習記録集計の根拠となるのはClassiの学習記録である。4月から3月まで欠かさず入力するよう声掛けを行った。

週ごとの学習時間、学習日数についての個別データをExcelのVOOKUP関数により1ページ目の下部に挿入した。

| | | | | | |
|----------|-------|----------|-------|-------|----------|
| 年間学習合計時間 | 711 | 時間 | 記録日数 | 222 日 | えらーい!! |
| イトコ見つけた | 101 個 | 見つけてもらった | 180 個 | | |
| | | | | 6 | 遠藤 望暁 さん |

定期考査前には、生徒各自に目標点数・目標学習時間・ワーク等の目標回数を設定させ、集計して学級全体の目標として示し、その達成度を掲載した。考査への達成状況も個別データとしてページ下部に示した。

2学期以降は、前の学期までの自分との比較ができるようにし、「昨日の自分に負けるな」「1学期の自分に負けるな」をキーワードに慣れが出がちな1年の後半の生徒の気持ちを鼓舞した。

今年度は特に、臨時休業期間や自宅学習日に学習記録のコーナーのみ特別版で作成して、誘惑に負けそうなお家時間に刺激を送り続けた。また、学習記録の「生徒へのメッセージ」欄にはほぼ毎日全生徒にメッセージを送り続けた。

残りが少なくなってきました。テスト前最後の登校となる明日。質問・疑問友達にあれきいておこうかな?先生にあれ質問しておこうかな?あのプリントもらってなかったな?もらおうかな?もう一枚もらってやろうかな?とか、テストへの準備として必要なことないかな?と再確認して明日最後の準備を着々とやって週末を迎えよう。ロッカーから持ち帰るものもあるだろうし。山場の金土日にするために、ぬかりないの準備を。

削除

目標56時間中35時間で63%です。

削除



詳細

1年K2組 (5番)
えんどうじゅんいちろう
遠藤純一郎

1時間 30分

今日は、家帰ってからテスト勉強しっかりできたので良かったです。
明日も頑張ります。

定期考査3週間前に作成した計画表の記入または入力内容をExcelのVLOOKUP関数を駆使して出力した個別のデジタル計画表。Classi学習記録の入力内容をもとに毎週金曜日に出力して、全生徒・全保護者のClassiのメッセージに送信を行った。

目標点数・理想の科目バランス・目標入力率・その日の過去の自分との比較ができるグラフ、目標時間と実際のカレンダーで構成される。



1-1-4 担任の思い等の文章のコーナー

学級の頑張ったことや注意・指導したこと、テストへ向けての思い、連休前の注意点などをなるべく包み隠さず伝えて、担任の「こうしていきたい」の思いを正直に伝えた。理想や思い・願いは担任から日々口にすることで、生徒に伝わり、形になっていくとの思いでこのコーナーに掲載したことは、SHRで何度も繰り返し伝え続けた。

「がんばりたい！」を後押しし合うラスト3か月

2021年がスタートしました。「節目」というのは、**新たな決意・志・思いをもつこと**を後押ししてくれるものです。そして、その思いの**実現へ向けてスタートを切るチャンス**でもあります。生徒たちには別紙の通り「2021年はこんな年にしたい！」という思いを書いてもらっていました。**一挙手一投足を「新年こそはがんばりたい！」**という思いにつながるよう、日々1mmずつでも積み上げさせていきたいと思ひます。また、**級友の「頑張りたい思い」を後押しすること**も大事にさせたいと思ひます。この1年K2組39名のメンバーで切磋琢磨できる時間も残りわずかです。

4月からは2年生へと進級します。**十分な助走がないと大きく羽ばたくことはできません**。その走り方で、フォームで、スピードで、大きく羽ばたけるのかと自問自答し、自身と対話をする**3か月の助走期間**にさせたいと思ひます。

春に花を咲かすためにも、根を張り巡らせ、つぼみをたくさんつける3か月に

新年になった「今」というチャンスを逃さずに

1-1-5 掃除の記録「Z-1 グランプリ めざせ！ゾウキング」のコーナー

| 清掃 Z-1 グランプリ「めざせ！ゾウキング」11/16~11/26の記録 | | | | | |
|---------------------------------------|--------|--------------|----------------------|-----------------|----|
| 全グループ平均 -14.4分 | グループ名 | 番長 | メンバー | 終了時刻を基準とした平均タイム | 順位 |
| A班 | 窓側男子班 | タイガース | 白蘆 祐太, 純一郎, 隼斗 | -16.0分 | 1位 |
| A班 | 窓側女子班 | ライオン | 星奈 結衣, 望明, 未流, 小陽 | -16.0分 | 1位 |
| A班 | 廊下側男子班 | 掃除班B | 颯介 悠真, 陽翔, 幸輝 + 健 | -15.0分 | 3位 |
| A班 | 廊下側女子班 | We | 未来 莉奈, 聖奈, 優, 妃奈, 春華 | -15.0分 | 3位 |
| B班 | 窓側男子班 | たてかずひろファンクラブ | 隼斗 汰樹, 唯心, 隆也, 有梧 | -13.5分 | 7位 |
| B班 | 窓側女子班 | 女子B班 | 瑠衣 永愛, みなみ, 穂華, 翠泉 | -12.5分 | 8位 |
| B班 | 廊下側男子班 | イトコメガネーズ | 颯史 龍, 琉偉, 莉央, 来輝 | -14.0分 | 6位 |
| B班 | 廊下側女子班 | 女子班 | 彩音 華恋, さくら, 芽依 + 健 | -14.5分 | 5位 |

毎週の掃除のタイムと取組の様子の写真を掲載した。また、教室の後方のごみ箱付近の掲示板に掃除班の掲示物とタイムを掲示した。

筆者の学級では週替わりで教室掃除を男女別の2班集体で行っている。教室を窓側3列と廊下側3列の半分ずつに分け、時間割上の清掃終了時刻から何分前に反省会まで終わることができたかを毎日記録して、競わせながら活動させている。

「ゾウキング」という実践もまた高崎中学校時代（2014）の経験から生まれたものである。掃除中にサボってしまう生徒やだらだらと活動して帰りの会がいつまでも始められないということがあった。このように掃除を「面倒だ」「サボりたい」「だらだらしてれば誰かが終わらせてくれるだろう」と考える生徒は必ずいると考える。これは男女混合の1つの班で行うと「男子がサボってます」などという事態が高確率で起こると筆者は考えている。そこで、それぞれ5人程度の男子班と女子班に分けてみると、どういうわけか全員が立派に活動するようになるのである。

1班ではなく、2班集体にしているのは、戦国大名の逸話にヒントを得ている。豊臣秀吉にまつわるエピソードに三日で石垣を修理した、一夜で城を築いたなどがあるが、だらだらと作業をさせるのではなく、小さな班に分けて競わせたと言われている。このように、モチベーションを保つのが大変な作業では、「競うこと」または「他人が真面目に頑張っている姿を間近で目にする」ということが良い刺激になるということである。

これらの取組に『目を引き、気分を高揚させるようなネーミング』を考えたところ、愛媛県で実際に行われている「Z-1グランプリ」というものを見つけた。このZ-1グランプリは、廃校になった宇和町小学校の日本一長い109メートルの廊下を雑巾がけでタイムアタックレースを行うイベントである。このレースの優勝者には「ゾウキング」という称号が贈られる。この愛媛県のレースから名前をとって、筆者の学級では掃除を「Z-1グランプリめざせ！ゾウキング」としてタイムを記録しながら行っている。タイムの記録・判定は各班の反省会で筆者が発表している。なお、ほうき・雑巾・机運び・ちりとり等の活動の中で手抜きがあればタイムの記録にペナルティが課されるルールにしている。



1-1-6 その週の写真コーナー

前述の掃除の写真に加えて、その週の学級の活動の様子の写真を掲載した。最初のLHRでの全体の集合写真（今年度は分散班で）、席替え後には新しい生活班の集合写真、年末や年度末には全員での集合写真を掲載した。また、LHRや総合で生徒が課題に取り組んでいる様子や発表の様子も掲載した。今年度は行事が少なかったものの、入学式の写真や最終日の分散会の様子を掲載できた。

序章で触れた理想教育財団の審査員からは、記念写真の掲載は保護者にとってありがたいが、生徒が学級での活動に没頭している動きのある写真を掲載することが、学級だよりでは教育効果が高いと講評をもらっている。



教室の掲示板のイトコカード掲示コーナー

※カード入れにはヨドバシカメラで見つけた9ポケットシート（エポック社）を使った。生徒1人分で3ポケット使用し、1つのポケットには10数枚も入り、1年間最後まで使えた。



1-1-8 生徒の手書き文字を掲載するコーナー

筆者が西多賀中学校勤務時代の同僚の国語教師から学んだのが生徒の手書き文字を学級ごとに掲載するという手法である。この手法をヒントに筆者は、生徒の立てた目標や行事の感想などをスキャン（Canon iX500）で取り込んだ画像を掲載してきた。今年度は教室に七夕飾りを掲示する際に短冊を書かせていたので、短冊をスキャンして生徒の手書き文字をそのまま掲載した。また、年末年始には清水寺で行われている「今年の漢字」のように、生徒自身の今年の漢字を筆ペンで書かせたものをスキャンして掲載した。他にはテストの計画表の記入状況の優れたものを掲載して紹介した。

生徒が書いたテスト計画表



七夕の短冊



今年の漢字 2020 / 新年の漢字 2021



七夕の掲示物



今年の漢字の掲示物



1-1-9 総合やLHRの生徒の考え・感想を紹介するコーナー

総合やLHRの取組内容をまとめることに加え、生徒の考え・感想をなるべく毎時間学級だよりに掲載して共有した。今年度はオンライン授業の期間もこの取組を途切れさせることのないよう、Classiのポートフォリオ機能から生徒の入力内容を使用した。また、Classiのポートフォリオ機能のワードクラウドも記事の中で目を引く魅力的な素材だと感じたため、学級だよりに掲載することもあった。

12月の楽天講演会 ワードクラウドと感想など

楽天オンライン講演会

スペシャル(続き)

楽天は歴史の代名詞になることを目指して、ヒーローインタビューや取材では「楽天」「楽天」という言葉から「LOO」に集えて書籍していきたいと思っております。OOは何でしょうか?

答え 東北

5入社3年目の小野さんが大学で習って、習得していた経験は何だったのでしょうか?

答え 商(コケ)

楽天の楽天へ向け、一つのことをやっていくこと大切だが、たくさんある中から選べるというものが大切だ。「OO」なものを増やすこと、選んでおくこと、「OO」なものをたくさんもっておくことが大事か教えてくれると助かります。OOは何ですか?

答え 好き

世界地図、音楽、植物、英語、色々と好きなものがあるうちの1つが野球。好きなことが増えれば、楽しいことも増える。「これ」って固定しないで、※1日目の川岸さんは野球が「好き」な気持ちと上達するスピードは比例していると言っていました。

楽天では会社として「OOO」が得意なこととして、楽天人も入社して学びたいことを、ついでにのびのびとやらせてあげたいです。今まで勤めていた会社の中で一番「OOO」は何ですか?

答え スピード

楽天は「スピードが命」の会社だそうです。

楽天で働いていることは「OOO」を多くつくれること、目標を決めたら、そのために必要なことにおいて進んでいくか、テスト勉強も同じ、楽天は何で、得意は得意で、まっすぐに進んでいく「LOO」は後で立つ、「OOO」は何でしょう?

答え 復讐権

楽天では復讐権の権利が同時に進行しているので、復讐権をつけて仕事をしています。高校生活にも活かしてほしいこととして紹介してくれました。

<加藤さん・小野さんから>

若手社員に求められることとして、「わからないことをわからないままにしないて聞く」という話がありました。わからないことは「その場で解決する」ことで、どんな知識が得られ、勉強が楽しくなっていくそうです。

・就職活動は、「情報収集」が大事、情報が増えてきたら「取捨選択」も大事で、必要のないものは捨てていくこと。

11月の総合 生徒の意見や班のまとめ

総合「ストーリーとゼミスカウト」

11月の総合「ストーリーとゼミスカウト」について、生徒の意見や班のまとめをご紹介します。

ストーリーはあらたに作成されているという印象。ストーリーは「ストーリー」ではなく「ストーリー」でいいと思います。ストーリーは「ストーリー」ではなく「ストーリー」でいいと思います。

ゼミスカウトは「ゼミスカウト」ではなく「ゼミスカウト」でいいと思います。ゼミスカウトは「ゼミスカウト」ではなく「ゼミスカウト」でいいと思います。

班のまとめは「班のまとめ」ではなく「班のまとめ」でいいと思います。班のまとめは「班のまとめ」ではなく「班のまとめ」でいいと思います。

1-1-10 オンライン皆勤賞のコーナー

オンライン皆勤賞のコーナーは今年度ならではの取組である。学校に登校せずに自宅で受けることは、簡単なことではないかと思われたが生徒たちにとっては、「自律」が求められる一定のハードルがある取組であったようである。保護者は、部屋に籠っている我が子が当然、オンライン授業をしっかりと受けているものを思っていたようであるが、実はそうではなかったことに気づくコーナーともなった。ZOOMのレポート機能から朝のSHRから各授業の参加人数、各生徒の滞在時間などを集計して、1日すべての授業に参加できた生徒を表彰した。

オンライン皆勤賞 全授業の参加人数も表になっており「えっ！そこまで分かるの？」と生徒も驚いたはず

◆オンライン授業 1週間皆勤賞 (1/25~29 ZOOM 朝から帰りで全出席)

早士君、純一郎君、望帆さん、星奈さん、来流さん、聖奈さん、陽翔君、優さん、永愛さん、みひみさん、準尚君、椎華さん、有栞君、華恋さん、彩音さん、瑛倫君、さくらさん、魁君、莉央君

※参考資料 各授業の参加人数 (全 39 名中)

| 1月25日(月) | | | | | 1月26日(火) | | | | | 1月27日(水) | | | | | | | | | | | | |
|----------|----|----|----|----|----------|----|----|----|----|----------|---|----|----|---|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 朝 | 公 | 世 | 情 | 現 | 世 | B | 国 | 備 | D | 朝 | 科 | 体 | 世 | 復 | HR | 英 | 備 | | | | | |
| 33 | 33 | 37 | 35 | 37 | 37 | 39 | 32 | 36 | 35 | 36 | — | 38 | 33 | — | 33 | 34 | 37 | 34 | 35 | 35 | 34 | 33 |

| 1月28日(木) | | | | | 1月29日(金) | | | | | | | |
|----------|----|----|----|---|----------|----|----|----|----|----|----|---|
| 朝 | 体 | 備 | 公 | B | 現 | 備 | 英 | 科 | 備 | 数 | C | C |
| 36 | 36 | 38 | 39 | — | 38 | 33 | 34 | 32 | 39 | 37 | 37 | — |

1-1-11 保護者コメント紹介のコーナー

理想教育財団の審査員からは、学級だよりは双方向性・コミュニケーションが大事だとコメントをもらっている。教師からの情報発信だけではなく、保護者の思いや意見を掲載して共有することで、学校と家庭、家庭と他の家庭、生徒と他の家庭をつなげた。保護者の意見を掲載することは、保護者同士が読んで、共感できる保護者向けの内容であることはもちろんだが、ある保護者から学級の生徒たちへのメッセージ・アドバイスでもあり、地域教育であると筆者は考える。保護者に対して「我が子を見る保護者」としての立場に加え、「学級全体の生徒の人生の先輩・地域の大人」としての立場にも立ってもらえるのではないかと考える。

テストの計画表の裏面や面談日程調査に保護者コメント欄を設け、年に数回の意見・感想を集めた。今年度は用紙の提出に加えて、Classiのメッセージ機能も利用してコメントを集めることができた。この取組もあってか各家庭と年間数十通ものClassiのメッセージのやり取りを行うことができた。



1-2 第1章のまとめ

本章では、筆者がどのように学級だよりや学級経営を実践しているのかを詳しく述べてきた。学級だよりのコーナーと教室の掲示物、学級経営の手立てのそれぞれが密接に関わり合い、連動している。筆者自身の失敗経験から生まれた取組や出会った教師から学んだ取組、コロナ禍・オンラインといった令和2年度ならではの取組など、年々肉付けを行ったり、形を変えたりしながら確立してきた実践であるが、実際にはどれほどの効果があったのかについて考えていくのは、第2章である。

第2章 学級だよりと学級経営の実践の効果の検証

前章では、令和2年度に実際に発行した学級だよりと掲示物との連動、学級経営の手段の詳細について紹介した。本章では、理想教育財団の審査員からの講評と学級だよりの各コーナーの教育効果の結果、生徒・保護者のアンケート結果をもとにした効果の検証について述べる。

2-1 理想教育財団の審査員の講評から

序章で述べた理想教育財団の審査員から入賞の際にももらった講評を紹介する。筆者の取組の教育効果について専門的で洗練された言葉で述べられている。

「担任からのメッセージの発信や語りかけは、生き生きとした学級づくりの手段でもあります。また、1年間継続発行した学級だよりは、学級経営の貴重な歴史にもなります。その教育実践と担任の経営方針は、保護者にも届き、安心と信頼、そして感謝を生み出します。留意点として、見出しを簡潔にもっと大きく表現すること。写真も毎回掲載することで紙面構成が豊かになります。また、記事内容に生徒の声（作文）等を掲載することで、生徒同士の思いが伝わり、学級の団結を高めることにも繋がります。館先生が今回の受賞の自信と学級だより発行の教育効果を確認し、ますます活躍することを願っています。（審査員・金城安正先生 元浦添市立浦添中学校校長）」

「「イトコメガネという題字は、学級担任の願いそして館学級の究極の学級目標ではないでしょうか。「アメリカインディアンの教え（扶桑社文庫）」には、11の教えがあり、その中には「批判ばかり受けて育った子は非難ばかりします」「はげましを受けて育った子は自信をもちます」「ほめられる中で育った子はいつも感謝することを知ります」があり、これらは、館先生の「イトコさがし」の取組にもつながるものでしょう。褒めて育てることは大切ですが、褒めることは難しい面を持ちますが、「帰りの会」で友だちのよいところ（活動・行動）を発表しあい、学級通信に毎号載せることはよい企画です。面と向かって言われるとテレますが活字になると素直に喜べると思います。たいへんよい企画です。気になるのは少し読みにくいことで、トップ見出しでは縦を1.5倍にし、横に少し詰めてみてください。3種類の大きさを組み合わせると変化とリズム感が出てくるでしょう。（審査員・鈴木伸男先生 元全国新聞教育研究協議会会長・元町田市立町田第二中学校校長）」

「題字周りがとてもほのぼの感があって、心地よいです。題字を構成する「+」（助け合う）「-」（引き受け

る)「×」(声を掛ける)「÷」(いたわる)の「おもいやり算」や「イトコメガネ」は醸成しようとする学級文化を明確に表し、生徒たちには安心感があるのではないのでしょうか。通信を手立てとして、生徒同士がお互いの良さを認め合う気持ちを育てているのは、出来事を伝えるだけでなく、コミュニケーションツールとしての可能性を感じさせてくれます。定型化したレイアウトを基本に、内容に応じて変化を付けるとさらに読みやすくなるかもしれません。(審査員・矢吹正徳先生 元日本教育新聞社取締役編集局長)」

「「イトコメガネ」はユニークなタイトルなので、毎回興味を持って読ませてもらっています。学校生活の中で、いいところを教師だけでなく生徒同士でも見つけ合って感想を出し合うところは、一貫して通信のねらいに合致して素晴らしいと思いました。読者をひきつける見出しにしたり、集合写真ではなく動きのある写真を掲載したりするなどの工夫をされるとよいでしょう。(審査員・田中一典先生 元たつの市立小宅小学校校長)」

「学級通信の良いところをギュッと詰め込んでいて敬服しました。学校での様子を伝えるにとどまらず、読み手を引き込む内容の濃さが、まるでクラスに参加しているような気持ちにさせてくれます。学級津信が毎週発行されることと1週間の学校の予定が紙面に載ることの連動が心地よく成立しており、学校と家庭の日々の生活をつなぐ絆になっていたのではと感じました。(審査員・北川和也先生 公益社団法人日本PTA全国協議会参与)」

2-2 各コーナー・取組の結果と生徒・保護者の意見から

前章で述べた学級だよりの各コーナーとそれと連動した学級の各取組の結果と、それぞれのコーナーについての生徒・保護者の意見をまとめ、効果を検証する。生徒・保護者へのアンケートは2021年3月に実施した。

2-2-1 予定・提出物のコーナー

学級だよりに毎号右枠に定型レイアウトで欠かさず掲載した予定と提出物のコーナーについて生徒・保護者の声を紹介する。

「何を出したら良いか分かったし、週の時間割が分かって良かったです。(生徒)」「提出物とかわからなかったとき、見てわかったことがある。(生徒)」「毎週の日程がすぐわかるところが役に立ちました。(生徒)」「提出物を忘れなくなった。(生徒)」「持ち物を忘れなかった。(生徒)」「提出物を忘れる回数が減りました。(生徒)」「予定が分かってよかった。(生徒)」「来週の予定、今後の予定コーナーなどとても見やすかったです。(生徒)」「日々の予定が分かりやすかった。(生徒)」「自分が今、何をしなければいけないかが分かった。(生徒)」

「分散登校や持ち物、今後の予定が把握でき、とても助かりました。(保護者)」「予定の把握や学校のことが分かり、助かりました。(保護者)」「来週の予定、提出物等は再確認しながら持たせられたりと安心して対応することができた。(保護者)」「提出物・宿題・持ち物のコーナーのおかげでお互いが確認でき、良かったです。(保護者)」「提出物・宿題・持ち物のコーナーが特に役立ちました。(保護者)」「親として子どもの先々の予定がわかり、とても助かりました。ありがとうございました。(保護者)」「毎週の先生の学級だよりののおかげで不安なく予定や持ち物を知ることができました。子どもとのコミュニケーションも取りやすかったです。(保護者)」「学校での子どもの様子や日々の予定が分かり、いつも安心しながら見ていました。(保護者)」「子どもたちの学校での様子や予定、提出物、持ち物など色々細かく書いてあったのでとても良かったです。助かりました。(保護者)」

生徒・保護者の声は、他のコーナーのコメントよりも一番多く寄せられており、予定や提出物については生徒も保護者も必ず目を通す部分であることがわかる。せつかく配布する学級だよりの読んでもらえなければ意味がないが、このように必ず手に取って読んでもらえるきっかけとして重要なコーナーであったと考える。

2-2-2 学習記録のコーナー

Classi利用開始以来、まめに学習記録の入力を行った生徒は年間312日に達した。以下307日の生徒、300日の生徒と続いている。年間で上位に入れられない生徒も現時点では頑張っているという生徒もいるため、学期ごとに表彰を行うことでチャンスを広げた。4学期だけでは最高55日の生徒、54日の生徒、49日の生徒と続いた。年間合計学習時間では最高で738時間の生徒、711時間の生徒、681時間の生徒と続く。

筆者の学級ではテスト3週間前から計画を立てさせて、対策をスタートさせている。3週間での合計学習時間が150時間、テスト当日の1週間だけで28時間に達する生徒もいた。

| ◆学習記録学習日数 MVP | | ◆学習時間 MVP(総合計) | | ◆テスト計画 2/1~全日程 | |
|---------------|-------------|-----------------------|--|----------------|--|
| 年間 4/22~ | 2021年 1/14~ | 2/15~2/21 [テスト対策3 連日] | | 合計学習時間 MVP | |
| 301日 彩音さん | 43日 春華さん | 望晩さん 43時間 50分 | | 望晩さん 150時間 5分 | |
| 295日 春華さん | 43日 有栖君 | 星奈さん 36時間 45分 | | 未来さん 128時間 10分 | |
| 293日 隼士君 | 43日 彩音さん | 未来さん 36時間 10分 | | 星奈さん 92時間 15分 | |
| 228日 純一郎君 | 42日 隼士君 | 莉央君 29時間 40分 | | 隼士君 89時間 15分 | |
| 220日 望晩さん | 40日 望晩さん | 唯心君 28時間 55分 | | 唯心君 81時間 35分 | |
| 218日 みなみさん | 37日 純一郎君 | | | 有栖君 71時間 30分 | |
| 205日 優さん | 32日 優さん | 2/22~2/25 [テスト当日の課] | | 聖奈さん 65時間 5分 | |
| 194日 華恋さん | 30日 小陽さん | 莉奈さん 28時間 00分 | | 純一郎君 65時間 0分 | |
| 193日 有栖君 | 27日 桃華さん | 未来さん 26時間 00分 | | 華恋さん 62時間 45分 | |
| 172日 聖奈さん | 26日 星奈さん | 望晩さん 24時間 30分 | | 莉奈さん 59時間 15分 | |
| 170日 未来さん | 26日 唯心君 | 涼泉さん 21時間 45分 | | 莉央君 55時間 15分 | |
| 170日 聖奈さん | 26日 瑛偉君 | 隼士君 19時間 00分 | | 彩音さん 52時間 40分 | |
| | 26日 さくらさん | 聖奈さん 18時間 30分 | | | |

| ◆テスト対策 25 日目時間目標 | | ◆テスト当日 帰宅してからの | |
|------------------|-------------|------------------------|--|
| 達成度 MVP | 100%越え 12人! | 学習時間 MVP | |
| 192% 望晩さん | 93% 颯介君 | 莉奈さん 10時間(2/22の記録) | |
| 176% 莉央君 | 92% 優さん | 望晩さん 7時間 30分(2/23の記録) | |
| 170% 有栖君 | 86% 結衣さん | 未来さん 7時間 30分(2/25の記録) | |
| 164% 未来さん | 86% 華恋さん | 涼泉さん 7時間(2/25の記録) | |
| 154% 隼士君 | 82% 瑛偉君 | 有栖君 6時間 30分(2/22の記録) | |
| 150% 拳壇君 | 75% 春華さん | 華恋さん 6時間 30分(2/24の記録) | |
| 140% 永愛さん | 74% 悠真君 | 桃華さん 6時間 25分(2/24の記録) | |
| 124% 聖奈さん | 74% 芽依さん | 桃華さん 6時間 25分(2/24の記録) | |
| 124% 未来さん | | 星奈さん 6時間 15分(2/22の記録) | |
| 116% 純一郎君 | | 純一郎君 6時間(2/22の記録) | |
| 115% 彩音さん | | 莉央君 6時間(2/23の記録) | |
| 114% 星奈さん | | 結衣さん 5時間 30分(2/23の記録) | |
| 112% さくらさん | | みなみさん 5時間 30分(2/22の記録) | |
| 109% 唯心君 | | 隼士君 5時間(2/24の記録) | |
| 107% 桃華さん | | 小陽さん 5時間(2/22の記録) | |
| 106% 莉奈さん | | 未来さん 5時間(2/25の記録) | |
| | | 唯心君 5時間(2/23の記録) | |

1日あたりでは、1日で10時間という生徒もいた。また、生徒各自が設定した3週間の目標学習時間の達成度では、192%から106%まで目標を越えて頑張る生徒が多くいた。

また、以下のように1学期から3学期の自分を上回るように声掛けをして、実際に4学期に自己ベストを記録できた生徒が学習時間で12名、目標達成度で14名に達した。

| ◆1~3学期の自分に負けずに 4学期の学習時間が自己ベスト | ◆1~3学期の自分に負けずに 4学期の目標達成度が自己ベスト |
|----------------------------------|-----------------------------------|
| 祐太君 隼士君 由藍君 | 結衣さん 祐太君 隼士君 |
| 純一郎君 星奈さん 未来さん | 由藍君 望晩さん 未来さん |
| 颯介君 莉奈さん 紀奈さん | 颯介君 莉奈さん 聖奈さん |
| 未来さん 桃華さん 瑛偉君 | 悠真君 拳壇君 未来さん |
| | 桃華さん 有栖君 |

目標100%突破が16人! クラス全体目標も90%突破!
一番の頑張りを発揮してチーム1K2の最終戦を終えることができました。

以上は生徒個人の記録であるが、学級全体でも目標を定め、担任・全生徒・全家庭での団体戦・チーム戦として定期考査に挑んできた。4学期考査では学級全体の目標点数を3科目で達成した。また、目標時間では1学期に70.4%、2学期に64.1%、3学期に72.3%、4学期には自己ベストとなる91.1%を達成した。

◆学級の目標時間と目標平均点と達成状況、過去3回のデータ

| 科目 | 国～世 6科合計 | 全平均 | 国 | 数 | 英 | 科 | 現社 | 世 | 保 | 学級 |
|-------|-------------|-----|----|----|----|----|----|----|----|----|
| 4学期目標 | 402 | 67 | 70 | 72 | 71 | 61 | 63 | 65 | 65 | 70 |
| 4学期結果 | 378 | 63 | 72 | 80 | 61 | 64 | 68 | 53 | 68 | — |
| 3学期結果 | 379 | 63 | 67 | 79 | 72 | 47 | 64 | 50 | — | — |
| 2学期結果 | 372 | 65 | 68 | 80 | 59 | 53 | 67 | 45 | 73 | 71 |
| 1学期結果 | 348 | 58 | 63 | 59 | 57 | 57 | 56 | — | — | — |

| 科目 | 時間・達成度 | テスト勉強25日 最終目標達成状況 |
|-------|---------------------------------------|----------------------------------|
| 4学期目標 | 目標 1528 時間中 1667 時間で 91.1% (自己ベスト) | 実行済 1518 目標 1667 達成率 91.1% |
| 3学期結果 | 1520 時間実施・72.3% | |
| 2学期結果 | 1326 時間実施・64.1% | |
| 1学期結果 | 1440 時間実施・70.4% | |

●科目学習量バランス 苦手こそ時間をかけて！



学習記録のコーナーについて生徒・保護者の声を紹介する。

「テストの達成度のコーナーで、友達の時間を見て、やる気になれたこと。(生徒)」 「テスト前の勉強時間の順位や%などが役に立った。(生徒)」 「テストの目標を見て、達成できるように頑張ることができた。(生徒)」 「テストの目標と達成度のコーナーの部分で自分がどのくらいできていて、どのくらいやらなければいけないのかが分かった。(生徒)」 「高校に入っているいろいろやっていけるかなとか不安だったけど先生がテスト前に計画表とか作ってくれたおかげでここまで成長する事が出来ました。また、クラスで1番勉強出来て良かったなって思います。テスト勉強前とか後ろから押してくれたり中学ではこんな時間やったことなく驚きだけど、高校に入ってはもう当たり前になりました。(生徒)」

「クラスの生徒の勉強方法なども書かれていて、自分の勉強方法に取り入れるなど、刺激されていたようでした。(保護者)」 「テストの目標と達成度のコーナーは、自分の勉強の目標がきちんと準備ができたのでとても良かったと思います。(保護者)」 「学習記録はテスト前の声掛けで助かりました。(保護者)」

生徒の声にあるように、周りの生徒の頑張りに刺激を受けて、更に頑張ることができた生徒がいた。後述するが学級だよりを見た保護者が家庭で励ましたり、上手に子どものスイッチを押す声掛けをしてくれるなど学級だよりに掲載したからこそその家庭内のコミュニケーションが生まれていたようである。また、筆者から「チームメイトの闘魂に火を灯し合おう」と毎日声掛けをしたことも拍車をかけたと考える。

2-2-3 掃除の記録「Z-1グランプリ めざせ! ゾウキング」のコーナー

掃除のタイムの1学期から4学期までの記録が以下である。

1学期

清掃 Z-1 グランプリ「めざせ! ゾウキング」6/18 時点の記録

| | グループ名 | 班長 | メンバー | 終了時刻を基準とした平均タイム | 順位 |
|-----------|--------------|----|-------------------|-----------------|----|
| A班 意側男子班 | タイガース | 由藍 | 祐太, 純一郎, 隼士, 拓斗 | -12分 | 5位 |
| A班 意側女子班 | ライオン | 星奈 | 結衣, 望帆, 来流, 小陽 | -12.5分 | 2位 |
| A班 廊下側男子班 | 掃除班 B | 颯介 | 悠真, 陽翔, 拳瑠 + 館 | -12.3分 | 3位 |
| A班 廊下側女子班 | We | 未来 | 莉奈, 聖奈, 優, 紀奈, 春華 | -12.3分 | 3位 |
| B班 意側男子班 | たてかざひろファンクラブ | 華尚 | 汰樹, 唯心, 隆也, 有梧 | -9.8分 | 8位 |
| B班 意側女子班 | 女子 B 班 | 環衣 | 永愛, みなみ, 桃華, 涼泉 | -10分 | 7位 |
| B班 廊下側男子班 | イトコメガネーズ | 魁吏 | 魁, 琉偉, 莉央, 来輝 | -12分 | 5位 |
| B班 廊下側女子班 | 女子班 | 彩音 | 華恋, さくら, 芽依 + 館 | -13分 | 1位 |

2学期

清掃 Z-1 グランプリ「めざせ! ゾウキング」9/11 時点の記録

| 全グループ平均 -13.9分 | グループ名 | 班長 | メンバー | 終了時刻を基準とした平均タイム | 順位 |
|-------------------|--------------|----|-------------------|-----------------|----|
| A班 意側男子班 | タイガース | 由藍 | 祐太, 純一郎, 隼士, 拓斗 | -13.4分 | 6位 |
| A班 意側女子班 | ライオン | 星奈 | 結衣, 望帆, 来流, 小陽 | -13.2分 | 7位 |
| A班 廊下側男子班 | 掃除班 B | 颯介 | 悠真, 陽翔, 拳瑠 + 館 | -14.6分 | 3位 |
| A班 廊下側女子班 | We | 未来 | 莉奈, 聖奈, 優, 紀奈, 春華 | -14.7分 | 2位 |
| B班 意側男子班 | たてかざひろファンクラブ | 華尚 | 汰樹, 唯心, 隆也, 有梧 | -13.5分 | 5位 |
| B班 意側女子班 | 女子 B 班 | 環衣 | 永愛, みなみ, 桃華, 涼泉 | -13.1分 | 8位 |
| B班 廊下側男子班 | イトコメガネーズ | 魁吏 | 魁, 琉偉, 莉央, 来輝 | -14.6分 | 3位 |
| B班 廊下側女子班 | 女子班 | 彩音 | 華恋, さくら, 芽依 + 館 | -15.1分 | 1位 |

3学期

清掃 Z-1 グランプリ「めざせ! ゾウキング」11/16~11/26 の記録

| 全グループ平均 -14.4分 | グループ名 | 班長 | メンバー | 終了時刻を基準とした平均タイム | 順位 |
|-------------------|--------------|----|-------------------|-----------------|----|
| A班 意側男子班 | タイガース | 由藍 | 祐太, 純一郎, 隼士, 拓斗 | -16.0分 | 1位 |
| A班 意側女子班 | ライオン | 星奈 | 結衣, 望帆, 来流, 小陽 | -16.0分 | 1位 |
| A班 廊下側男子班 | 掃除班 B | 颯介 | 悠真, 陽翔, 拳瑠 + 館 | -15.0分 | 3位 |
| A班 廊下側女子班 | We | 未来 | 莉奈, 聖奈, 優, 紀奈, 春華 | -15.0分 | 3位 |
| B班 意側男子班 | たてかざひろファンクラブ | 華尚 | 汰樹, 唯心, 隆也, 有梧 | -13.5分 | 7位 |
| B班 意側女子班 | 女子 B 班 | 環衣 | 永愛, みなみ, 桃華, 涼泉 | -12.5分 | 8位 |
| B班 廊下側男子班 | イトコメガネーズ | 魁吏 | 魁, 琉偉, 莉央, 来輝 | -14.0分 | 6位 |
| B班 廊下側女子班 | 女子班 | 彩音 | 華恋, さくら, 芽依 + 館 | -14.5分 | 5位 |

4学期

清掃 Z-1 グランプリ「めざせ! ゾウキング」3/10 時点の記録

| 全グループ平均 -15.3分 | グループ名 | 班長 | メンバー | 前回 タイム | 3月 タイム | 前回 順位 | 3月 順位 |
|-------------------|----------|----|-------------------|-----------|-----------|----------|----------|
| A班 意側男子班 | タイガース | 由藍 | 祐太, 純一郎, 隼士, 拓斗 | -9分 | ※来週 | 6位 | 6位 |
| A班 意側女子班 | ライオン | 星奈 | 結衣, 望帆, 来流, 小陽 | -10分 | -17分 | 3位 | 1位 |
| A班 廊下側男子班 | 掃除班 B | 颯介 | 悠真, 陽翔, 拳瑠 + 館 | -14分 | -15分 | 1位 | 3位 |
| A班 廊下側女子班 | We | 未来 | 莉奈, 聖奈, 優, 紀奈, 春華 | -14分 | -14分 | 1位 | 5位 |
| B班 意側男子班 | たてファンクラブ | 華尚 | 汰樹, 唯心, 隆也, 有梧 | -7分 | -14分 | 7位 | 5位 |
| B班 意側女子班 | 女子 B 班 | 環衣 | 永愛, みなみ, 桃華, 涼泉 | -5分 | -15分 | 8位 | 3位 |
| B班 廊下側男子班 | イトコメガネーズ | 魁吏 | 魁, 琉偉, 莉央, 来輝 | -10分 | -17分 | 3位 | 1位 |
| B班 廊下側女子班 | 女子班 | 彩音 | 華恋, さくら, 芽依 + 館 | -10分 | ※来週 | 3位 | 3位 |

4 学期には慣れからかタイムが落ちて来ていたので、この実践史上初の試みであったが、対戦の組み合わせを変えたところ、V 字回復することができた。やる気を起こすための刺激になるものは何かを常に考えておくことが大事だと筆者は考える。

1 学期に手を抜いて掃除を行ったグループ(A 班女子のグループ)があり、最初からやり直しをさせた上で反省会で説諭した。このことは次の日にすぐ学級全体にも話をして同様のことが起こらないように注意した。その後、該当の生徒の三者面談でも話題にしたところ、学級だよりのゾウキングのコーナーを見ながら家庭でも引き続き声掛けをしてきていたとのことである。その場限りの指導で終わらせず、学校でも家庭でも長くケアをしていけるという点においても、学級だよりに掲載していくことの効果が感じられる。

ゾウキングのコーナーについて生徒・保護者の声を紹介する。

「清掃などの写真も良かったです。ちゃんと掃除してるのか? など会話が弾みました。(保護者)」

2-2-4 イイトコメガネで見つけたのコーナー

イイトコメガネのコーナーは、実際に登校した日だけの活動であった。級友の良い所を見つけた個数が最大で123個に達した生徒がいた。(※教室後方にカードの余りを置いているため、1日に2枚以上カードを書くこともできる。)また、自分の良い所を見つけてもらった個数が最大で178個に達した生徒がいた。学級全体の良い所は1年間で3077個に達した。

以下の画像の下半分は、2学期以降取り組んだ見つけた人数・見つけてもらった人数の集計である。人間関係を拡げることがねらいとして取り組んだ。39人の学級で最大21人まで達した生徒がいた。

| イイトコサクスカード集計 3/12 分まで | | 受信名人 (たくさん見つけてもらったよ) | |
|---|--|--|--|
| 学級合計 3077 個 | | 【年間合計】男子の部 | |
| 送信名人 (たくさん見つけたよ!) 【年間合計】男子の部 ● 剛典君 123 個 ● 順介君 102 個 ● 孝士君 88 個 ● 純一郎君 81 個 ● 雄信君 81 個 ● 悠真君 61 個 【年間合計】女子の部 ● 麗晴さん 109 個 ● 新南さん 92 個 ● 聖恵さん 81 個 ● 聖恵さん 80 個 ● 聖恵さん 80 個 ● 聖恵さん 87 個 39 人 中何人見つけたのかな? ● 剛典君 21 人見つけた ● 順介君 18 人見つけた ● 孝士君 14 人見つけた ● 純一郎君 14 人見つけた ● 雄信君 13 人見つけた | | 【年間合計】男子の部 ● 純一郎君 110 個 ● 順介君 108 個 ● 悠真君 97 個 ● 雄信君 87 個 ● 純一郎君 76 個 ● 剛典君 75 個 【年間合計】女子の部 ● 麗晴さん 178 個 ● 聖恵さん 136 個 ● 孝士君 130 個 ● 聖恵さん 126 個 ● 小南さん 129 個 ● 孝一郎さん 112 個 39 人 中何人の人が見つけてくれたかな? ● 聖恵さん 19 人が見つけてくれた ● みなみさん 16 人が見つけてくれた ● 孝士君 14 人が見つけてくれた ● 麗晴さん 14 人が見つけてくれた ● 純一郎君 13 人が見つけてくれた ● 小南さん 12 人が見つけてくれた | |

イイトコのコーナーについて生徒・保護者の声を紹介する。

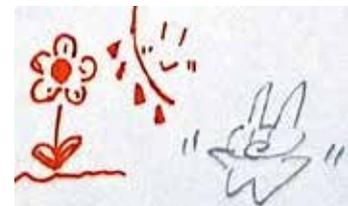
「イイトコメガネの話題で、高校の友達のことがよくわかりました。クラスの雰囲気伝わってきて安心しました。(保護者)」 「イイトコメガネで見つけたのコーナーでは仲の良い友達を知ることが出来ました。(保護者)」 「イイトコメガネのコーナーは、クラスメイトの子の様子を感じることができ、いつも楽しみに見ていました。(保護者)」 「学校の日常は親は分からず、プリント、Classiを拝見させて頂くと、あ〜段々とお友達が出来てきたのかなぁと思い、感じたのがイイトコメガネで見つけたでしたかね。先生も毎週一人一人の生徒のことを書きあげて頂き、ありがとうございます。毎週楽しみに見ておりました。(保護者)」 「イイトコメガネは学校での様子が伝わり、1人読みながらニヤニヤすることもありました。予定表は細かく書いてあり情報がわかり助かりました。一年間大変お世話になりました。(保護者)」

特に筆者が目にしたのは、以下の保護者の声である。

「イイトコサクスカードの送信名人、受信名人に載ったことで、積極的に参加している様子でした。小中で出来なかったことを高校でやるようにしていると話していました。イイトコメガネで見つけたのコーナーでは仲の良い友達を知ることが出来ました。(保護者)」

この自己有用感が低かった生徒も、実は学級で様々な些細な良い行動を積み重ねており、それを友人たちが見つけて書いてくれたのである。その結果、常に上位に名前が登場し、自信をつけていったようである。この生徒は最終的に自分が他人のイイトコを1日に複数枚書くようになっていった。「幸せを数えればすぐに幸せになれる」というドイツの哲学者・ショーペンハウアーの言葉通りである。

4 学期にはイイトコカードに以下のようなイラストを添える生徒もおり、学校生活の充実感、楽しさが溢れ出ているようであった。

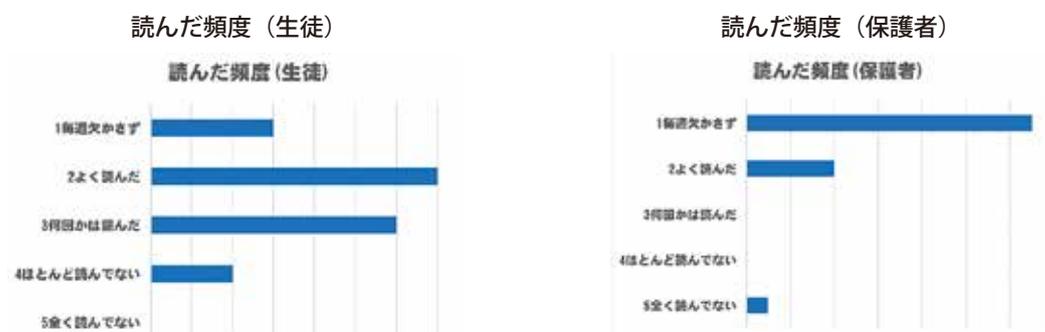


イトコカードは教室後方の掲示板上に掲示してきたが、最終的には以下のように総合やLHRのワークシート、目標、計画表などと一緒に最終日に返却した。

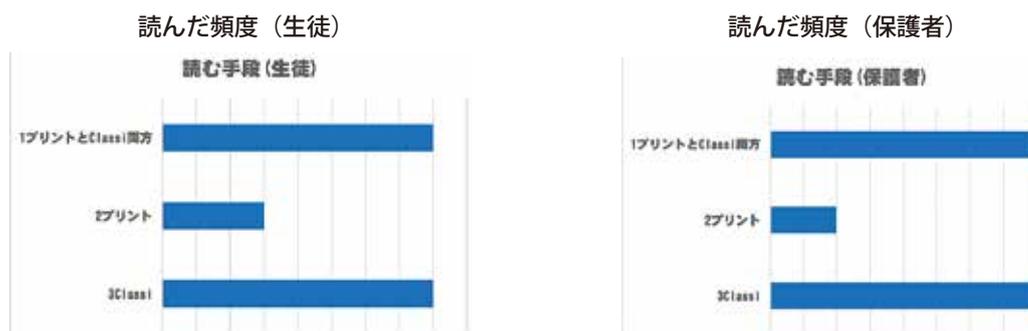


2-2-5 その他・アンケート集計結果から

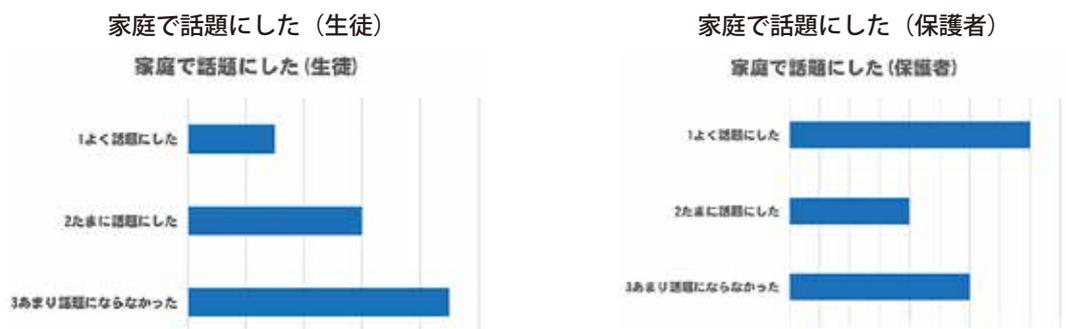
毎週金曜日に欠かさず発行してきた学級だよりについて、生徒と保護者の読んだ頻度を示したグラフである。「全く読んでない」保護者は、帰宅した生徒がプリントを出さず、Classiが対応していないスマホだったため、読んでいないということである。



毎週金曜日に配布した学級だよりは、オンラインの日でも実際に登校できた日でもClassiの生徒・保護者両方の校内グループで発信した。両方で読んでいる場合とClassiのみで読んでいる場合が多くなり、生徒・保護者とも同様の傾向となった。



以下は、家庭で生徒・保護者間の会話で学校や学級だよりの内容について話題に上ったかどうかを示したグラフである。



三者面談では、「生徒が部屋に入ると後は何をしているかわからない」「家庭で無口になっておりあまり話せていない」「思春期からかあまりしゃべらない」という話も聞かれた。そんな中で、今回のアンケートでは、学級だよりを話題のきっかけとして会話ができたと書いている家庭が複数見られた。特に話題にしたこととして挙げられていたのは以下である。

「来週の予定・今後の予定コーナー（生徒）」「イトコメガネ（生徒）」「イトコメガネ（生徒）」「勉強時間など（生徒）」「イトコメガネ（生徒）」「イトコメガネ（生徒）」「来週の予定などのコーナー（生徒）」「イトコメガネ（生徒）」

「イトコメガネ（保護者）」「学習記録のコーナー（保護者）」「来週の予定（保護者）」「予定や提出物、学習対策方法など（保護者）」「イトコメガネ（保護者）」「めざせ！ゾウキング」「勉強時間（保護者）」「提出物とイトコメガネで見～つけた（受信編）（保護者）」「イトコメガネ（保護者）」「イトコメガネで見～つけた（保護者）」「テストの目標と達成度のコーナー（保護者）」「イトコメガネで見～つけた（保護者）」

個人名が出るイトコメガネは生徒・保護者とも注目度が高いコーナーとなっている。その次に多いものは「学習記録・テスト勉強」のコーナーである。叱り口調にならずに家庭での会話・声掛けのきっかけとして機能していると考えられる。

以下は、様々な学級だよりのコーナーの中で有効であったと思うコーナーを複数回答可で集計した結果である。予定や提出物の注目度の高さは生徒・保護者とも断トツである。生徒側ではテスト勉強の目標・達成度が次いで高い注目度になっている。一方で、保護者側では学級の写真やイトコメガネのコーナーが注目度が高く、家庭からは見えない学校での生徒の様子への関心が高いことが分かる。



以下は、保護者のみに回答を求めた設問で学級だよりがどんなポイントで有効であるかについて問うた。



このことから、保護者からは家庭から見えない学校での生徒の様子と予定へのニーズが高いことがわかる。

2-3 第2章のまとめ

本章では、理想教育財団の審査員からの講評と学級だよりの各コーナーの教育効果の結果、生徒・保護者のアンケート結果をもとにした効果の検証について述べてきた。

理想教育財団の審査員の講評から、専門的な視点からイトコメガネの取組や写真の掲載の効果、紙面構成についての改善点について取り上げた。

そして、令和2年度の実際取組の結果と生徒・保護者へのアンケートの集計結果から、学級だよりの有効性を検証した。

イトコメガネを取組の中心にしながら、様々な取組や紙面構成が相互に作用しながら生徒の成長を支えているということから、十分な有効性を示すと言えると思う。筆者は考える。

以上のように、筆者なりの考えでまとめたことは、本論文の成果である。

終章 本研究のまとめと今後の課題

3-1 本研究のまとめ

本研究は、学級だよりの有効性と学級だよりを核にした学級経営について考えることを意図していた。本章では、前章まで述べたことをまとめ、本研究のまとめと今後の課題について述べる。

序章では、筆者が本研究のテーマ設定に至る根幹・経緯・原動力から、学級だよりが学級経営に有効に機能するという立場に立つことを述べた。そして、学級だよりの有効性と学級だよりを核にした学級経営』を考えることを本研究の目的、基本的立場とした。

第1章では、学級だよりの学級経営を筆者がどのように実践しているのかを詳しく述べた。学級だよりのコーナーと教室の掲示物、学級経営の手立てのそれぞれが密接に関わり合い、連動しているということを明らかにした。筆者自身の失敗経験から生まれた取組や出会った教師から学んだ取組、コロナ禍・オンラインといった令和2年度ならではの取組など、年々肉付けを行ったり、形を変えたりしながら確立してきた実践であるが、実際にはどれほどの効果があったのかについて調べる必要があった。

第2章では、理想教育財団の審査員からの講評と学級だよりの各コーナーの教育効果の結果、生徒・保護者のアンケート結果をもとにした効果の検証について述べた。理想教育財団の審査員の講評から、専門的な視点からイトコメガネの取組や写真の掲載の効果、紙面構成についての改善点について取り上げた。そして、令和2年度の実際の取組の結果と生徒・保護者へのアンケートの集計結果から、学級だよりの有効性を検証した。イトコメガネを取組の中心にしなが、様々な取組や紙面構成が相互に作用しながら生徒の成長を支えているということから、十分な有効性を示すと言えると考えた。

3-2 今後の課題

本研究では、学級だよりの発行は学級経営や生徒の成長にとって有効であるという立場から、筆者の様々な実践と連動した学級だよりの各コーナーについて紹介し、検証してきた。筆者なりの考えでまとめたが、至らない点は多々ある。以下、今後の課題について述べる。

まず、筆者・生徒・保護者の三者の熱量とニーズの違いである。筆者の熱量に対して生徒・保護者のニーズが100%合致しているわけではないことが、第2章のアンケート集計結果からわかる。イトコメガネをとにかく一番大事に学級経営と学級だよりの核に据えて筆者は取り組んでいるが、生徒の本分はやはり学習である、保護者の最大のニーズは予定と我が子の様子である。様々なコーナーでこれらのニーズはカバーできてはいるが、紙面構成の優先度や頻度は今回の検証を元に考えていかなければならない。100%の合致は不可能であるが、近づく努力はできるはずである。学級だよりの効果を更に上げるためにも、このすり合わせは喫緊の課題である。

以上の課題を踏まえて、今後もさらに調べ、考え、実践を通して、研究を深めていきたい。なお、理想教育財団では、コロナ禍で令和元年度分のプリントコミュニケーションひろばの審査自体が延期に次ぐ延期で悩まされたこともあってか、令和2年度以降のコンクールを当初は中止すると発表していたが、急遽「コロナ禍でも発行を続けた通信」の作品集を発刊すると案内が来ていた。仙台育英学園での筆者の記念すべき初年度となる学級だより「イトコメガネ～1K2～」が掲載される。

3-3 アンケートから保護者の声

最後に、前章のアンケート集計項目に分類できなかったその他の保護者の意見を紹介し、有効性を噛み締め、本論文を締めくくる。

「その週の学級の様子の写真コーナーで、子どもたちの様子が詳しく見れたので良かったと思います。(保護者)」
「一年間見やすいお便りを作ってください、ありがとうございます。学校の様子がよくわかり、親としてとても安心出来ました。一年間お世話になり、ありがとうございます。(保護者)」
「一年間ありがとうございます。コロナで不安の中入学し、あっという間の一年でした。(保護者)」
「初めての高校生活、期待と不安でいっぱいでしたが、先生のわかりやすく丁寧な指導で、何とか一年を終えようとしています。初めは怪しかったです、無事登校する事もできました。イトコメガネは、親としても不安なく予定や状況を知る事ができ、本当にありがたかったです。一年間、本当にありがとうございました。(保護者)」
「コロナ禍で学校になかなか行けず、人見知りもあって友達は出来るのかと心配しておりましたが、面談の際、先生の話聞いて色々と気にかけていただいているのを感じ、とても安心しました。期日のある提出物等で全く期日が守れず大変ご迷惑をおかけしました。お忙しい所、こちらにまでご連絡いただくことも何度かあり、申し訳ありませんでした。間もなく一年生が終わりますが、館先生、1k2のクラスメイトの皆様のお陰で学校に行きたくないということもなく無事に一年生を終えられることに感謝しております。(保護者)」
「オンライン授業では、欠席が多くなりご心配をおかけしま

した。先生のご指導のおかげで、本人も頑張ろうと思えたようです。K2組はとても楽しいクラスだったそうです。本当にありがとうございました。(保護者)」

引用・参考文献一覧

- 1, 柵木弓・愛知県岡崎市立梅園小学校 (2012), 学級経営に生かす学級通信のつくり方と活用について
- 2, 公益財団法人理想教育財団 (2021), 第16回プリントコミュニケーションひろば入賞作品集
- 3, 公益財団法人理想教育財団 (2016), 見るだけでアイデアがひらめく学級通信ネタ&デザイン集, 三州社(株)
- 4, 公益財団法人理想教育財団 (2014), 実践に生かす20のヒント通信づくりハンドブック
- 5, 公益財団法人理想教育財団 (2020), 教育とコミュニケーションの研究情報誌季刊理想VOL.138
- 6, ユニクロの現場から生まれたツール。短期離職率を改善するサービス「Pozica (ポジカ)」, <https://www.dreamgate.gr.jp/contents/case/company/26584>
- 7, サンクスカードとは?, <https://www.designmeishi.net/meishidatabase/thankscard/>
- 8, ThanksCard アプリ, <https://thanks-card.jp/>

Ⅱ 令和2年度 研修報告

(1) 英進進学コース 地域探求研修報告

尾林 さつき

- ◎ 期 間 第1班：令和2年12月7日（月）～8日（火）
第2班：令和2年12月10日（木）～11日（金）
- ◎ 旅行先 宮城県内（松島 仙台 秋保温泉 閑上）
- ◎ 参加生徒
54名（男子29名 女子25名）
- ◎ 引率者
渡邊 正孝、佐藤 真弓、及川 まり、尾林さつき



研修の目的

- (1) 宮城県内の歴史と自然に触れ、自分たちが暮らす地域を学び、自分ゴトとしての将来像を考察する。
- (2) 県内の歴史文化と防災について探求し研修する。松島の瑞巖寺や仙台の大崎八幡宮等で歴史を理解し、山元町の震災遺構の中浜小学校を訪問し、防災教育の大切さを学習する。
- (3) 集団行動を通じて、きまりを守り、生徒同士、または生徒と教師の人間的な交流を深め協調性を養う。
- (4) グループ活動を通じて、互いに助け合い、連帯感を培い、また自分の体調を自分で管理自制できる。
- (5) 公衆道徳を守り、一人の社会人として社会性を身につける。

旅行行程表

第1日目 1班 12月7日（月）、2班 12月10日（木）

学校集合（グローリー前）
多賀城校舎9:30 === <貸し切りバス> === 10:00 松島・五大堂，瑞巖寺境内見学 === 松島海岸・
地域探求（散策・昼食）13:00 === 14:00 大崎八幡宮参拝・境内見学 === 15:10～瑞鳳殿・見学
15:50 === 16:30 秋保温泉「ホテル佐勘」（夕食前講話）
宿泊 ホテル佐勘 電話：022-398-2233
仙台市太白区秋保町湯元

第2日目 1班 12月8日(火)、2班 12月11日(金)

ホテル朝食

佐勘出発 8:45 ===== <貸し切りバス> ===== 10:00 山元町・震災遺構中浜小学校 案内人ワークショップ等 12:00 === 13:00 名取市閑上「わまちてらす」昼食・散策 14:30 ===== 15:00 多賀城校舎到着

【旅行記録】

◎ 第1日目

9時30分：全員予定通り多賀城校舎グロリー前に集合して出発。

午前中、伊達家ゆかりの地を訪ねて、最初の目的地である松島の五大堂と瑞巖寺に到着。

地元であるが、通り過ぎることが多く、じっくり見るのは初めてという生徒も多かったようです。

お堂の4面には方向に従って十二支の彫刻が彫られていることがガイドさんによって説明されて生徒たちは、じっくり観察していました。

<瑞巖寺五大堂について>

松島湾に突き出すように、朱色の橋でつながれた小島の上に立つ宝形造り本瓦葺き素木の建物です。坂上田村麻呂の創建した毘沙門堂がその起源とされ、慶長九年に伊達政宗によって再建されました。暮股には方向に従って十二支の彫刻が施され、繊細な透かし彫りの手技によって竜や猿など動物たちの姿が見事に浮かび上がる。

写真1 五大堂入口



写真2 五大堂入口朱色の橋



写真3 朱色の橋



写真4 五大堂からの風景



写真5 五大堂ガイド1



写真6 五大堂ガイド2



写真7 五大堂ガイド3



写真8 五大堂ガイド4



写真9 五大堂ガイド5



10時40分：瑞巖寺に到着、中門に向かう参道が東日本大震災の影響で樹齢数百年の巨大な松や杉の木が枯れてしまい、伐採してしまったと聞いてとても残念に思いました。以前その杉の木にセッコクという植物が着生していましたが、現在も自生しているそうです。この瑞巖寺の栽培種が「松島セッコク」と呼ばれ、松島の町花となっています。境内には政宗公が朝鮮から持ち帰ったといわれる「臥龍梅」と呼ばれる紅梅、白梅があり4月にはきれいな花が咲くそうです。

瑞巖寺の洞窟遺跡群をはじめ、本堂では、室中孔雀の間・上段の間・文王の間をはじめ菊の間・松の間・鷹の間を見学しました。特に、室内への入り口を画す唐戸や欄間の総透かし彫りの彫刻や襖絵は大変素晴らしく印象に残るものでした。また、青龍殿（宝物館）では、政宗公に関わる展示物など約3万点もの資料があり、大変歴史を感じさせられる物が多く、政宗公が心血を注いで完成させた寺院であることがわかり、とても心に残ったことでしょう。

瑞巖寺を後にして、新しくできた松島離宮やその周辺を散策して、各自で昼食を取りました。

<瑞巖寺について>

瑞巖寺は「松島青龍山瑞巖円福禅寺」といい、臨済宗妙心寺派の禅寺である。

平安時代の初め天長5（828）年、慈覚大師円仁により開創され、天台宗延福寺と称した寺がその前身であると伝えられている。

鎌倉時代中期の13世紀半ば、執権北条時頼公が真壁平四郎を開山とし、円福寺と改称、臨済宗建長寺派の禅寺に改めた。

円福寺は鎌倉時代の庇護の下に栄え、室町時代も五山十刹制度の諸山に位置付けられ、末寺を造り発展した。しかし、戦国時代を経て寺勢は衰え、その末期に妙心寺派に属した。

江戸時代の初め、仙台六十二万石の祖となった伊達政宗公が、師傅虎哉禅師のすすめで現在の大伽藍を完成させた。工事は慶長9（1604）年に始まり、桧・杉・樺の良材を熊野に求め、京都・根来の名工を集め、5年の歳月をかけ完成した。本堂御成玄関、庫裡回廊は国宝に、御成門、中門、さらには障壁画が国重要文化財に指定されている。寛永13（1636）年、政宗公の遺言で来松した名僧雲居禅師の努力で、名実ともに奥羽に冠する大禅刹となり、周辺にも円通寺、陽徳院、天麟院などが造営され、江戸時代中期には30余の寺街が形成された。

芭蕉によって「金壁壯巖光を輝し」と謳われた障壁画も、360年の歳月を経て劣化が著しく、昭和60（1985）年から10年間にわたり211面の障壁画群の保存修理と模写事業が行われた。

平成20（2008）年から平成30（2018）年まで、国宝瑞巖寺平成の大修理が行われた。

写真10 瑞巖寺総門1



写真11 瑞巖寺総門2



写真12 参道1



写真13 参道2



写真14 参道3



写真15 参道4



写真16 洞窟遺跡群 1



写真17 洞窟遺跡群 2



写真18 洞窟遺跡群 3



写真19 参道



写真20 朱印所前



写真21 庫裡前



13時50分：大崎八幡宮到着

北参道入口の「北参道鳥居」は高さ7m、幅8m、青森ヒバで造られた県内最大の鳥居です。

その鳥居をくぐり、北参道を進んで御社殿に到着し、拝殿に入り学業成就を祈願していただきました。拝殿とその奥の本殿を石の間でつないで1棟になっており「権現造」の形式になっている大変珍しい社殿となっています。そこで祈願した後、本殿で宮司の方により大崎八幡宮の歴史について講話をいただきました。以前大崎地方にあった大崎八幡宮を、政宗公の寄進で仙台市に建立されたことや拝殿内部には、狩野派の絵師佐久間左京の唐獅子の壁画や石の間の天井には数多くの草花が描かれ、花鳥動植物や説話風の人物、にらみ猫など多彩な彫刻が組み込まれているとの説明を受けました。講話終了後、自由に彫刻や絵画を見学しました。特ににらみ猫などは左甚五郎の作品ではないかともいわれているそうです。この社殿が、国の重要文化財に指定されていることに、納得させられました。

写真22 大崎八幡宮 1



写真23 大崎八幡宮 2



写真24 大崎八幡宮 3



写真25 絵馬 1



写真26 絵馬 1



写真27 北参道鳥居



15時10分 瑞鳳殿に到着

駐車場から石造りの階段でできた表参道の杉木立を進み、涅槃門に到着、1945年の戦火で焼失し、1979年に再建された瑞鳳殿は消失前と同様の豪華な飾り彫刻が施されていました。

瑞鳳殿は70歳で生涯を閉じた政宗公の遺命によって、二代目藩主忠宗公によって造営されたお墓です。大変豪華で柱には獅子頭の彫刻、屋根には竜頭瓦があり、創建当時の姿がよみがえっています。感仙殿は二代目藩主忠宗公のお墓で、瑞鳳殿と同様の豪華な建造物です。三代目藩主の綱宗公のお墓である善応殿をみて、資料館で武具や文具などの副葬品などを見学しました。

写真28 涅槃門



写真29 瑞宝殿入口



写真30 瑞宝殿 1



写真31 瑞宝殿 2



写真32 感仙殿



写真33 善応殿



16時30分 秋保温泉「ホテル佐勘」に到着

1日目の松島の瑞巖寺と仙台の大崎八幡宮などの見学・研修を終えて秋保温泉「ホテル佐勘」に到着、ここでは伊達政宗公の歴史的な実績を、「奥州・仙台おもてなし集団 伊達武将隊」の支倉常長氏による講演が行われた。内容は、自分が生まれ育った場所、遊び学んだ場所の歴史に触れることは、人生を彩り豊かなものにすることや、宮城・仙台には伊達政宗公ゆかりの歴史がたくさんあるのでしっかり学習して欲しいとのことでした。政宗公の偉業の中で、慶長遣欧使節としてサン・ファン・パウティスタ号で支倉常長らを海外に送り出しメキシコ・キューバ・スペイン・フランス・イタリア・フィリピンなどと交流を行っていることが説明された。その中で、キューバの首都ハバナには、仙台育英学園から寄贈された「至誠の人」支倉常長像が置かれていることが話されました。また、政宗公は米沢生まれで、仙台藩の初代藩主になり、この地を千代から仙臺（仙台）に改名した人物であるとの説明を受けて生徒たちは驚いていました。

写真34 秋保温泉ホテル佐勘



写真35 支倉常長氏の講演



写真36 夕食風景



◎ 第2日目

10時00分：亘理郡山元町に到着、

本日最初の見学地である山元町の震災遺構中浜小学校に向かいました。10時過ぎに目的地に到着して、二班に分かれて語りベガイドの説明を聞きました。中浜小学校は平成23（2011）年3月11日に、屋上に避難した児童と教職員、保護者ら90人の命を守り抜いた校舎です。この校舎は事前に津波や高潮への対策が施されていたと聞き大変驚きました。海辺の近くで高潮が発生した場合を想定して2メートル程度土盛りを高くして小学校を建てたということです。しかし、予想を上回る大津波のため2階まで津波が到達して、屋上に避難して難を逃れたとのこと。屋上の屋根裏部屋には多くの資材等が収納されていたが、そこを片付けて休めるスペースを確保して寒さを凌いで一夜を過ごしたそうです。校舎建築時の土盛りが、生死を分けた結果になったことに驚かされました。

今日は、今の高校2年生が小学1年生で震災を体験したので、その時の印象と現在、高校生になって9年前のことを、震災遺構となった中浜小学校を見て、どう感じるか、そして自然災害はいつ起こるかわからないので、その時、自分たちはどう対応すべきかを語りべの方のお話を聞いて、将来に向けて自ら「生きる力」を培って、どう復興の一助となれるかを考えて欲しいと思います。

<震災遺構中浜小学校とは>

開校以来、地域とともに歩み、愛されてきた中浜小学校。平成23（2011）年3月11日、屋上に避難した児童と教職員、保護者ら90人の命を守り抜いた校舎は、津波や高潮への対策が事前に施されたものでした。

中浜小学校は内陸の坂元小学校と統合され平成25（2013）年閉校となりましたが、山元町では宮城県南部に残る唯一の被災建築物である校舎の保存・活用を決定。大津波の痕跡をできる限り残したまま整備し、震災の教訓を風化させず、災害に対する備え、意識の大切さを伝承する震災遺構として公開しています。

写真37 中浜小学校



写真38 中浜小学校校舎1



写真39 語りベガイド1



写真40 語りベガイド2



写真41 校舎 浸水到達点1



写真42 校舎屋上屋根裏部屋



写真43 校舎全景



写真44 校舎左



写真45 校舎 浸水到達点 2



写真46 2階教室浸水到達点 3



写真47 校舎内部 1



写真48 校舎内部 2



写真49 校舎内部 3



写真50 校舎内部 4



写真51 校舎内部 5



写真52 震災前の中浜小近辺ジオラマ 1



写真53 震災前の中浜小近辺ジオラマ 2



写真54 震災前の中浜小近辺ジオラマ 3



13時00分：山元町を出発して名取市閑上に到着

「かわまちてらす閑上」に到着、ここは名取川の川辺に建ち、川辺の風景や太平洋を望む開放的な環境に位置しています。ここには、名取市の老舗や伝統的な食を提供するレストランや、新しいスタイルのレストランやカフェも造られています。地元の生鮮品や特産品の店もあり27店舗が集まっています。生徒たちは各自川沿いを散策しながら、ランチやスイーツを楽しんでいました。閑上も東日本大震災で多大な被害が出た所です。

「かわまちテラス閑上」も震災8年後に建てられた復興支援の商業施設です。この「かわまちてらす閑上」の発展が閑上の町を活気づける起爆剤になることを強く願っております。

写真55 かわまちテラス関上1



写真56 かわまちテラス関上2



写真57 かわまちテラス関上3



写真58 かわまちテラス関上4



写真59 かわまちテラス関上5



写真60 かわまちテラス関上6



14時30分：関上を出発、15時10分：学校到着

今回は、伊達政宗公ゆかりの地をめぐり、県内の歴史と文化について学習しました。また、防災について震災遺構の中浜小学校を見学して震災・防災教育を深い学びに結び付けるきっかけになったと思います。

◎ 謝辞

今回の地域探求研修は、研修旅行をあきらめていたところに、県内の研修旅行を許可していただきました加藤校長理事長先生に感謝申し上げます。参加生徒は熱心に話を聞いて吸収しようとしておりました。地域研修と防災研修は、どちらも生徒にとっては大切な学習になったと思います。

有意義な研修旅行になったことに感謝申し上げます。大変ありがとうございました。

Ⅲ その他

(1) 仙台育英学園 Office365・Zoomオンライン授業研修報告

仙台育英学園 ICT推進委員 秀光コース 小保内陽大
情報科学コース 日野 彰

1 はじめに

秀光中等教育学校、仙台育英学園高等学校においては、新型コロナウイルス感染症対策による臨時休業期間（4/7～5/10）においてSurfaceおよびTeamsを活用した在宅勤務と、Zoomを利用したオンライン授業を実施してきた。また、一部登校（5/11～24）においては、登校しない学年・学級でオンライン授業を実施してきた。そして、分散登校（5/25～6/21）においては、1・2年生を各学級A班・B班に分け、登校して対面で授業を受ける班と自宅等でZoomを利用してオンラインで授業を受ける班に分けて、1週間交代で同様の進度で授業を実施した。〔仙台育英学園（2020）「本学園のオンライン授業について」より抜粋〕

オンライン授業に関する生徒アンケート（表1）では、8割以上が「満足である」もしくは「おおむね満足である」と回答していたが、同時に下記の問題点も挙げられた。

- ・授業への入室許可が下りなかった。
- ・先生の声が途切れたり画面が消えたりしていた。
- ・画面共有が表示されないことがあった。

このような問題点を解消し、新型コロナウイルスの第二波への備えとして、円滑に在宅勤務及びオンライン授業を実施するとともに、教員のさらなる指導技術向上を目的として企画・実施した「Office365・Zoomオンライン授業研修」について報告する。

表1 オンライン授業に関するアンケート

| オンライン授業について（各教科合計） | 結果（人数／割合） | |
|--------------------|-----------|--------|
| 満足である | 397 | 59.9% |
| 概ね満足である | 149 | 22.5% |
| 普通である | 88 | 13.3% |
| やや不満である | 23 | 3.5% |
| 不満である | 6 | 0.9% |
| 計 | 663 | 100.0% |

〔出典：仙台育英学園（2020）「本学園のオンライン授業について」〕

2 研修報告

2.1 研修全体の日程および内容

研修の日程および内容は表2の通りである。オンライン授業研修については、事前アンケート結果をもとに習熟度別とした。また、研修会当日の欠席者については、後日アップロードされる録画を視聴することとした。各研修の終了後にはMicrosoft Formsを利用した事後アンケートを実施した。

表2 研修日程

| 日 時 | 内 容 |
|-----------------------------------|--|
| 8月18日 10:00 - 12:00 (多賀城校舎) | Office365 全体研修 講師：リコージャパン田村正矩氏、八巻孝氏 |
| 8月18日 13:00 - 15:00 (多賀城校舎) | Zoom オンライン授業研修 (コース別) 初級・中級講師：リコージャパン鈴木秀明氏、 上級講師：小保内陽大 |
| 8月19日 10:00 - 12:00 (宮城野校舎) | Office365 全体研修 講師：田村正矩氏、八巻孝氏 |
| 8月19日 13:00 - 15:00 (宮城野校舎) | Zoom オンライン授業研修 (コース別) 初級・中級講師：鈴木秀明氏 上級講師：小保内陽大 |

2.2 Office365全体研修について

(1) 目的

チャットやWeb会議、ファイル共有機能を利用して教員間の連絡や在宅勤務において利用されるTeamsと、オンライン会議および授業において活用できるMicrosoft WhiteboardやOne Note、ファイルの共有や共同編集を実現するOneDriveといったアプリケーションの基本的な機能および操作を理解し、円滑な在宅勤務を実現することを目的として全教職員を対象に実施した。

(2) 概要

コース毎に分かれて、リコー講師による実演動画をプロジェクターに投影したものを視聴し、実際にSurfaceを操作しながらその操作について確認した。多賀城校舎129名、宮城野校舎105名、計234名の教職員が参加した。

(3) アンケート結果より

研修後にFormsを用いて実施したアンケート結果を以下に示す。記述項目については、回答の一部を抜粋したものである。

研修に対する評価は次の通りであった。

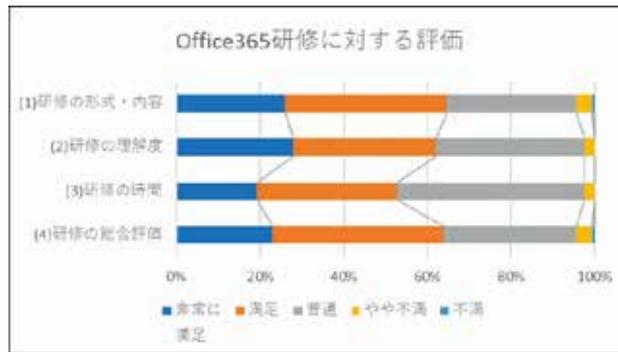
本研修の良かった点は次の通りであった。

- ・Enterを押すとチャットに投稿されてしまうのを防ぐ方法、メンションやOneDriveの詳しい説明など細かなことを教えていただき、大変役に立ちました。
- ・具体的に分かりやすく進めてくださり、画面を見て実際の場面でのイメージしながら出来ました。ありがとうございました。

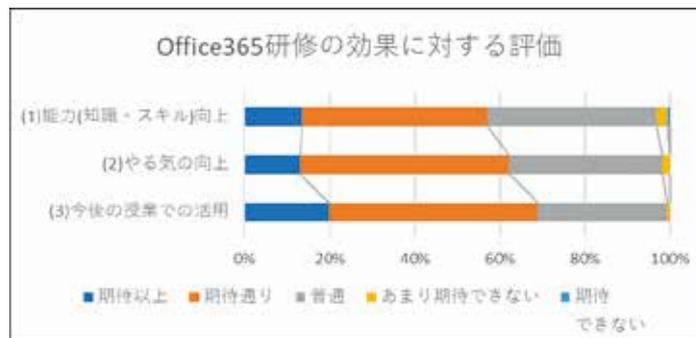
本研修の問題点は次の通りであった。

- ・トラブル対処のケーススタディなどがあると もっと良かったと思う。
- ・全体的に音声があまりクリアではなく、説明している内容がしばしば聞き取れなかった。
- ・そもそも活用を進められていない先生方にとっては、操作の仕方以前にOneDriveはどのようなものなのかという理解が不十分なことが多いと思います。そのため、どのようなものなのかカメラリットと合わせて説明を進めることが重要だと感じました。

研修の効果に対する評価は表の通りであった。



| Office365 研修に対する評価 | | | | | | |
|--------------------|-------|----|----|------|----|-----|
| 項目 | 非常に満足 | 満足 | 普通 | やや不満 | 不満 | 合計 |
| (1) 研修の形式・内容 | 42 | 62 | 50 | 6 | 1 | 161 |
| (2) 研修の理解度 | 45 | 55 | 57 | 4 | 0 | 161 |
| (3) 研修の時間 | 31 | 54 | 72 | 4 | 0 | 161 |
| (4) 研修の総合評価 | 37 | 66 | 51 | 6 | 1 | 161 |



| Office365 研修の効果に対する評価 | | | | | | |
|-----------------------|------|------|----|-----------|--------|-----|
| 項目 | 期待以上 | 期待通り | 普通 | あまり期待できない | 期待できない | 合計 |
| (1) 能力(知識・スキル) 向上 | 22 | 70 | 64 | 4 | 1 | 161 |
| (2) やる気の向上 | 21 | 79 | 58 | 3 | 0 | 161 |
| (4) 今後の授業での活用 | 32 | 79 | 49 | 1 | 0 | 161 |

「あまり期待できない」「期待できない」の理由としては、次の通りであった。

- ・ほとんど新しい情報がなかった。また、現時点でのOne NoteやWhiteboardは生徒との共有が難しいため。^{*1}

また、自由記述については以下のような回答があった。

- ・外部アプリとの連携について、もっと知りたかった。教育現場だからこそ①教員間で使える②対生徒で使える③生徒が使える、以上3点の実践例があると非常に助かると感じた。個人的にはロイロノートのことがTeamsでできないかを模索しております。
- ・生徒が登校していない時間を活用してこのような研修を持つことは非常に有意義だと思う。全教員が理解を深めることで教員同士のコミュニケーションを図ることが可能になる。
- ・可能であれば、今後はBlush Up等と交えて各校舎間にとどまらず具体的に各科目で話せる機会を作っていただきたい。

2.3 Zoom オンライン授業研修（初級・中級）について

(1) 目的

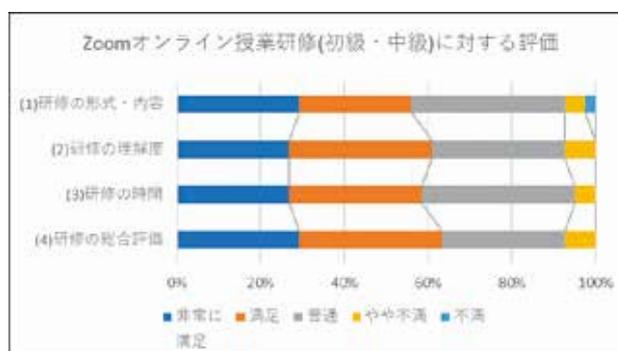
本学園においてオンライン授業の際に利用しているWeb会議ツールZoomについて、アプリケーションの基本的な機能および操作を理解し、オンライン授業における不具合を解消することを目的として、事前アンケートで初級・中級コースを選択した教職員を対象に実施した。

(2) 概要

コース毎に分かれて、リコー講師による実演動画をプロジェクターに投影したものを視聴し、実際にSurfaceを操作しながらその操作について確認した。多賀城校舎102名、宮城野校舎66名、計168名の教職員が参加した。

(3) アンケート結果より

研修に対する評価は表の通りであった。



| 項目 | Zoomオンライン授業研修（初級・中級）に対する評価 | | | | | 合計 |
|--------------|----------------------------|----|----|------|----|----|
| | 非常に満足 | 満足 | 普通 | やや不満 | 不満 | |
| (1) 研修の形式・内容 | 12 | 11 | 15 | 2 | 1 | 41 |
| (2) 研修の理解度 | 11 | 14 | 13 | 3 | 0 | 41 |
| (3) 研修の時間 | 11 | 13 | 15 | 2 | 0 | 41 |
| (4) 研修の総合評価 | 12 | 14 | 12 | 3 | 0 | 41 |

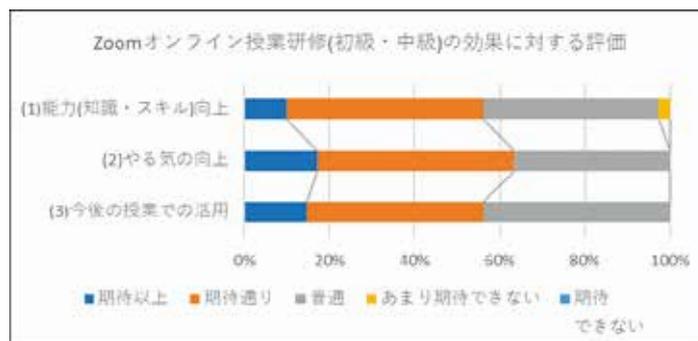
本研修の良かった点は次の通りであった。

- ・Zoomの基本知識・操作および使用する上でのポイントも説明していただけだったので良かったです。
- ・Zoomにアンケート機能があるということを知りました。オンライン授業の際、小テストや内容理解の確認などに使ってみたいと思いました。生徒も授業に対して受け身にならずに参加でき、オンライン授業にメリハリがうまれてくるのでは、と思います。
- ・Zoomのアンケート機能、ブレイクアウト機能、レポート機能などの機能について新たに知ることができたこと。

本研修の問題点は次の通りであった。

- ・今年の4月にやればさらに有意義であった。先生方も研究が進んでいるのもう一步踏み込んだ内容でよかった。
- ・初級と中級が一緒だと内容的に物足りなさを感じました。
- ・次にこのような研修を行う場合は、初級コースには指導係をつけて、研修の中で実際に操作をしてもらおうとよいのではないかと思います。

研修の効果に対する評価は表の通りであった。



| Zoomオンライン授業研修（初級・中級）の効果に対する評価 | | | | | | |
|-------------------------------|------|------|----|-----------|--------|----|
| 項目 | 期待以上 | 期待通り | 普通 | あまり期待できない | 期待できない | 合計 |
| (1) 能力(知識・スキル) 向上 | 4 | 19 | 17 | 1 | 0 | 41 |
| (2) やる気の向上 | 7 | 19 | 15 | 0 | 0 | 41 |
| (4) 今後の授業での活用 | 6 | 17 | 18 | 0 | 0 | 41 |

「あまり期待できない」「期待できない」の理由としては、次の通りであった。

- ・ある程度Zoomは使いこなしているつもりであるが、現場では様々なトラブルが起こり、その対応に苦慮している。
- ・既に習得している内容だったため。

また、自由記述については以下のような回答があった。

- ・Zoomの便利な機能についてよく理解できましたが、それを授業に取り入れるには機能によっては工夫が必要かと考えました。

2.4 Zoom オンライン授業研修（上級）について

(1) 目的

様々なアプリケーションや指導方法を応用した先進的なオンライン授業実践についてコースを横断して共有することを目的として、事前アンケートで上級コースを選択した教職員を対象に実施した。

(2) 概要

教科毎に4～8名の小グループに分かれ、オンライン授業での実践内容に関する10～15分のプレゼンテーションおよびディスカッションを行った。(図1,2) グループ毎、事前にTeamsチャンネルを作成することで、資料の共有や録画設定、研修時間内に質問できなかった内容への回答や、他グループの取り組みの共有を目指した。多賀城校舎20名、宮城野校舎28名、計48名の教職員が参加した。



図1 プレゼンテーションの様子①



図2 プレゼンテーションの様子②

小グループでのプレゼンテーションのおよびディスカッションの一部を掲載する。

①英語科での実践例

電子教科書やWhiteboardを利用した授業、Zoomのブレイクアウトルーム機能を利用したディスカッション中心のIB授業、帰国中の留学生に対するZoomを活用したサポート、Powerpointを用いた生徒を飽きさせないための工夫などが紹介された。

また、英語科では下記のようなディスカッションも実施された。

- ・Zoom中での音声共有について⇒肉声よりもCD音声の方が聞きやすい。
- ・オンライン授業だけでなく、本文はCD音声と教員の肉声のどちらの割合を多くすべきか⇒生徒にしっかりと声を出させるのであれば肉声を用いて、実際使われる音声を覚えさせるのであればCD音声が良い。
- ・デジタル教科書の活用について⇒教員が目の前にいる生徒に伝わるようにアレンジする必要がある。
- ・生徒が積極的に授業に参加するような工夫⇒チャットやブレイクアウトセッション、Classi NOTE、Miro、Flipgridといったアプリケーションのなどの活用が挙げられる。(図3、4)
- ・スライド中で用いる書体について⇒今後検討していく必要がある。



図3 英語科の研修資料①



図4 英語科の研修資料②

②数学科での実践例

オンライン授業を実施する際のルール作り(図5)から、Microsoft WhiteboardやGood notes5を共有した書き込み型の授業展開、Powerpointで数式を扱う際の工夫やオンライン授業での発見と改善など、様々なプレゼンテーションがあった。振り返りや評価方法、Classi NOTEを用いた日々の学習課題配信などの一連の授業の組み立てに関する発表もあった。(図6)

また、関数や図形を表示してリアルタイムで生徒の進度が確認できるフリーソフトのDesmos,GeoGebraや東京書籍のデジタル教材Dマイスター、高校数学を視覚的に理解するためのWebサイトMathCalなど、様々なアプリケーションの授業における活用事例が紹介された。

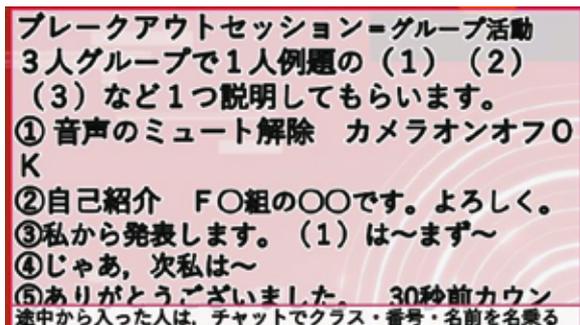


図5 数学科の研修資料①

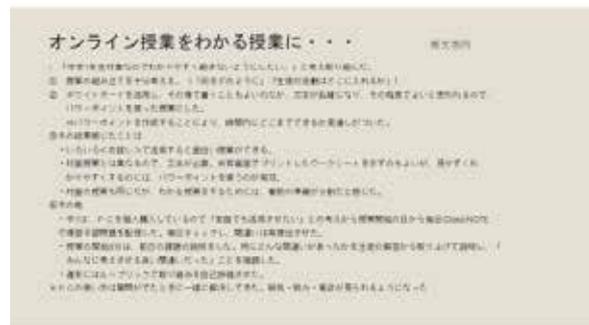


図6 数学科の研修資料②

③国語科での実践例

PDF資料を共有した書き込み型の授業や、Google Drive,Siteを用いた教材・情報共有の方法、Google Doc,Formを用いた添削や振り返りアンケートの実施などに関する説明があった。(図7)

また、MiroやMindMeister、Jamboardを用いた協働作業、プレゼンテーションソフトPrezi Videoを用いたIBの授業とグループワークの実施方法、Kialoを用いたディベートの授業などが紹介された。(図8)



図7 国語科の研修資料①



図8 国語科の研修資料②

④理科での実践例

オンライン授業を行う上での長所・短所の整理(図9)やPowerpointを用いる際の注意点や工夫、図表や動画といった資料のオンライン授業における活用方法などに関する発表があった。

また、授業内でのiPadの活用状況とMetaMojiを活用した記述文の練習なども紹介された。(図10)

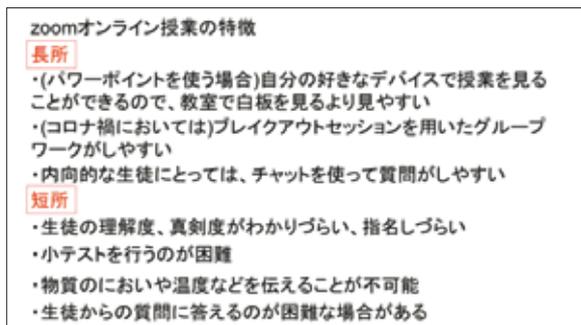


図9 理科の研修資料①

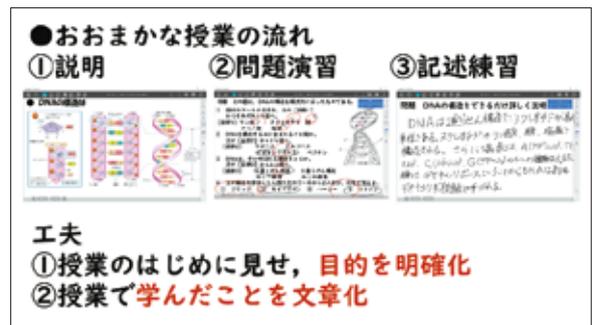


図10 理科の研修資料②

⑤社会科での実践例

普段の授業とオンライン授業の比較検討や、ノートを取るのではなく、印象に残すことを意識して作成したスライドとその工夫、授業後に資料を生徒に共有して復習に活用するための授業構成、Google Earthや自作教材を利用した授業などに関する紹介があった。(図11,12)

また、UDトークを用いたIBの授業や、Connected Flipを用いて生徒が主体的に参加するような授業の工夫に関する提案もあった。



図11 社会科の研修資料①

| 教室(対面) | Zoom | |
|-------------------|------------------------------------|---|
| 授業進行 PPTスライド | 画面クリア ○ビジュアルに集中できる △生徒の反応が不明 | ・1年クラス心理的安全性未確立 ・意識がZoomに寄った ・展開は通常よりゆっくり目に |
| チャット、オンラインでの発問 | ○予想以上に活発 △見厚として対応が選れる | ・質問の時間を取るなど工夫 ・チャットは特に可能性を感じた |
| CLASSI アンケート 集計共有 | 教室生徒とのコミュニケーション ○反応早い | ・データ共有○ ・双方の一律感○ |

図12 社会科の研修資料②

また、社会科では次のようなディスカッションも実施された。

- ・チャット機能の活用について⇒直接意見を述べたり発表したりするのが難しい生徒でも、気軽に発言できるツールとして検討する価値あり。共有の画面の切り替え・・・前もって必要な資料を立ち上げておくとスムーズに共有できる。
- ・ペンツールの利用⇒生徒に作図させたものを生徒側から全体に共有させる。携帯端末では難しいが、PCを利用する生徒ならば可能となる。
- ・教室（対面）でいかにアクティブに学ぶかを重視して展開してきたこれまでの授業を、オンライン授業でどの程度実践可能なのか⇒Classiアンケートやチャット、画面共有等の機能活用で、想像以上に双方向性が持てたと感じたが、生徒からのフィードバックも必要である。今後は通常授業でも、生徒がPC上で学習（作業）可能な教材の活用を検討していきたい。

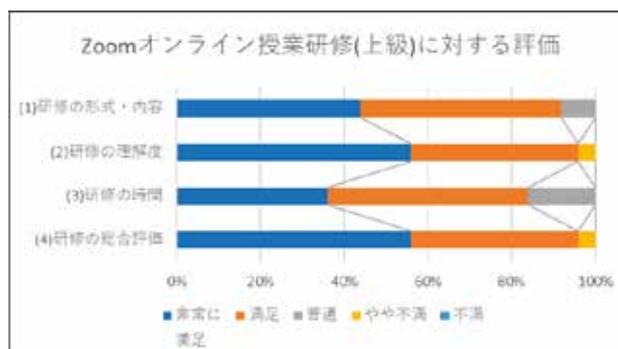
研修後には、各グループでのプレゼンテーションの録画を校内限定Youtubeにアップロードし、全教職員が閲覧できるようにした。また、資料についてもTeamsを用いて共有した。（図13）



図13 校内限定Youtubeでの録画共有

(3) アンケート結果より

研修に対する評価は表の通りであった。本研修の良かった点は次の通りであった。



| 項目 | Zoomオンライン授業研修（上級）に対する評価 | | | | | 合計 |
|--------------|-------------------------|----|----|------|----|----|
| | 非常に満足 | 満足 | 普通 | やや不満 | 不満 | |
| (1) 研修の形式・内容 | 11 | 12 | 2 | 0 | 0 | 25 |
| (2) 研修の理解度 | 14 | 10 | 0 | 1 | 0 | 25 |
| (3) 研修の時間 | 9 | 12 | 4 | 0 | 0 | 25 |
| (4) 研修の総合評価 | 14 | 10 | 0 | 1 | 0 | 25 |

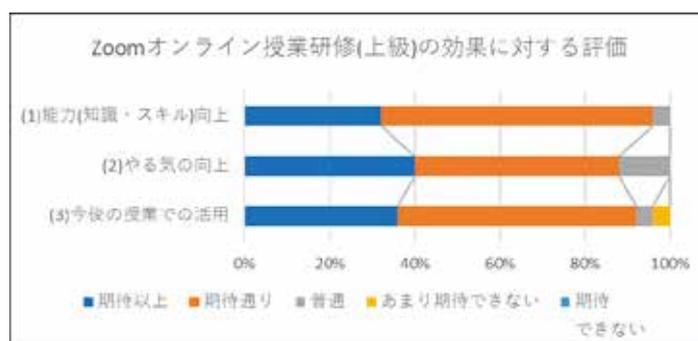
本研修の良かった点は次の通りであった。

- ・Zoomの使い方のみならず、先生方の授業の取り組み内容も共有できて大変良かったです。
- ・ZoomとPower Pointでオンライン授業を組み立ててきたが、DesmosやMiro,UDトーク,Kahoot!,Connected flip,GeoGebraなど様々な授業に役立つツールがあることを初めて知ることができ、有意義な研修となった。
- ・いくつかの教科を同一グループにしたことで、これだけ広がりのある研修になった。
- ・普段はあまり見る機会のない各コースの先生方の先進的な取り組みを見られた。例年のブラッシュアップと比較しても、事前にレベル別のグループ分けと資料提出を求めたことで、教員間の学び合いと成果が多かったと感じている。
- ・生徒には一人一台のタブレットなど機材が必要という意見で一致した。

本研修の問題点は次の通りであった。

- ・教科によっては人数の少ないグループが生まれてしまった。次回の研修会を企画する際には、両校舎合同で実施したいと感じている。
- ・科目ごとの情報交換もしたかった。
- ・初級・中級・上級の基準が曖昧で、本来はZoom機能に加えて他のアプリなどを活用できているのに、上級は躊躇してしまった先生方がいるように思う。
- ・コースで講習を行っていたため、研修を途中で抜けることになってしまったのが残念でした。

研修の効果に対する評価は表の通りであった。



| 項目 | Zoomオンライン授業研修（上級）の効果に対する評価 | | | | | 合計 |
|--------------------|----------------------------|------|----|-----------|--------|----|
| | 期待以上 | 期待通り | 普通 | あまり期待できない | 期待できない | |
| (1) 能力 (知識・スキル) 向上 | 8 | 16 | 1 | 0 | 0 | 25 |
| (2) やる気の向上 | 10 | 12 | 3 | 0 | 0 | 25 |
| (4) 今後の授業での活用 | 9 | 14 | 1 | 1 | 0 | 25 |

「あまり期待できない」「期待できない」の理由としては、次の通りであった。

- ・全体的にレベルが高すぎて、すぐに真似できるものがなかったからです。

また、自由記述については次のような回答があった。

- ・今回は教科を超えた形で実施していただきたいと思いました。Zoomの使い方というよりは、普段の授業力を養うチャンスだと思いました。
- ・本校がホストとして、他校の先生との情報共有を行うのも面白いのではないかと思います。
- ・参加したグループでは多くのアプリケーションが登場したように、他のグループでも様々なアプリケーションが話題に出れば、その名前、リストでも共有すると今後役立つと思います。

3 考察

3.1 Office365全体研修について

研修後のアンケートでは6割程度の教員が「満足である」「満足」であり、Teamsを中心としたアプリケーションの基本操作の理解につながったと言える。一方で、「新しい情報がなかった」という意見もあった。これは、研修の効果に対する評価でスキルの向上が「期待以上」であったと回答した教員が2割程度であったことから、普段からTeamsを活用している教員にとっては既知の内容が多かったことが伺える。また、トラブル対処のケーススタディがあると良いという意見もあった。

3.2 Zoomオンライン授業研修（初級・中級）について

6割程度の教員が「満足である」「満足」であり、アンケート、ブレイクアウト、レポート機能などについて理解する機会となった。「初級と中級が一緒だと内容的に物足りなさを感じた。」という意見もあった。

3.3 Zoomオンライン授業研修（上級）について

8割以上の教員が「満足である」「満足」であり、研修の効果に対する評価も「期待以上」と回答した教員が3割程度であった。各コースの先進的な取り組みを共有できた一方で、「全体的にレベルが高すぎた」という意見もあった。

4 今後の課題

今回の研修会は、在宅勤務及びオンライン授業を円滑に実施するという目的で、教員の基本的な技術理解につながった。一方で習熟度別のグループ設定に課題があり、基本操作についてより詳細に学ぶことのできる初級と、順次発展的な内容について学ぶことのできる中級・上級について両校舎の教員を合わせての研修機会を用意したい。また、Teamsにおいては外部アプリとの連携についてより詳しく知りたい、ほとんど新しい情報がなかった、といった意見もあったため、次回はこちらも習熟度別で設定すると良い。

ICT機器の活用においては、今回のような研修を実施することで教員が学び合う環境づくりが必要であり、今後も継続的に実施することで授業力の向上へと繋げていきたい。

5 謝辞

加藤雄彦理事長・校長先生、加藤聖一常務理事をはじめとする先生方には、大変お忙しい中で研修に参加して頂くとともに、さまざまご指導を頂きました。リコージャパン田村正矩様、八巻孝様、鈴木秀明様には講師を務めて頂き、事前資料の準備から打ち合わせでの内容変更までご対応いただきました。また、ICT推進委員の先生方には企画・準備から当日の運営までご尽力頂きました。ここに御礼申し上げます。

6 引用

- ・ 仙台育英学園（2020）入手先 <<https://www.sendaikuei.ed.jp/corp/info/detail--id-859.html>>

7 補注

- ※1 One NoteやWhiteboardを共同編集するためには、同じ組織に所属しているMicrosoftアカウントを所持するユーザー同士である必要がある。

(2) 数学問題間の類似性認識に関する考察

～数学における問題づくりを通して～

仙台育英学園高等学校 広域通信制課程
I L C 沖縄教頭 新里 孝雄

1 はじめに

私が、これまで数学学習について実践して感じていることや調査、研究してきたことを少し述べてみたい。

生徒の中には、例えば、数学の学習に熱心に取り組み、問題解決に多くの時間と努力を費やしているにもかかわらず、問題解決能力があまり伸びない生徒がいる。逆にそれほど多くの時間と努力を費やすわけではないが、効率的に問題解決能力を身に付けていく生徒もいる。

ところで、問題が解けなかったとき、問題解決の一つの方法として、その問題に似た類似問題を考えてみることは、問題解決の有効な方法の一つである。これは、問題解決の計画を立てるとき、類似問題を考えることによって類似問題の構造や解き方を解こうとする問題に転移させて、問題解決に取り組んでいく方法である。しかし、実際の問題解決場面において、問題が解けなかったとき、その問題と類似な問題を思い出したり、調べたりして、問題の類似性に目を向けながら解こうとしている生徒は少ないように思う。

ある数学者は、問題間の類似性を生徒が認識するときに用いる観点として、「数学的構造（解き方）」、「場面」、「質問形式」という観点を示している。「数学的構造」の観点とは、問題の表面的な特徴ではなく問題の数学的な内容であり、問題の解き方と本質的に関連している。「場面」の観点とは、例えば、階段の問題、平行四辺形の問題などのように問題に与えられた場面の類似性に着目して問題の類似性を認識する観点である。「質問形式」の観点とは、例えば、質問形式が「速さを求めよ」あるいは「合同を証明せよ」になっている場合、これら質問形式の類似性に着目して問題の類似性を認識する観点のことである。

そこで、私は、以前、公立の中学校において実際に生徒（155人）がどのように問題の類似性を認識するかについて次のような図形の証明問題を解かせた後、類似問題を作るという調査を行ってみた。

「問題 平行四辺形ABCDにおいて、 $AB=DC$ 、 $AD=BC$ を証明せよ。また、問題を解いた後、類似問題をできるだけたくさん作って下さい。」

調査結果からは、問題が完全に解けた生徒の60%以上が証明方法（解き方）まで考えた問題を作り、証明が途中までできた生徒や全くできなかった生徒の70%以上は問題の証明内容や場面に着目して類似問題を作っていた。このことから、問題解決能力と問題間の類似性の間には少なからず関係があり、結果的に問題間の類似性認識を高める指導は問題解決能力を高めることにつながるものと考えられる。

ところで、通信制に通う生徒の多くは不安定な生活環境や態度、不十分な学力や学習経験など様々な課題を抱えた生徒が通っている。生徒の特徴として、不登校や中学卒業後のブランク、抽象的な概念や記憶の難しさなどから、小中段階における学習内容が十分身につけていない生徒が多く、高校の学習内容に理解や定着に長い時間が必要な生徒が多く在籍している。そのため、小中学校段階からの学習内容の学び直しが必要だったり、学習内容を理解させるためにゆっくりと時間をかけたりする必要がある生徒も少なくない。もちろん、前籍高校より編入あるいは転入してきた生徒のように教えればすぐに理解できる生徒もいる。通信制に通っている生徒は、様々な課題を抱えた生徒も多いが、私自身、個々の生徒が将来に向けて少しでも学ぶ意欲や学力を高めてほしいと思っている。

少しでも生徒の学習意欲や学力を高めるため、生徒に実態に応じたよりよい指導方法を工夫すべく、今回、通信制に通う生徒についても数学問題間の類似性について、どのような次元から認識するのか、また、類似性認識の次元と生徒が作った問題とのどのような関係が見られるのかについても調べてみることにした。

2 数学問題間の類似性認識に関する調査

(1) 調査の目的

調査の目的は、「生徒が問題間の類似性をどのような次元から認識するのか」、また、「類似性認識の次元と生徒が作った問題との間にどのような関係が見られるか」について調べることである。

(2) 調査方法

① 調査対象の生徒

調査対象の生徒は通信制課程 I L C 沖縄に通う16歳から20歳までの生徒70人である。調査対象の生徒

の調査時期に履修している数学はプレ数学、数学 I である。

②調査問題

問題 1 1冊X円ノートを3冊買って、1000円出したときのおつりを求めなさい。

問題 2 上の問題に似た問題を作りなさい。できるだけたくさん作って下さい。ただし、作った問題は解かなくていいです。

調査問題の類似性認識の次元を先の述べた調査結果をもとに次の3つの次元を仮定した。すなわち、「数学的構造」、「場面」、「質問内容」の3つの次元である。

③調査方法

調査は令和元年8月に実施、与えられた問題を解いた後、その後問題に似た問題を作るという方法をとった。似た問題は1問だけでなく、できるだけたくさん作らせた。ただし、作った問題は解く必要はないとした。

(3) 調査の結果と考察

[問題 1冊X円ノートを3冊買って、1000円出したときのおつりを求めなさい]を解いた結果、完全にできた生徒は43人、無答あるいは答えになっていない解答をした生徒は27人であった。以下、完全な解答ができた生徒をA群、それ以外の27人をB群とする。

表 I は[問題 1冊X円ノートを3冊買って、1000円出したときのおつりを求めなさい]を解いた後、生徒が作った似た問題を筆者がいくつかの観点から分類した結果を示したものである。

| 分類の観点 | 問題の種類 | A群 | B群 |
|-------------------------|--|----|----|
| 問題の場面（ノートや文字 X、3冊など）に着目 | 問 1個X円のリンゴを3個買って1000円出したときのおつりを求めなさい。など | 30 | 19 |
| | 問 1冊Y円のノートを3冊買って1000円出したときのおつりを求めなさい。など | 23 | 13 |
| | 問 1冊X円のノートを3冊買って2000円出したときのおつりを求めなさい。など | 20 | 11 |
| | 問 1個X円のリンゴを4個買って500円出したときのおつりを求めなさい。など | 18 | 9 |
| 問題の質問内容（おつり）に着目 | 問 1冊 X円のノートを3冊と1本Y円の鉛筆を4本買ったときの合計の値段を求めなさい。など | 15 | 4 |
| | 問 1分で2km走る自動車がX分走ったときの距離を求めなさい。など | 6 | 2 |
| | 問 学校まで10kmの距離を時速Xkmで2時間歩いたときの残りの距離を求めなさい。など | 5 | |
| | 問 3冊でX円のノートの1冊の値段を求めなさい。など | 3 | |
| 問題の解き方（文字式を使って解く）の着目 | 問 1冊X円のノートを2冊と1本Y円の鉛筆を3本買って1000円出したときのおつりを求めなさい。など | 18 | 5 |
| | 問 5本で400円の駄菓子を X本の買ったときのおつりを求めなさい。など | 7 | |
| | 問 縦acm、横bcmの長方形の面積を求めなさい。など | 8 | 1 |
| | 問 50枚の画用紙を30人にb枚ずつ分けたときの余った枚数を求めなさい。など | 5 | |
| | 問 1ケース500円の鉛筆をXケース買ってY円出したとき、おつりは1000円でした。いくら出したかを求めなさい。など | 2 | |
| | 問 大人1人500円、子ども1人200円の遊園地のチケットがある。大人X人、子どもY人で行ったときの合計の値段を求めなさい。など | 3 | |

生徒が作った問題の総数は、A群が163問、B群は91問であった。問題づくりは慣れていない生徒が多かったが、いろいろな視点から問題を作ろうとしている傾向が見られた。しかし、問題の中には解くことが不可能な問題も含まれており、問題として取り扱うべきかは検討する必要がある。

生徒が作った問題を見てみると、“場面”（問題にあるノートや文字、数字など）を変えて問題を作った生徒がどの群も多かった。中でも、ノートを別のものに変えて問題を作った生徒がA群でもB群でも多かった。与えられた問題から問題作りするとき、“場面”を変えた問題が作りやすいと考えられる。

各群が作った問題を見てみると、表1から分かるように、A群の生徒の場合、作った問題の総数や問題の種類も多い。このことから、A群の生徒の場合、与えられた問題の解き方や問題の質問内容、場面などいろいろな視点に着目して問題づくりができ、柔軟な思考ができる生徒が多いと考えられる。

B群の場合は、もとの問題の“ノート”を別のものに変えて問題を作った生徒が多い。このことからB群の生徒は“場面”に着目して問題づくりをする傾向があるとも考えられる。

以上のように、代数の問題づくりに関してA群、B群の間に違いが見られた。A群は問題の“数学的構造（解き方）”の次元から問題づくりをする傾向が見られた。このことは“質問内容”や“場面”の違う問題に対しても“数学的構造（解き方）”が類似している問題であれば、類似問題として認識するものと考えられる。

B群の場合、全体的な問題づくりの傾向としては“場面”からの傾向が多かった。問題の“質問内容”や“解き方”はあまり意識されていない。問題を解くことができないため、問題の与えられた“場面”（この問題の場合、ノートや3冊、X円、1000円など）だけを意識して問題づくりをしていると考えられる。このことは、問題の“場面”だけをもとに問題間の類似性認識をしても問題解決能力はあまり養われないとも考えられる。少なくとも、“質問内容”に着目させることが必要であると思われる。特に、代数の文章題の指導においては、“～を求めなさい”など、質問内容に着目させる指導は一般的によくされることから、代数の文章題を解く際に、最終的に何が言えればよいか、すなわち“質問内容”に着目させる指導は、代数の文章題を解決する能力を育成する一つの方法として考えられる。問題の“質問内容”に着目することによって、問題解決の見通しも立てやすくなるものと考えられる。

ある数学者は問題づくりが問題の数学的構造の理解を深め、問題解決能力を向上させるのに有効であることを様々な先行研究をもとに指摘している。また、問題（文章題）間の類似性認識に関する調査において、最初に問題を分類させた後、問題解決の指導を行った場合、その後の問題の類似性認識の調査では、多くの生徒が問題の数学的構造の次元からの分類が変わったと報告している。このことからしても、問題解決の指導の中に問題づくりを取り入れることによって学習意欲や問題解決能力をより育成したり、その他多くの良さが期待できるものと思う。

3 おわりに

今回、数学問題間の類似性認識に関する先行研究などをもとにして、代数の文章題に対する類似性認識について、I L C 沖縄の生徒の調査結果をもとに考察してきた。結果として、代数の文章題からの問題づくりにおいて、生徒はいろいろな視点から考えて問題づくりをすることが分かった。

また、生徒が作った問題を分析してみると、代数の文章題を解くことができた生徒は“数学的構造（解き方）”や“質問内容”などの次元から問題間の類似性認識をしての問題づくりをすることができ、問題を解くことができなかった生徒は“場面”の次元から問題間の類似性認識をして問題づくりをする傾向があることが分かった。

ところで、中学校だけでなく高校においても数学を苦手としている生徒は多い。その原因は読解力や基礎的な計算力の不足、用語や記号、公式、定理などの理解不足、抽象的な思考の未発達など様々な要因などが考えられるが、数学学習の中に問題づくりを取り入れ、問題間の類似性認識を数学がよくできる生徒がするような「数学的構造」や「解き方」の次元から問題づくりができるように高めることで生徒の問題解決能力を向上させることができるのではないかと思う。

更なる具体的な指導実践を通して問題づくりが生徒の学習意欲や問題解決能力の向上に有効であることをさらに検証していきたいと思う。

(2) スクーリングにおける理科実験の意義

— I L C 沖縄の理科実験教室 —

I L C 沖縄 渡邊 正俊

1 はじめに

高等学校学習指導要領では、理科に関する科目は「添削指導 3 時間、面接指導 4 時間」¹⁾を標準時数としており、I L C 沖縄（以下、本校）においても「レポート 3 枚、スクーリング 4 時間」に設定されている。レポート 1 枚にスクーリング 1 時間と考えても、スクーリングが 1 時間余分となるが、本校ではこの時間を野外巡検や実験教室に充ててきた。近年、通信制高校においても「面接指導は、実験や実習等を行ったりする機会であり、知識の習得だけでなく、思考力・判断力・表現力等の育成、学びに向かう力・人間性等の涵養、集団生活への適応支援等、様々な観点から、大変重要な役割を果たしている。」²⁾と指摘されている。今学年度は、新型コロナウイルス感染症のため、後期に理科実験教室だけしか実施できなかったが、そのことを通してスクーリングにおける理科実験の意義について考えてみることにした。

2 今年度の理科実験教室

(1) 実施要項

① 目的

理科の学習は、本来自然事象に対する気づきに始まり、課題を設定し、予想を立てて、観察・実験をし、その結果に基づいて考察・推論していく過程を通して理解していく。その中で観察・実験は重要な位置を占める。本校は施設・設備の関係上、観察・実験を十分に行えない状況にある。そこで今回、普段体験できない 16 の実験を用意して実施することにした。

② 内容

化学：pH 指示薬、イオン化傾向

生物：DNA 抽出、生物多様性

物理：自由落下運動、エネルギー変換・保存の法則、運動量保存の法則、慣性の実験

地学：縦波・横波、雲を作る実験、液化化現象、断層・褶曲モデル

科学と人間生活：凸レンズによる像、偏光板、虹、光の三原色

③ 実施月日：12月3日（木）

④ 時間：1 回目スクーリング B 時間帯（11：30～13：30）

2 回目 C 時間帯（13：30～15：30）多少の時間変動あり

⑤ 場所：コザスクーリング会場（前方）

⑥ 費用：無料

⑦ 募集人数：各時間帯 10 名程度

（新型コロナウイルス感染防止の観点から、先着順とし定員 10 名に達したら締切る）

⑧ 申し込み方法：参加申込書に必要事項を記入し、11月26日（木）までに理科担当職員に提出する。

⑨ その他：2 時間の科目スクーリングとして認定する。

(2) 理科において実験を実施する意義

高校において実施される実験は、多くの場合「学習（教育）実験」³⁾である。その目的は、①知識の理解を助けるため②興味関心を高め学習の動機づけをするため③先人が行った実験を追体験するため④実験スキルを身に付けるため⑤学習内容を実生活と結びつけるために大別される。今回、本校が実験教室で実施した実験もこの目的に沿っている。（写真1、2、3）



写真1 光の三原色の実験（色セロハンを使った光の重ね合わせの実験 上記①のタイプ）



写真2 pH指示薬（バタフライピーティー）にレモンを絞った時の色の変化 上記⑤のタイプ）

(3) 生徒の実験教室反省アンケートから

実験教室には、15名の生徒の参加があった。実験教室後、生徒に実験教室に関するアンケートを実施した。「実験を見たり行ったりしたことを通して、科学に対する理解を深めることができましたか。」という問いに対しては、全員が理解できたと答えている（図1）。これは、実験を教科書との整合性を考えて計画し、ワークシートに教科書の関連ページを入れたり、重要な点にアンダーラインを引いたことが理解につながったからだ と考えられる。また、「実験のルールを守り、安全に気をつけて実験できましたか。」という実験スキルを聞いたものに関しては、きちんとできた（79%）、できた（21%）と答えており、スキルは生徒に身についたと見て取れる。実験教室に関する自己評価も、大変良かったと良かったを合わせれば100%で、全員肯定的にとらえていた（図2）。生徒の感想（表1）を見ても、実験の目的を達成できたのではないかと考える。



写真3 生物多様性（チリモン）から10種類の生物を探す上記②のタイプ）

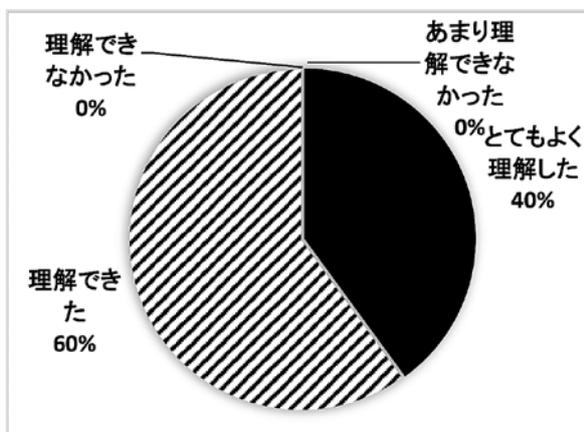


図1 科学に対する理解を深めることができたか

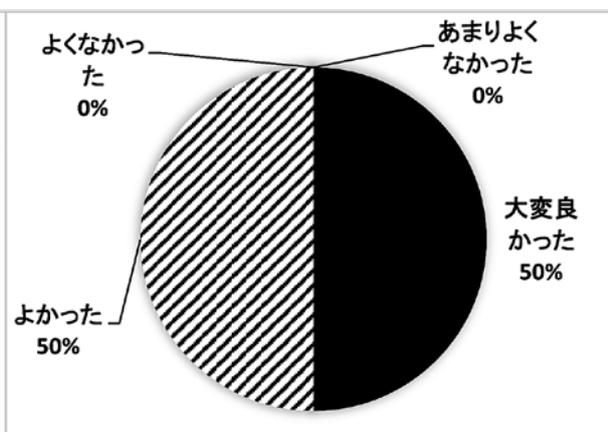


図2 実験教室に関する自己

表1 生徒の感想（一部抜粋）

＜感想＞

- ・魚を探すのが楽しかったです！！
- ・話を聞くだけでなく自分自身で体験できてよかった！
- ・集中してワークシートと実験に取り組めた。
- ・楽しく実験することができて良かったです。また、参加したいです！
- ・普段できないことばかりだったし、元々興味のあるものもあったので楽しかった。
- ・小学校でやった実験をまた復習できてよかった。
- ・通常のスクーリングでは体験することができない体験をして、よく内容も知れて良かったです。
- ・いろんな実験ができて貴重な体験ができて楽しかったです。
- ・一度に色々な実験やその内容について学べて良かった。今後も科学への理解を深めていきたいです。
- ・色々な実験をしてわからない事や面白い事をして実験に興味もてた。

3 考察

(1) スクーリングにおける理科実験の意義

生徒の実験教室反省アンケートからもわかるように、通信制課程においてもスクーリングで実験を実施することは、理科教育を行う上で十分に意義があることがわかった。添削指導が中心となっている通信制課程では、実体験が不足しがちになることが否めない。全生徒ではないにしろ、理科学習で実際に実験や観察を行いたいと思っている生徒は少なからずいることが考えられる。これは、別に実施した「後期新入生歓迎交流会」（10月30日、沖縄こどもの国においてウォークラリーを実施、理科としては動物に関する問題を出題（写真4））の生徒反省からも示唆された。

実験実施に当たっては、生徒の実験スキルから、安全な素材を使うことが重要であると感じた。また、教科書や学習書との関連を明確にしておくことで、生徒が添削指導との関連を実感できることにつながる。さらに身近な素材を使うことで、通信制課程においても学習内容と生活との関連を図ることができ、学習したことが実生活で役立つことを実感させることができることが分かった。通信制課程においても、実験を確実にスクーリングで実施することが大切である。



図5 問 「ジャガー」の模様はどちらでしょう？



写真4 新入生歓迎交流会の問題と見学

(2) 課題

新学習指導要領では、教科教育においても課題発見から仮説設定、実験計画を含んだ「研究実験」的なものの実施がうたわれている。しかし、通信制課程の限られたスクーリングの時間では、「研究実験」的なものを実施するのは難しい。今後この課題にどう向き合うかの研究が必須である。学習指導要領解説においても、実験に対する配慮4)が指摘されており、スクーリングで理科実験を必ず体験させたい。さらに、実際実験を実施するにあたっては、実験する機会が少ないため実験スキルが身につけていないことも問題である。中学校段階のスキルで実施できる実験を選ぶか、実験スキルも含めてできる実験内容を工夫することが必要である。また、実験の実施に当たっては、実験器具や薬品等の整備、流しや暗室等実験設備の整備が欠かせない。今後、全日制の開校による校舎整備に期待するところである。

おわりに

実験教室実施に当たり、費用等を認めてくださった宮城野法人局に感謝いたします。また、将来理科室で、十分な設備と器具によって、生徒が安全に楽しく実験を行い、理科実験の目的が達成され成長できることに期待いたします。

<引用・参考資料>

- 1) 文部科学省 『高等学校学習指導要領』 2018 27-28
- 2) 広域通信制高等学校の質の確保・向上に関する調査研究協力者会議
高等学校通信制の質の確保・向上方策について（審議のまとめ） 文部科学省 2017 29-33
- 3) 金山広吉 『理科実験の盲点研究』 東洋館出版 2000
- 4) 文部科学省 高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編 2018 110-116
工学教育システム分科会 工学教育システム分科会報告 工学における教育プログラムに関する検討委員会
1999 57-59

総目録(第1号～35号)

1986年3月 第1号

巻頭言……………加藤 昭

I. 各種研修会・研修講座に参加して

- ・全国私立中高全国私学教育研究集会……………2
第33回 全国私立中学高等学校
全国私学教育研究集会山口大会参加報告(1)
柏倉 拓
全国私学教育研究集会山口大会参加報告(2) 国語部会
—新学習指導要領における文学教育— 青野 宏一
- ・全国私立中高国際教育研修会……………7
第7回全国私立中学高等学校
国際教育研修会に参加して 教諭 宝槻 隆史
- ・第12回「米国における社会研修講座」……………10
第12回アメリカ社会研修講座に参加して
副題日米社会の相違と文化摩擦 佐々木 豊
- ・第7回「私学の新任若手教員の研修講座」……………12
第7回私学の新任・若手教員研修講座に参加して
渡部 進
- ・「名取平野の文化財」史跡見学会の記録より……………14
渡邊 泰伸

II. 昭和60年度職員研修会

- ・授業研究・各科研究会……………27
国語科(現代文)学習指導案 遣水 満雄
社会科(日本史)学習指導案 駒板 泰吉
数学科(数学I)学習指導案 乾 敬
数学科学習指導案 鈴木 豊治
理科学習指導案 丸山 実信
TEACHING PLAN By Akiyoshi Ohmi
情報処理科 研修のまとめ
公開授業 教科:ベーシック
担当者:野村コンピューターシステム(株) 西村 昌郎
保健体育科柔道学習指導案 佐々木 豊
芸術科研修のまとめ

編集後記

1987年3月 第2号

巻頭言……………加藤 昭

I. 研究

- ・宮城県加美郡中新田町熊野堂遺跡調査略報……………2
渡邊 泰伸
- ・コンピュータによる学業成績処理……………28
瀬戸 信男
佐々木一郎

II. 各種研修会・研修講座に参加して

- ・第13回米国における社会研修講座に参加して……………39
沢田 敏明
- ・英語教師のための夏期セミナー講演会報告……………42
山田 昇
- ・第24回全国私立中学高等学校
保健体育科研修会に参加して……………50
阿部 俊英
- ・第28回全国私立中学高等学校
理科(生物)研修会に参加して……………52
今野 良裕
- ・第1回全国私立中学高等学校
ニューメディア教育研修会に参加して……………54
瀬戸 信男

III. 昭和61年度職員研修会

- ・授業研究・各科研究会……………59
国語科研究会報告 遣水 満雄
社会科研究会報告 渡邊 泰伸
数学I C不等式の表す領域 中川 良雄
代数幾何学習指導案 渡部 進
数学科研究会報告 中川 良雄
理科I 学習指導案 砂沢 準助
英語科研究会報告 宝槻 隆史
芸術科研究会報告 安倍 一男
情報処理I (BASIC) 小林 慶三
佐々木一郎
保健学習指導案 佐々木松治

編集後記

1988年3月 第3号

巻頭言……………加藤 昭

I. 研究

- ・仙台市安養寺下窯跡……………2
渡邊 泰伸
- 研究発表
・大学入試に取り扱われたカタナリー・サイクロイド・
インボリュート曲線について……………22
鈴木 弘

II. 各種研修会・研修講座に参加して

- ・第十四回 米国における社会研修講座(CIAA主催)
に参加して……………29
今野 良裕
- ・アメリカテキサス大学語学研修報告……………60
柏倉 拓
- ・第二十五回全国私立中学高等学校
保健・体育科研修会報告……………71
沢田 敏明

| | | |
|----------------------------------|----|-------|
| ・第二十一回全国私立中学高等学校 生徒指導研修会報告 | 76 | 佐々木 豊 |
| ・第二十三回全国私立中学高等学校 道徳宗教教育研修会報告 | 78 | 及川千一郎 |
| ・第二回全国私立中学高等学校 ニューメディア教育研修会報告 | 81 | 大場 幸 |
| ・第九回国際教育研修会報告 | 86 | 出井まち子 |
| ・ジェラルド・ロビンス ピアノリサイタル報告 | 89 | 荒井 恵子 |

III. 昭和62年度職員研修会

| | | |
|-----------------|----|---------------|
| ・授業研究・各科研究会 | 91 | |
| ・短歌教材指導について | | 高橋 正幸 |
| ・社会科研究会報告 | | 柏倉 拓 |
| ・数学科（基礎解析）学習指導案 | | 乾 敬 |
| ・校内公開授業 | | 中川 良雄 |
| ・数学科研究会報告 | | 佐藤 亘 松尾 勝郎 |
| ・理科（化学）学習指導案 | | 櫻井 忠良 |
| ・理科研究会報告 | | 砂沢 準助 |
| ・英語科研究会報告 | | 小野 明夫 |
| ・書道Ⅱの学習指導について | | 安倍 一男 |
| ・ワープロ学習指導案 | | 遠藤 卓 大場 幸 |
| ・保健体育指導 | | 阿部 由晴 |

編集後記

1989年3月 第4号

巻頭言

| | | |
|-------------------------|----|-------|
| I. 研究発表 | 1 | 加藤 昭 |
| 1. 安養寺下窯跡第3次調査 | 2 | 渡邊 泰伸 |
| 2. 同一素材の外国語翻訳を試みて | 28 | 波里 光彦 |
| II. 海外研修 | 45 | |
| 1. アメリカ夏期語学研修についての報告と所感 | 46 | 坂爪 英夫 |
| 2. 地球の裏から「オブリガード」 | 51 | 宮本 昇 |
| III. 全国私学研修報告 | 63 | |
| 1. ニューメディア教育研修会報告 | 64 | 大場 幸 |
| 2. 現代社会とこれからの体育 | 96 | 丹野 博太 |

| | | |
|------------------------|-----|-------|
| IV. 第36回全国私学教育研究集会新潟大会 | 99 | |
| 1. 特色教育部会報告 | 100 | 高山 直光 |
| 2. 福祉活動を中心として | 110 | 小林 慶三 |
| 3. 教育課程部会報告 | 114 | 庄司 均 |
| 4. 国語分科会 | 121 | 笠岡 庸志 |
| 5. 英語分科会 | 134 | 宝槻 隆史 |
| 6. 商業部会報告 | 138 | 遠藤 卓 |

V. 校内公開授業各科研究会

| | | |
|---------------------------|--|---|
| ・国語科研究会報告 | | 遣水 満雄 |
| ・国語研究会報告 | | ソビエト連邦の教育事情と日本 中津川清風 |
| ・社会科研究会報告 | | 小野寺文雄 |
| ・数学科研究会報告 | | 校内研究授業〔数学Ⅰ〕学習指導案 岩淵 定義 校内研究授業〔確率・統計〕学習指導案 鈴木 弘 |
| ・理科研究会報告 | | 砂沢 準助 |
| ・理科授業研究“ヒトの生殖と発生”を行うにあたって | | 横澤 秀夫 |
| ・英語科研究会報告 | | 宝槻 隆史 谷津 繁勝 小野 明夫 大沼 洋二 |
| ・芸術科研究会報告 | | 時代に即した音楽教育 武藤 信子 |
| ・保健体育科研究会報告 | | 保健体育「柔道」指導案 沢田 敏明 |
| ・情報処理科研究会報告 | | 「進化する紙」 佐々木一郎 |

VI. 編集後記・奥付

1990年3月 第5号

| | | |
|-------------------------|----|-------|
| 巻頭言 | | 加藤 昭 |
| I. 研究 | | |
| ・仙台市安養寺下窯跡 第4次調査概報 | 1 | 渡邊 泰伸 |
| II. 各種研修会・研修講座に参加して | | |
| ・全国私学教育研究集会講演（教育課程部会）より | 25 | 小林 慶三 |
| ・平成元年度 高等学校学習指導研修会 | 27 | 渡部 進 |
| ・私学経営研究会教員研修セミナー | | |

| | |
|-----------------------|-----|
| 第11回私学の新任・若手教員研修講座報告 | 35 |
| 若澤 幸弘・及川 隆夫 | |
| ・第37回全国私学教育研究会大阪大会 | |
| 岩淵 定義 | |
| 〔1〕 数学分科会報告 | 49 |
| 〔2〕 進路指導部会報 | 63 |
| ・全国私立中学高等学校 | |
| 第4回ニューメディア研修会に参加して | 74 |
| 渡部 進 | |
| ・第30回東北地区私学教育研究会に参加して | 86 |
| 山田 昇 | |
| ・第25回全国私立中学高等学校家庭科研修会 | 90 |
| 庄司 均 | |
| ・カナダ語学研修について | 93 |
| 佐々木清彦 | |
| ・英国語学研修報告 | 102 |
| 阿部 徹・出井まち子 | |
| ・カー先生の日本体験記 | 117 |
| 波里 光彦 | |
| Ⅲ. 授業研究・各科研究会 | |
| ・国語科学習指導案 | 143 |
| 千田 亥彦 | |
| ・数学科学習指導案 | 146 |
| 渡部 進 | |
| ・数学科学習指導案 | 152 |
| 菅井 了 | |
| ・数学科研究会報告 | 157 |
| ・理科(化学)学習指導案 | 161 |
| 半澤 健 | |
| ・化学実験の一考察 | 167 |
| 半澤 健 | |
| ・情報処理科(簿記会計)学習指導案 | 173 |
| 佐々木英明 | |
| ・保健体育科学習指導案 | 177 |
| 丹野 博太 | |

編集後記

1991年3月 第6号

| | |
|-------------------------|------|
| 巻頭言 | 加藤 昭 |
| Ⅰ. 国際化教育への模索 | |
| ・日本の「国際化」に思う | 1 |
| 波里 光彦 | |
| ・創立85周年記念事業 国際理解のための講演会 | 17 |
| 研修課 | |
| ・全国私立中学高等学校 | |
| 第12回国際教育研修会に参加して | 34 |
| 佐々木清彦 | |
| ・夏期イギリス語学研修(女子) | 60 |
| 関谷 照夫 | |
| ・夏期イギリス語学研修(男子) | 73 |
| 桜井 忠良 | |

| | |
|--|-----|
| ・女子卓球部中国遠征報告 | 85 |
| 若澤 幸弘 | |
| ・仙台育英学園高等学校創立85周年記念 | |
| 日本, カナダ国際親善ラグビー遠征記 | 89 |
| 伊藤挺一郎 | |
| ・第31回東北地区私学教育研修会 英語分科会 | |
| 「How to give the motivation to the students」 | |
| キヤム・カー | 104 |
| Ⅱ. 多賀城フォーラム | |
| ・「多賀城フォーラム21」行わる | 121 |
| 加藤 雄彦 | |
| Ⅲ. 研究・研修 | |
| ・第25回全国高等学校体育学科連絡協議会に参加して | 137 |
| 丹野 博太 | |
| ・平成2年度 研修課年間計画 | |
| 情報処理研修報告 | 144 |
| 佐藤 正行 | |
| ・平成2年度全国私立中学高等学校 | |
| 第5回ニューメディア教育研修会報告 | 167 |
| 佐藤 正行 | |
| ・私学経営研修会教員研修セミナー | |
| 第12回私学の新任・若手教員研修講座報告 | 222 |
| 佐藤 正行 | |
| ・第12回私学の新任・若手教員研修講座 | 227 |
| 佐々木英明 | |
| ・西多賀養護学校を訪問して | 228 |
| 若澤 幸弘 | |
| ・宮城県生徒指導研修会に参加して | 230 |
| 佐々木英明 | |
| ・国語科(漢文)公開授業並びに教育研究会 | 241 |
| 寺尾 幸吉 | |
| ・数学科公開授業並びに教科研究会 | 248 |
| 近藤 精宏 | |
| ・英語科公開授業並びに英語科教科研究会 | 255 |
| 立谷 梨 | |
| ・理理科公開授業並びに教科研究会 | 260 |
| 男澤 文義 | |
| ・社会科教科研究会 | 263 |
| 阿部 徹 | |
| ・保健体育科(保健)公開授業並びに教科研究会 | 266 |
| 沢田 敏明 | |
| 編集後記 | 269 |

1992年3月 第7号

| | |
|------------|------|
| 巻頭言 | 加藤 昭 |
| Ⅰ 研究 | |
| ・仙台市安養寺下窯跡 | 1 |
| 渡邊 泰伸 | |

| | |
|-------------------------------|--|
| II 多賀城フォーラム | |
| ・第2回多賀城フォーラム | 37 加藤 雄彦 |
| III 講演「山形の一教師の実践論」 | 55 山形県生涯学習人材育成機構専務理事 打田 早苗 |
| IV 研修報告 | |
| ・平成3年度高等学校教育課程講習会 | 75 凌 時哉 |
| ・東北国語教育研究会 | 83 佐々木隆男・板橋 敏男 |
| ・平成3年度宮城県高等学校教育課程講習会外国語部会 | 94 関谷 照夫 |
| ・第13回私学の新任・若手教員研修会 | 120 佐藤 弘 |
| V 海外遠征報告(平成3年度) | |
| ・夏期カナダ語学研修 | 125 関谷 照夫 |
| ・夏期イギリス語学研修(男子) | 135 山田 紀英 |
| ・夏期イギリス語学研修(女子) | 150 砂金 紀 |
| ・オックスフォード紀行 | 162 高平たつみ |
| ・軟式庭球部台湾遠征 | 172 佐藤 正行 |
| ・女子卓球部スウェーデン遠征 | 176 大岡多津子 |
| ・イタリア知識旅行事前調査 | 180 小林 慶三・渡部 進・佐々木順子 武田 美法・加藤 晃孝 |
| ・女子卓球部中国(上海市)遠征 | 191 若澤 幸弘 |
| VI 研究・研修 | |
| ・校内研修会実施要 | 193 |
| ・国語科公開授業並びに教科研究会 | 194 及川千一郎 |
| ・数学科公開授業並びに教科研究会 | 224 佐藤 孝 |
| ・英語科公開授業並びに教科研究会 | 230 秋山なみ江・出井まち子 |
| ・理学科公開授業並びに教科研究会 | 232 渡辺 重隆 |
| ・社会科教育研究会 | 238 加藤 晃孝 |
| VII 論文 | |
| ・国語科短歌鑑賞会 一高校生の読み物として一名歌少考 | 245 高橋 正幸 |

| | |
|----------|--------------|
| ・「うたごころ」 | 256 加藤 武夫 |
|----------|--------------|

| | |
|------|-----|
| 編集後記 | 259 |
|------|-----|

1993年3月 第8号

| | |
|-----|------|
| 巻頭言 | 加藤 昭 |
|-----|------|

I 研究

| | |
|---------------------|------------|
| ・仙台市安養寺下窯跡(第7次調査概報) | 1 渡邊 泰伸 |
|---------------------|------------|

II 研修・遠征報告

| | |
|-----------------------|--------------|
| ・第14回私学の新任・若手教員研修講座 | 47 槇 統 |
| ・全国高等学校選抜卓球大会二連覇を達成して | 50 大岡 巖 |
| ・オーストラリア英語に接して | 52 庄子春一郎 |
| ・平成4年度夏期イギリス語学研修 | 54 渡邊 泰伸 |
| ・男子陸上チームのカナダ・バンクーバー遠征 | 106 二階堂 進 |

III 校内研修会

| | |
|--------------------|--------------|
| ・平成4年度校内研修会実施要項 | 109 |
| ・国語科教科研究会 | 110 佐藤 秀一 |
| ・数学科公開授業並びに教科研究会 | 154 加藤 晃孝 |
| ・理学科教科研究会 | 163 八木 浩 |
| ・社会科教科研究会 | 203 佐藤 林平 |
| ・保健体育科公開授業並びに教科研究会 | 212 槇 統 |
| ・情報処理科公開授業並びに教科研究会 | 217 佐々木英明 |

| | |
|------|-----|
| 編集後記 | 223 |
|------|-----|

1994年3月 第9号

| | |
|-----|------|
| 巻頭言 | 加藤 昭 |
|-----|------|

I. 加藤利吉先生生誕111年 学園創立88周年記念事業

| | |
|------------------------------|-----------------|
| ・多賀城校舎グロリーホール落成を記念して | 1 半沢 健 |
| ・記念講演—大きく変わりつつある世界そして学校のゆくえは | 7 ロバート・カークナー |
| ・平成5年度父母教師会総会講演 | 26 トミー植松 |

| | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|-------------|
| II 研究 | ・地学学習指導案……………276 | 武田 要吉 |
| ・仙台市安養寺下窯跡（第8次調査概報）……………37 | | |
| 渡邊 泰伸 | ・英語科研究会……………285 | 武田 美法 |
| ・宮城県志田郡松山町下伊場野窯跡調査略報……………58 | | |
| 渡邊 泰伸 | ・総合実践業務処理システム実習概要……………293 | 瀬戸 信男 |
| III 海外研修・遠征報告 | ・保健体育科学習指導案……………325 | 庄司 和良 |
| ・女子バレー部韓国研修旅行……………105 | | |
| 佐藤 幸雄 | ・保健体育科柔道学習指導案……………327 | 松原潤一郎 |
| ・サッカー部ドイツ遠征……………107 | | |
| 佐藤 脩 | 編集後記……………330 | |
| ・中国グランプリ国際大会報告書……………123 | | |
| 大岡 巖 | 1995年3月 第10号 | |
| ・ボーンマス再訪……………124 | 巻頭言……………加藤 昭 | |
| 渡邊 泰伸 | I 研究 | |
| ・平成5年度イギリス語学研修に参加して……………180 | ・仙台市安養寺下窯跡（第9次調査概報）……………1 | 渡邊 泰伸 |
| 高谷 功 | II 海外研修・語学研修 | |
| ・平成5年度カナダ研修旅行……………195 | ・英国語学研修 [ボーンマス] の記録……………31 | 渡邊 泰伸 |
| 今野 仁 | ・カナダ語学研修旅行を共にして……………93 | 日下 英夫 |
| ・クリスマスをアメリカの一家庭で過ごして……………206 | | |
| 庄子春一郎 | ・カナダ語学研修報告……………105 | 柏倉 拓 |
| IV 研修報告 | ・CBS杯招待遠征報告（韓国(ソウル)雑感)……………115 | 丸山 博史 |
| ・平成5年度私立学校初任者研修全国研修会（第2回）……………209 | | |
| 庄司 和良 | ・韓国CBS杯全国高等学校バレーボール大会に参加して……………121 | 藤屋 秀人 |
| ・平成5年度私立学校初任者研修全国研修会（第2回）……………214 | | |
| 寺内るみ子 | ・ニュージーランド語学研修／姉妹校訪問……………124 | 二階堂 勉 |
| ・第15回私学の新任・若手教員研修講座……………219 | | |
| 寺内るみ子 | ・ニュージーランド語学研修……………129 | 小野 裕子 |
| ・第15回私学の新任・若手教員研修講座を受講しての報告……………223 | | |
| 松原潤一郎 | ・ハワイ修学旅行下見についての報告と雑感……………131 | 坂爪 英夫 |
| ・全国私立中学高等学校性教育研修会参加報告……………226 | | |
| 柏倉 拓 | ・ラグビー部ニュージーランド遠征についての報告……………136 | 丹野 博太 |
| ・平成5年度全国私立中学高等学校生徒指導研修会……………230 | | |
| 宝槻 隆史 | ・ヨーロッパ・橋紀行……………145 | 関根 一郎 |
| ・私学の特色ある教育課程の実践に向けてII……………233 | | |
| 佐々木 豊 | ・オーストラリアの高校生活—公立キルコイ高校の場合……………154 | 庄子春一郎 |
| ・平成5年度全国私立中学高等学校数学科研修会報告……………248 | | |
| 加藤 晃孝・鈴木 孝司 | V 校内研修会 | |
| ・全国私立中学高等学校英語科研修会……………252 | ・平成5年度校内研修会実施要項……………255 | |
| 武田 美法 | ・効果的国語指導の在り方……………256 | 及川千一郎・清水 初治 |
| V 校内研修会 | ・社会科教育研究会……………266 | 高谷 功・渡邊 泰伸 |
| ・平成5年度校内研修会実施要項……………255 | | |
| ・効果的国語指導の在り方……………256 | | |
| 及川千一郎・清水 初治 | ・数学科研究会記録……………271 | 佐々木順子 |
| ・社会科教育研究会……………266 | | |
| 高谷 功・渡邊 泰伸 | III 研修報告 | |
| ・数学科研究会記録……………271 | ・平成6年度私立学校初任者研修北海道東北地区研修会報告……………163 | 引地 由佳 |
| 佐々木順子 | ・平成6年度私立学校初任者研修北海道東北地区研修報告……………167 | 中村 千恵 |

| | |
|-----------------------------|-----|
| ・第35回東北地区私学教育研修会 | 171 |
| 今野 仁 | |
| ・第35回東北地区私学教育研修会参加の報告 | 180 |
| 佐藤 林平 | |
| ・第35回東北地区私学教育研修会進路指導部会 | 199 |
| 大場 幸 | |
| ・第35回東北地区私学教育研修会学習指導部会理科分科会 | 205 |
| 大沼 正行 | |

IV 校内研修会

| | |
|-----------------|-----|
| ・平成6年度校内研修会実施要項 | 209 |
| ・「国語科」研究会 | 210 |
| 鎌田 敬 | |
| ・数学科研究会記録 | 215 |
| 佐藤 孝 | |
| ・英語科研究会 | 220 |
| 砂金 紀 | |
| ・理科研究会 | 226 |
| 横澤 秀夫 | |
| ・社会科研究会 | 235 |
| 阿部 徹 | |
| ・情報処理科研究会 | 242 |
| 佐藤 正行・内海 利男 | |
| ・保健体育科指導計画 | 256 |
| 中村 光男 | |

1996年3月 第11号

創立90周年特別号

| | |
|-----|------|
| 巻頭言 | 加藤 昭 |
|-----|------|

I 研究

| | |
|-----------------------|----|
| ・「世界史」探訪の旅 | 1 |
| 武田 義之 | |
| ・不登校児への対応を探る | 8 |
| 半澤 健 | |
| ・宗教と人生 | 20 |
| 小柳 俊夫 | |
| ・文学教材指導法雑感 | 34 |
| 伊藤源太郎 | |
| ・補助教材として授業中に使用した参考作品集 | 48 |
| 丹野 将範 | |
| ・生活史に反映する伝承音楽の役割 | 94 |
| 鎌田 敬 | |

II 海外研修

| | |
|-----------------------------|-----|
| ・カナダ研修旅行 | 111 |
| 太宰 芳郎 | |
| ・イートン校サマースクールを終えて | 121 |
| 加藤 晃孝 | |
| ・オーストラリアの中生活 公立モーソン中学の場合 | 125 |
| 庄子春一郎 | |

III 研修報告

| | |
|--------------------------------------|-----|
| ・平成7年度『財政経済セミナー』に参加して 我が国財政の現状と課題 | 129 |
| 小嶋 聡悦 | |
| ・全国私立中学高等学校国語科研修会研修報告書 | 170 |
| 引地 由佳 | |
| ・「性教育研修会」に参加しての報告 | 174 |
| 出井まち子 | |

| | |
|------|-----|
| 編集後記 | 177 |
|------|-----|

1997年3月 第12号

| | |
|---------------------------------|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
| ・授業の活性化 | 1 |
| 半澤 健 | |
| ・世界史探訪の旅II | 6 |
| 武田 義之 | |
| ・修学旅行事前調査報告 | 21 |
| 沼田嘉一郎 | |
| ・韓国スポーツ交流団へ参加して | 26 |
| 坂爪 英夫 | |
| ・韓国修学旅行事前調査に参加して | 53 |
| 宝槻 隆史 | |
| ・Memories of Canada | 59 |
| 清水 初次 | |
| ・学校茶道の果たす役割 | 63 |
| 佐藤 宗秀 | |
| ・茶事の研修 | 69 |
| 岡崎 宗豊 | |
| ・裏千家今日庵を訪ねて | 71 |
| 馬淵 宗友 | |
| ・21世紀にお茶の心をつなごう | 74 |
| 木村 宗智 | |
| ・カナダ研修旅行報告 | 78 |
| 山田 昇 | |
| ・イギリスアップランズカレッジ語学研修事前調査に いって | 82 |
| 小嶋 哲朗 | |
| ・「私学教員のめざすもの」についての一考察 | 85 |
| 下平 孝富 | |
| ・北海道・東北地区研修会 | 88 |
| 富澤 良江 | |
| ・当世イングランド南西地区環境状況 | 91 |
| 内海 利男 | |
| ・宮城野校舎での「LD学習」の利用の現状について | 94 |
| 工藤 敏夫 | |
| ・『第1回実用英語技能検定』の結果を振り返って | 100 |
| 尾形 照子 | |
| ・異文化体験 | 102 |
| 庄子春一郎 | |
| ・『ライオンの晴』発行について | 108 |
| 山本吉之助 | |

- ・CS向上めざして教養コースからの提案 ……113
坂爪 英夫
- ・多賀城セクション生徒寮保護者懇談会概要報告…126
守 喜美夫・加藤 晃孝
- ・教育実習（養護教諭）期間中に行った研究について
……………137
指導 木村 保子・佐藤 雅美
- ・KOREA旅行雑感・1996年 ……145
阿部 俊徳
- ・長春外国語学校との姉妹校締結記念
中国訪問親善交流・研修の記録……………152
曾我 道雄
- ・那須研修の現状について……………166
藤岡 昌之
- 編集後記……………186

1998年3月 第13号

- 巻頭言……………加藤 雄彦
- ・演題「180°変わる進学英語」……………1
佐藤 良明
- ・世界史探訪の旅Ⅲーチュニジア共和国とカルタゴの
遺跡ー……………10
武田 義之
- ・雄と雌の話……………25
半沢 健
- ・高校生の喫煙についての一考察……………52
富澤 良江
- ・平成8年度教養コースにおける生徒指導の一つの試み
……………59
沼田嘉一郎
- ・平成8年度修学旅行……………75
瀬戸 信男・小川 久松・渡邊 泰伸
- ・カナダ日記 1997年夏……………84
阿部 俊徳
- ・アンコール・ワットへの旅……………94
佐藤 雄三
- ・CS向上をめざす物理教育の一試案……………102
高橋 明
- ・英国語学研修実施報告……………121
千代窪敏光
- ・平成9年イギリス夏期語学研修（ボーンマス団）
……………125
遊佐 隆司
- ・松島研修センターの概要……………133
榊井 庸彦・渡辺 章紀・佐々木英明
千葉 浩・青木 康博
- ・オーストラリアのハイスクール……………149
庄子春一郎
- ・ペルシアの風ーイラン旅情……………158
伊藤源太郎
- ・授業における吹奏楽の試み……………212
牛渡 純

- ・はじめてのクロアチア国際交流……………218
澤口 衛・藤屋 秀人
郷古 武・木村 美知
- ・国際ゆめ交流博覧会の報告……………230
ジェシタ ワンジロ ムタヒ

編集後記

1999年3月 第14号

- 巻頭言……………加藤 雄彦
- ・初任者研修……………1
PART I 宮城野中学校での中高連携授業研究会に
参加して
日比野曜子 鈴木 暁子 佐々木順子
引地 由佳 下平 孝富 佐々木順一郎
富澤 良江 箱島 道泰 榎 統
藤屋 秀人 千葉 浩 岡崎 由起
古宮 紀子 池口真理子 鈴木 保恵
松原潤一郎 吉田 淳 郷古 武
望月久美子
PART II 三色最中を訪ねて
望月久美子 下平 孝富 古宮 紀子
池口真理子 榎 統 鈴木 暁子
松原潤一郎 佐々木順子 鈴木 孝司
鈴木 保恵 岡崎 由起 引地 由佳
- ・数学嫌いをつくり出す原因を本校生徒よりさぐる
……………33
渡部 進
- ・Message from Mahurangi College, NZ……………45
ジョン・スコベル
- ・ニュージーランド修学旅行……………48
庄子春一郎
- ・ドイツ滞在3年あれこれ……………54
佐々木芳輝
- ・高等学校におけるコンピュータ事情……………63
高階 公・若松 武徳
- ・我が国の人名習俗ー複名習俗としてのー……………74
新関 昌利
- ・ヨーロッパ知識旅行……………84
藤岡 昌之
- ・簿記会計1級合格を目指して……………91
坂爪 英夫
- ・シリーズPART IV「中国」……………93
北京・長春の見聞
中国の近代史をみる
坂爪 英夫

編集後記

2000年3月 第15号

巻頭言……………加藤 雄彦

I 研究報告

- (1)平成7,8年度帰国子女教育研究……………1
千葉 浩
- (2)高校生時代の「日の丸」掲揚、「君が代」斉唱と、
その人格形成への影響について－「日の丸」「君が
代」に関する一考察－……………30
若松 武徳
- (3)わが育英における語学教育－中国語教育について－
……………44
張 言行

II 平成11年度新任者研修の記録

- (1)「講演会」……………49
大学から見た、これからの青少年への期待
期 日 H.11年3月8日(月)16時より
講 師 東北大学総長・工学博士 阿部 博之先生
会 場 宮城野校舎 大会議堂
- (2)「講演会」
コーチング科学について
期 日 H.11年6月18日(月)
16:30～17:50
講 師 順天堂大学スポーツ健康科学部、
コーチ学バレーボール研究室 河合 武司 先生
- (3)平成11年度体育会運動部校内研修会
－コーチング科学講演会をきいて－……………71
杉本 真・進藤由里子
- (4)北海道・東北地区私学学校初任者研修会に参加して
－職業人である私学教員として「私学」というもの
をきちんと理解し、認識する－……………74
鎌田千佳子
- (5)北海道・東北地区私立学校初任者研修に参加して
－21世紀が求める学力を育む学習とその指導－
……………80
佐藤 恵美

III 研修旅行

- (1)イギリス・アップランズカレッジ語学研修……………85
千葉 浩
- (2)カナダ研修旅行記……………96
秋山なみ江
- (3)イギリス語学研修……………104
武田由紀子
- (4)1998年教養コース修学旅行下見報告(瀬戸内班)
……………113
渡邊 泰伸

IV 歳時記

- (1)NewYork Symphonic Ensemble
－Japan Concert Program 1998－
1.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル
と仙台育英高等学校混声合唱団・仙台育英学園秀光
コース・秀光中学校オーケストラ・ジョイントコン

- サートを終えて」……………122
牛渡 純
- 2.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル
ジョイントコンサートに参加して」……………126
中村 桂子
- 3.「ニューヨーク・シンフォニック・アンサンブル
ジョイントコンサートの合唱指導」……………129
横山 功
- (2)ケニヤからのメッセージ……………135
エライジャ・J・ギタオ
- (3)オランダからきた柔道人－オランダからやって来た
柔道家たちとの交流記－……………139
箱島 道泰

V 英文中文目次要旨……………142

編集後記

2001年3月 第16号

巻頭言……………加藤 雄彦

- 「トピックス」
「一瞬に賭けたエアピストル」
－シドニーオリンピック・エアピストル競技出場
稲田容子先生応援記－……………1
沼田嘉一郎

I 研究報告

- (1)「開かれた学校経営」
～集めるPTAから、集まるPTAをめざして～……………6
沼田嘉一郎

II 平成12年度研修の記録……………13

- (1)「第1回教職員研修会」
「社会に背を向ける青少年の心の問題」
講 師 宮城県中央児童相談所次長 本間 博彰氏
- (2)「進学CLUB講演会」……………27
「生きる喜び」－ガンとの戦いにうち勝って－
講 師 千葉 勇作 氏
- (3)「第2回教職員研修会」……………44
「オリンピックの活躍とキューバスポーツ」
講 師 キューバスポーツ省
ロベルト・ゴンザレス 氏
- (4)「指導者講習会」
「中国のスポーツ事情」講 師 孫 国華 氏

III 研修旅行

- (1)教養コース 中華人民共和国 中国研修旅行の記
「大きな一歩－中国5日間の旅」……………57
佐藤 學
- (2)教養コース 英語語学研修
「英語での初めての生活はスケッチブックと」……………70
佐々木仁志

| | | |
|--|-----|-------|
| (3)英進コース カナダ語学研修 「語学研修 犬ですら英語でしか反応しない」 | 82 | 芳賀 良光 |
| (4)韓国研修「韓国の古都慶州を駆けぬける」 第16回コーロン杯高校区間マラソン大会招待参加 記録 | 90 | 遊佐 隆司 |
| (5)外国語コース ヨーロッパ語学研修 「すばらしき体験」 「What a LOVELY experience !」 ーイギリス(チャタム)語学研修を終えてー | 97 | 渡辺有紀子 |
| (6)特別進学コース 英語語学研修 「心豊かな日々」ーイギリス・アップランズ・コミュ ニティ・カレッジ語学研修ー | 111 | 佐伯 達二 |
| IV 英文・中文目次要旨 | 129 | |
| 編集後記 | | |

2002年3月 第17号

| | | |
|--|----|--------------|
| 巻頭言 | | 加藤 雄彦 |
| 「トピック」 「キューバ訪問」 訪問の記録 | 1 | |
| I 研究報告 イギリスの教育改革 | 14 | 若松 武徳 |
| II 平成13年度研修の記録 (1)講演 こころの担任 | 22 | 仙台市教育長 阿部 芳吉 |
| 指導者のあるべき姿勢と今日の日本スポーツ現状 | 32 | 帖佐 寛章 |
| (2)研修記録 「本校における国際交流」 ー平成13年度第41回東北地区私学教育研修会国際 教育部会ー | 49 | 大場 幸 |
| (3)開放講座「生き生き学級」の実践 | 63 | 船島 敏之 |
| III 研修旅行 (1)教養コース ニュージーランド研修旅行 「育英学園の教師であればこそ」 | 67 | 佐々木 功 |
| (2)英進コース 英国語学研修 「貴重な経験」 | 76 | 山川真理子 |

| | | |
|----------------------------------|----|-------|
| IV 歳時記 「少林寺拳法国際大会2001」出場実施報告書 | 88 | 佐々木英明 |
| V 英文中文目次・要旨 | 92 | |
| 編集後記 | | |

2003年3月 第18号

| | | |
|--|----|-------|
| 巻頭言 | | 加藤 雄彦 |
| 「トピック」 「全国制覇」夢達成に胸を張り。 | 1 | 佐藤 達雄 |
| 「～千人の思いよ届け！～バンブーオーケストラ」 | 3 | 相良 信恵 |
| I 平成14年度 研修の記録 (1)「21世紀の情報教育」ー図形と画像処理ー | 10 | 小林 祐喜 |
| (2)仙台育英学園高等学校における公文式英語学習の導 入について～ The report on the introduction of Kumon English Method at SENDAI IKUEI GAKUEN HIGH SCHOOL ～ | 26 | 日野 彰 |
| (3)平成14年度私立学校初任者研修 北海道・東北地区研修会参加報告 | 32 | 石山かおり |
| II 研究報告 (1)文章指導についての一考察 ー小論文入門編としてー | 41 | 齋藤 典子 |
| III 研修報告 (1)教養コース 中国研修旅行 研修旅行で学んだもの | 66 | 佐竹 伸彦 |
| (2)英進コース イギリス語学研修 Letters From Cambridge (ケンブリッジからの便り) | 82 | 進藤 満 |
| IV 英文目次・要旨 | | |
| 編集後記 | | |

2004年3月 第19号

| | | |
|--------------------|---|------------|
| 巻頭言 | | 加藤 雄彦 |
| トピック クローチアからの手紙 | 1 | ドリカ・グロシニッチ |

I 研究報告

- (1)通信制課程における教科指導—ビデオを利用した地球環境と生物界の変化について—……………3
金田 敏宏

- (2)投球速度の異なる投手の投動作の比較研究
—高校野球選手を対象として—……………7
佐々木順一郎

平成15年度

順天堂大学大学院スポーツ健康科学研究所
スポーツ科学領域コーチング科学専門分野修士論文
指導教官 川合 武司 教授

- (3)第3期(社)日本経済団体連合会
キャリア・アドバイザー養成講座受講報告書……………37
佐々木 豊

II 研修旅行

- (1)外国語コース ニュージーランド語学研修旅行
ENCOUNTERING A DIFFERENT CULTURE
「異文化との出会い」……………47
永井 惇

- (2)英進進学コース ニュージーランド語学研修旅行
「はじめてのニュージーランド語学研修」……………54
石田 昌彦

編集後記

2005年3月 第20号

- 巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

- ケニアからの留学生 サムエル・ワンジル (Samuel Kamau Wanjyu) 君と書道の出会い—心の修行に—
……………1
渡邊 章紀

I 研究報告

- (1)心豊かな生徒の育成をめざして
—合同LHRをとおして—……………5
秀光中等教育学校 ホームルーム委員会 代表
高橋 守雄

- (2)宮城県高等学校商業教育研究会平成16年実務演習
講習会受講報告……………15
佐々木英明・日野 彰

- (3)フォローアップ講座についての考察……………24
小野 仁也・櫻井 順

- (4)スピン軸は公転軸を目指す……………51
原 憲之介

- (5)1年生の試行錯誤……………62
本木 真人

- (6)宮城県加美郡色麻町 土器坂瓦窯跡の調査
—雷文縁4葉複弁蓮華文軒丸瓦を出土する色麻柵付
属瓦窯跡の調査—……………78
仙台育英学園高等学校考古学研究部 古窯跡研究会

II 平成16年度 研修旅行報告

- (1)教養コース 北海道研修旅行
—有意義で事故の無い研修旅行の実践—……………182
船島 敏之

- (2)教養コース 中国研修旅行報告……………187
瀬戸 信男

- (3)秀光中等教育学校 スイスの自然環境保護への取り
組み—ユーロスクールを通して感じたこと—……………193
小林 祐喜

- (4)英進進学コース ニュージーランド留学研修
—新たな発見を求めて in New Zealand—……………199
高橋 美保

- (5)英進進学コース カナダ語学研修旅行……………207
木村 啓子

- (6)特別進学コース カナダ語学研修
—自然を愛する国—……………212
高根 司

2006年3月 第21号

- 巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

- 青い目の剣士たち—スウェーデン研修から—……………1
田中 裕子

I 研究報告

- (1)スペイン語の指導法の研究……………11
コレテス・レオン

- (2)憲政初期の選挙運動の一形態……………23
井上 祥

- (3)トリプルA委員会の計画と取り組みについて……………31
トリプルA委員会委員長 佐々木英明

- (4)MBPとKBPの比較
—国際収支理論を中心に—……………35
雫石 誠孝

- (5)平成17年度
公文英語・英語Iの関連性における考察……………46
高橋 美保

- (6)部活動指導における一考察
—サッカー部三年間の歩み—……………70
吉井 秀邦

- (7)創作脚本講習テキスト
—宮城県高等学校演劇総合研修会—……………76
渡部 進

- (8)古代東北における古瓦の研究……………83
渡邊 泰伸

II 平成17年度 研修旅行報告

- (1)特進コース
アイルランド・オーストラリア語学研修……………122
日比野曜子

- (2)英進コース 北海道研修旅行……………134
伊藤 寿展・桜井 順

| | |
|----------------------|-------|
| (3)英進コース イタリア研修旅行 | 148 |
| | 池口真利子 |
| (4)英進進学コース カナダ語学研修旅行 | 159 |
| | 石田 昌彦 |
| (5)外国語コース アイルランド語学研修 | 173 |
| | 岡崎 由起 |
| (6)フレックスコース 北海道研修旅行 | 180 |
| | 大友 健一 |

編集後記

2007年3月 第22号

| | |
|-----|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
|-----|-------|

トピック

| | |
|--|-------|
| 毎日書道宮城県高校生選抜書展団体賞 —第12回展～第16回展(2002～2006) 5連覇を叶えた仲間たち— | 1 |
| | 渡邊 章紀 |

I 研究報告

| | |
|--|-------------|
| (1)フォローアップ講座についての一考察 | 13 |
| | 加藤 美穂 |
| (2)TOEIC/TOEIC Bridge教員向けセミナー —「高校における活用事例」—2006—仙台に参加 して— | 34 |
| | 小野寺朋子・日比野真奈 |
| (3)法学の学問的特殊性 —その概念形成の仕方に注目しつつ— | 37 |
| | 伊藤 剛 |
| (4)特別進学コース プラン2000実施報告 —平成16年～18年度の取組について— | 44 |
| | 倉橋 真司 |

II 平成18年度 研修報告

| | |
|--|---------------|
| (1)英進進学コース カナダ語学研修 | 61 |
| | 相良 信恵 |
| (2)英進進学コース 北海道研修報告 | 69 |
| | 渡邊 章紀・文屋 祐介 |
| (3)英進進学コース 英進コース研修 —膨大な歴史・文化の都イタリアを訪ねて— | 94 |
| | 佐竹 伸彦 |
| (4)外国語コース アイルランド・ドイツ 語学研修 | 109 |
| | 岡崎 由起 |
| (5)フレックスコース 北海道学研修 | 117 |
| | 1班(男子) 富栄 博行 |
| | 2班(女子) 島倉 尚子 |
| (6)秀光中等教育学校 「2006ユーロスクール」実施報告 | 127 |
| | 前半 船越 總眞 |
| | 後半 ダブリン班 千葉 浩 |
| | レンヌ班 石田真理子 |
| | エジンバラ班 脇 淳 |

| | |
|---------------------|-------|
| (7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修 | 156 |
| | 大竹 聡美 |

編集後記

2008年3月 第23号

| | |
|-----|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
|-----|-------|

トピック

| | |
|--|-------|
| 「仙台育英中学校創立記念誌」の発見とその内容について —戦火を超えて残った大正12年2月発行の記念誌— | 1 |
| | 渡邊理律子 |

I 研究報告

| | |
|---|-------|
| (1)高等学校における日本思想を扱った学習指導について —保科正之の思想と会津を事例として— | 7 |
| | 倉橋 真司 |
| (2)外国語コース1年生におけるPLPへの意識調査と家 庭学習について | 18 |
| | 北村 悦子 |

II 平成19年度 研修報告

| | |
|-------------------------------------|-------------|
| (1)英進コース 北海道研修旅行報告 | 44 |
| | 小野 仁也・及川 尚彰 |
| (2)特進・外国語コース 2007年アイルランド・ドイツ語学研修 | 48 |
| | 浅利 正雄 |
| (3)フレックスコース 北海道学研修報告 | 55 |
| | 大岩 和良 |
| (4)秀光中等教育学校 ①グリーンスクール研修報告 | 60 |
| | 千葉 広高 |
| ②—1 2007ユーロスクール実施報告(前半) | 66 |
| | 千葉 浩 |
| —2 アイルランド・ダブリン班(後半) | 松田 万理 |
| —3 フランス・レンヌ班 | 小林 祐喜 |
| —4 参加生徒レポート (1)初めてのヨーロッパ | 岩本 怜央 |
| (2)私が感じたヨーロッパ | 川岸 瑞歩 |
| ③第4学年自由研究論文 京都実地研修報告 | 103 |
| | 芦立 俊雄・他 |
| (5)通信制課程 異文化体験ハワイ研修 | 131 |
| | 新田 玲子 |

編集後記

2009年3月 第24号

| | |
|-----|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
|-----|-------|

トピック

| | |
|-------------|-------|
| 「グリーンフィールド」 | 1 |
| | 吉井 秀邦 |

| | |
|------------------------------|---|
| I 研究報告 | |
| (1)平成20年度 第47回東北地区私学教育研修会報告 | 4 |
| | 石田 昌彦 |
| (2)第47回東北地区私学教育研修会報告 | 7 |
| | 小林 祐喜 |
| (3)小論文指導の着地点はどこに設定すべきか | 12 |
| | 三浦 宗隆 |
| (4)全国音楽教育研究会高等学校部会全国大会宮城大会報告 | 19 |
| | 熊原 裕美 |
| (5)国語教育における課題 | |
| －国語教育研修会に参加して－ | 22 |
| | 島倉 尚子 |
| (6)日本史の教材研究の試み | |
| －「城下町」の場合を例として－ | 37 |
| | 作間 克彦 |
| (7)高校生における携帯電話の利用について | |
| －フレックスコース1年生の調査から－ | 43 |
| | 後藤 有希 |
| (8)仙台市安養寺下瓦窯跡調査報告 | |
| －陸奥国分寺・同尼寺創建期の瓦窯跡－ | 47 |
| | 渡邊 泰伸 |
| II 平成20年度 研修報告 | |
| (1)英進コース 北海道研修旅行報告 | 245 |
| | (前班) 赤間由樹子 (後班) 秋葉寿太郎 |
| (2)特進・外国語コース | |
| 2008年アイルランド・ドイツ語学研修 | 263 |
| | 小岩久美子 |
| (3)フレックスコース | |
| ①北海道学研修報告 | 280 |
| | (男子) 高階 公 (女子) 高橋 葉子 |
| (4)秀光中等教育学校 | |
| ①グリーンスクール研修報告 | 296 |
| | 田添万智子 |
| ②ユーロスクール実施報告 | 301 |
| | 前半(スイス・ジュネーブ) 庄司 昌弘 後半(アイルランド・ダブリン) 木田智恵美 前半(イタリア・ローマ) 本木 真人 後半(フランス・レンヌ) 牛渡 純 |
| (5)通信制課程 異文化体験ハワイ研修 | 333 |
| | 新田 玲子 |

編集後記

2010年3月 第25号

巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

2009年「長春第十一高校」姉妹校締結訪問……………1
赤間由樹子

| | |
|------------------------------------|-------|
| I 研究報告 | |
| (1)伝統芸能の継承に見られる教育のあり方 | |
| －ハワイ・フラにおける一考察－ | 5 |
| | 安住 陽子 |
| (2)日中交流の架け橋に… 中国人就学生への取り組み | 27 |
| | 岩渕 奈央 |
| (3)理科教育の現状と今後の課題 | |
| －BU(理科)を通して－ | 35 |
| | 寒河江華菜 |
| (4)ニュース時事能力検定の授業への導入について | 38 |
| | 秋葉寿太郎 |
| (5)仙台育英学園陸上競技部(短距離ブロック)の活動報告と今後の展望 | 43 |
| | 菅原 新 |
| (6)アブソープション・アプローチについて | 47 |
| | 雫石 誠孝 |
| (7)書の楽しみ方 ～いろいろな書の在り方の一考察～ | 50 |
| | 渡邊 章紀 |

II 平成21年度 研修報告

| | |
|----------------------|------------|
| (1)英進コース 北海道研修旅行報告 | 71 |
| | 早坂 憲人・高根 司 |
| (2)外国語コース 韓国ソウル研修報告 | 79 |
| | 青木 康博 |
| (3)特別進学コース・外国語コース | |
| ハワイ語学研修旅行報告 | 84 |
| | 庄司 昌弘 |
| (4)フレックスコース(多賀城校舎) | |
| 韓国ソウル研修旅行報告 | 95 |
| | 阿部 綾子 |
| (5)フレックスコース(宮城野校舎) | |
| ①北海道学研修旅行報告(女子) | 104 |
| | 池口真利子 |
| ②北海道学研修旅行報告(男子) | 110 |
| | 寺澤 信枝 |
| (6)秀光中等教育学校 | |
| ①第3学年ユーロスクール実施報告(前半) | 118 |
| | 倉橋 真司 |
| ②第3学年ユーロスクール実施報告(後半) | 128 |
| | 小岩久美子 |
| (7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修 | 131 |
| | 新田 玲子 |

編集後記

2011年3月 第26号

巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

I-LION HAWAII SCHOOLにおける
ソーシャルスタディーズがめざすもの……………1
安住 陽子

I 研究報告

- (1)西洋倫理思想史におけるプラトニック・ラブ(エロス論)の系譜 —アンリ・ベルクソンの説を中心に—
……………10
土屋 靖明
- (2)高校野球の犠牲バントに関する一考察 ……15
横山 将
- (3)育英祭での第2学年演劇上演報告 ……22
河内 実華
- (4)私の考える理想的な授業
～Brush Upを通じて感じたこと～ ……32
高橋こずえ
- (5)気化熱を利用した燃焼実験と冷却実験 ……36
相原ゆり子

II 平成22年度 研修報告

- (1)英進進学コース 第2学年北海道研修旅行報告
……………39
山本 尚武
- (2)外国語コース 2010年度TOEICエッセイコンテスト3位入賞について —報告— ……49
鹿野 洋・高橋 智子
- (3)特別進学コース ハワイILHA語学研修 ……51
石山かおり
- (4)フレックスコース(多賀城校舎)
北海道学研修旅行報告 ……62
千葉 陽子
- (5)フレックスコース(宮城野校舎)
①北海道学研修旅行報告 ……96
千葉絵美子・庄子 由美
②沖縄学研修旅行報告 ……101
小石純之介・佐藤 飛鳥
- (6)秀光中等教育学校
第3学年ユーロスクール2010報告
①前半(9月6日～10日) スイス～イギリス ……105
石田真理子
②後半(9月11日～17日) フランス ……117
脇 淳
- (7)通信制課程 異文化体験ハワイ校研修報告 ……134
新田 玲子

編集後記

2012年3月 第27号

巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

仙台育英獅子太鼓部 —ダボス会議に参加して— ……1
高橋 葉子

I 研究報告

- (1)教育リーダーシップ理論における「同僚性」の理論とその実践的意義 ……7
石田真理子

(2)国語教育における文学的文章の読解

—短歌を題材として— ……17
鈴木 正明

(3)外国語コースにおける外国語指導についての考察
……………20
小野 真弓

(4)本校における理科の指導について

—Brush Upを通しての一考察— ……26
井上 晶子

II 平成23年度 研修報告

(1)英進進学コース

①第2学年北海道研修旅行報告 ……29
高橋 麻憂

②2011年度TOEICエッセイコンテスト特別賞受賞
について(報告) ……39
鹿野 洋・岩渕 奈央

(2)外国語コース ILHA研修に向けての準備と研修報告
……………41
高橋 美保・安住 陽子

(3)特別進学コース

①PLAN2000 山形疎開学習報告 ……65
高橋 真理

②第2学年校外研修旅行報告 ……73
鈴木 和弘・伊藤 信男
山下 秀範・小山 格

(4)Tフレックスコース(多賀城)北海道学研修旅行報告
……………82
後藤 有希

(5)Mフレックスコース(宮城野)沖縄学研修旅行報告
……………89
佐藤 絢

(6)秀光中等教育学校 第2学年ILHA研修報告 ……96
安住 陽子・須江 航・前澤 絵菜

(7)通信制課程 異文化体験ハワイ研修報告 ……106
安藤 清一

編集後記

2013年3月 第28号

巻頭言……………加藤 雄彦

トピック

秀光・特進共同理科実験講座「サイエンス・コ・ラボ」
……………1
千田 芳文

第1回New York Shukoh Academy (NYSA) 実施報告
……………12
小林 祐喜

I 研究報告

(1)地理の授業での工夫 ……21
鈴木 和雄

| | |
|--|----|
| (2)英進進学コースⅡ類における高度IT教育について | 29 |
| 日野 彰 | |
| (3)外国語コースの特色を生かした授業 ～日本伝統文化の発表活動を通して～ | 34 |
| 松田 万里 | |

Ⅱ 平成24年度 研修報告

| | |
|---|----|
| (1)英進進学コース 第2学年北海道研修旅行報告 | 45 |
| 三浦 宏明 | |
| (2)特別進学コース | |
| ①ILHA研修 | 58 |
| 河内 実華 | |
| ②京都研修旅行 | 69 |
| 神谷 章嗣・三浦 仁志 | |
| (3)Tフレックスコース(多賀城)沖縄研修旅行 | 75 |
| 伊藤 寛・千葉 陽子 | |
| (4)Mフレックスコース(宮城野)沖縄学研修旅行 | 80 |
| 安部 恒俊 | |
| (5)秀光中等教育学校 第2学年 ILHA研修 | 94 |
| 遠藤 祐太 | |
| (6)日中国交正常化40周年記念事業 仙台育英学園 高等学校通信制課程 北京研修報告 | 99 |
| 安藤 清一 | |

編集後記

2014年3月 第29号

| | |
|-----------|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
|-----------|-------|

トピック

| | |
|------------------------------|----|
| インドネシア研修生の本校での短期研修について | 1 |
| 新井 真未 | |
| 第4学年 NYSA2013実施報告 | 12 |
| 小岩久美子 | |

I 研究報告

| | |
|-------------------------------|----|
| (1)化学部の活動 | 23 |
| 讃岐 果林 | |
| (2)情報科学コースに向けての取り組みについて | 33 |
| 島倉 尚子・庄司 邦彰 遠藤 誠・日野 彰 | |

Ⅱ 平成25年度 研修報告

| | |
|--------------------------------|----|
| (1)英進進学コース | |
| ILHA研修報告 | 41 |
| 佐々木真野 | |
| 第2学年北海道研修旅行報告 | 54 |
| 及川 まり・本多 華菜 | |
| (2)特別進学コース 関西校外研修報告 | 66 |
| 神谷 章嗣 | |
| (3)Tフレックスコース 沖縄研修旅行報告 | 72 |
| 赤間由樹子・林田 茂・芳賀 賢祐 古田 夕子・二瓶 巧 | |

| | |
|------------------------------|----|
| (4)Mフレックスコース 沖縄研修旅行報告 | 76 |
| 佐藤 優人 | |
| (5)秀光中等教育学校 ILHA研修 | 85 |
| 下浅 雄大 | |
| (6)通信制課程 広域通信制課程沖縄研修報告 | 95 |
| 戸崎 亮司 | |

編集後記

2015年3月 第30号

| | |
|-----------|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
|-----------|-------|

トピック

| | |
|---|---|
| 広域通信制課程 ILC沖縄東北研修旅行報告 | 1 |
| ICL沖縄 與那城慧太 | |
| 国際バカロレア・デュアルプログラム (IBDP) 導入 について | 7 |
| 外国語コース 高橋 郁夫 | |

I 研究報告

| | |
|--|----|
| (1)イマージョン授業(国際バカロレア準備) | 10 |
| 外国語コース ジェームズ・ドクターマン | |
| (2)戦時期における「仙塩地方開発総合計画」(いわゆる 金森構想)の登場と展開 | 23 |
| 特進コース 雲然 祥子 | |
| (3)河川流域における遺跡動態の研究 | 30 |
| 英進コース 佐々木 悟 | |

Ⅱ 平成26年度 研修報告

| | |
|-------------------------------|-----|
| (1)特別進学コース | |
| 関西校外研修旅行 | 46 |
| 高橋 真理 | |
| (2)情報科学コース | |
| 第1学年 会津研修報告書 | 52 |
| 正木 智也 | |
| 第2学年 校外研修報告 | 57 |
| 千葉 陽子 | |
| (3)外国語コース | |
| 第2学年 ILHA研修報告 | 63 |
| 小野 真弓 | |
| (4)英進進学コース | |
| ILHA研修報告 | 72 |
| 熊坂 治平 | |
| (5)秀光中等教育学校 | |
| 秀光16期生 第4学年NYSA2014実施報告 | 84 |
| 石田真理子 | |
| 第2学年(18期生)ILHA研修報告 | 93 |
| 阿部 広大 | |
| (6)通信制課程 | |
| 広域通信制課程沖縄研修旅行 | 105 |
| ILC青森 竹ノ子千春 | |

| | |
|-----------------------|-------|
| Ⅲ その他 | |
| (1)日本・キューバ友好400周年交流事業 | 114 |
| 外国語コース | 岩渕 奈央 |
| Tフレックス | 白岩 幸浩 |

編集後記

2016年3月 第31号

| | |
|-----|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
|-----|-------|

トピック

| | |
|-------------------------|--------|
| 創立110周年記念講演 | |
| 国際人育成のための提言～ILHAの実践を通して | 1 |
| ILHA(校長) | アール・大川 |

I 研究報告

| | |
|------------------------------|--------------|
| (1)数学同好会の活動 | 9 |
| 特別進学コース | 佐藤 璽 |
| (2)IB DP(国際バカロレア・ディプロマプログラム) | |
| に関する生徒の振り返り | 14 |
| 外国語コース | ジェームズ・ドクターマン |
| | ケリー・ウィンター |
| | 高橋 郁夫 |
| (3)3DCGゲームソフト作成 | 27 |
| 情報科学コース | 遠藤 誠 |
| | 日野 彰 |

II 平成27年度 研修報告

| | |
|---------------------|-------------|
| (1)特別進学コース 関西校外研修旅行 | 32 |
| | 菅野 直幸 |
| (2)情報科学コース 沖縄研修旅行報告 | 37 |
| | 山田 大 |
| (3)外国語コース ハワイ研修報告 | 42 |
| | 石田真理子 |
| (4)英進進学コース 沖縄研修報告 | 52 |
| | 北村 悦子 |
| (5)フレックス・技能開発コース | |
| サッカー部女子沖縄遠征・交流会 | 66 |
| | 林田 茂 |
| (6)秀光中等教育学校 | |
| NY研修報告 | 70 |
| | 本田 朋 |
| ハワイ研修報告 | 77 |
| | 阿部 広大 |
| (7)広域通信制課程 | |
| 沖縄研修旅行 | 89 |
| | ILC青森 加藤 宏明 |
| 職場体験実習報告 | 98 |
| | ILC沖縄 照屋 恵美 |

III 東北地区私学教育研修・ブロック別指導者研修報告

| | |
|---------------|----------------|
| (1)教育課程(私学教育) | 111 |
| | 秀光中等教育学校 坂内 玲子 |

| | |
|----------------|----------------|
| (2)生徒指導(私学教育) | 114 |
| | フレックスコース 白岩 幸浩 |
| (3)進路指導(私学教育) | 116 |
| | 秀光中等教育学校 倉橋 真司 |
| (4)道德教育(ブロック別) | 119 |
| | フレックスコース 渡邊 章紀 |
| | 秀光中等教育学校 小林 祐喜 |

編集後記

2017年3月 第32号

| | |
|-----|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
|-----|-------|

トピック

| | |
|-------------------|-------|
| 探究講座TTTチャレンジの成果 | 1 |
| 特別進学コース | 神谷 章嗣 |
| 孔子課堂の可能性 | 7 |
| 外国語コース | 鈴木 茂幸 |
| 国際バカロレア受講生徒の学術的論文 | 13 |
| 外国語コース | 石田真理子 |

I 研究報告

| | |
|----------------------------|---------------------|
| (1)文芸部の活動について | 23 |
| 特別進学コース | 下田真奈美 |
| (2)英進進学コース英語科研究報告 | 27 |
| 英進進学コース | 熊坂 治平 |
| (3)国際バカロレアと日本のカリキュラム:2つは両立 | 31 |
| できるのか | |
| | 秀光中等教育学校 ケリー・ウィンター |
| | 笠原 千尋 |
| (4)IB生物におけるアクティブ・ラーニングの事例研 | 36 |
| 究 | |
| | 外国語コース ジェームス・ドクターマン |
| | 笠原 千尋 |

II 平成28年度 研修報告

| | |
|---------------------|-------|
| (1)特別進学コース 関西校外研修旅行 | 43 |
| | 齋藤 美咲 |
| (2)外国語コース ハワイ研修報告 | 48 |
| | 赤間 ゆき |
| (3)英進進学コース 沖縄研修報告 | 57 |
| | 佐々木正人 |
| (4)フレックス・技能開発コース | |
| 沖縄研修旅行(フレックスコース女子) | 66 |
| | 杉田 愛 |
| 沖縄研修旅行(技能開発コース) | 71 |
| | 小野 仁也 |
| (5)秀光中等教育学校 | |
| NYSA 2016 実施報告 | 75 |
| | 伊藤 沙絵 |
| ハワイ研修報告 | 81 |
| | 倉橋 真司 |
| (6)職員研修報告 | 90 |
| | 多賀 努 |

| | |
|---|-----|
| Ⅲ その他 | |
| (1)広域通信制課程ILC青森校の状況報告 | 104 |
| ILC青森所長 三笠 勝彦 | |
| (2)職業調査とジョブミーティングー12職種の職業に関する調査とその発表活動を通してー | 115 |
| 情報科学コース 志賀 貞昭 | |
| (3)公文式学習(国語)実践の成果 | 119 |
| フレックスコース 島倉 尚子 | |

編集後記

2018年3月 第33号

| | |
|--|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
| トピック | |
| 高等学校通信制教育の質の向上について | 1 |
| 村上 淳 | |
| 剣道部サイパン遠征・文化交流活動報告 | 5 |
| 加藤 裕之 | |
| IBにおける教科指導実践について | 12 |
| Enabling and Disabling Factors in Implementing International Baccalaureate Programmes in Japanese Secondary Schools: Curriculum, Pedagogy and Assessment | |
| Kerry Winter | |
| I 研究報告 | |
| (1)Surface活用に向けた授業における取組について | 20 |
| 情報科学コース 坂入 崇紀 | |
| 日野 彰 | |
| (2)IB DP(国際バカロレア・ディプロマプログラム)デュアルランゲージで行うTOK授業 | 24 |
| 外国語コース 石田真理子 | |
| (3)教科BU研修会について | 27 |
| 教科教育センター 板垣 徳昭 | |
| II 平成29年度 研修報告 | |
| (1)秀光中等教育学校 カナダ研修報告 | 36 |
| 小保内陽大 | |
| (2)情報科学コース 沖縄研修旅行報告 | 51 |
| 加藤 芳己 | |
| (3)フレックス・技能開発コース 沖縄研修報告 | 56 |
| 多賀 努 | |
| (4)英進進学コース | |
| 沖縄研修報告 | 63 |
| 渡邊 光稀 | |
| 韓国研修報告 | 71 |
| 狩野 常俊 | |
| (5)外国語コース ハワイ研修報告 | 78 |
| 岩淵 奈央 | |
| 丹野まさよ | |
| (6)職員研修報告 | 89 |
| 零石 利光 | |

| | |
|----------------|-----|
| Ⅲ その他 | |
| (1)ILC沖縄校の状況報告 | 97 |
| ILC沖縄所長 山内 一秀 | |
| (2)演劇部の活動について | 111 |
| 特別進学コース 赤間 ゆき | |

編集後記

2019年3月 第34号

| | |
|---|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
| トピック | |
| 授業改革:協働学習の可能性 | 1 |
| Transforming the Culture of Teaching and Learning: An emerging collaborative learning community | |
| Kerry Winter | |
| 仙台育英孔子課堂活動報告 | 12 |
| 孔子課堂長 板垣 徳昭 | |
| I 研究報告 | |
| (1)デュアルランゲージで行うTOK授業のケーススタディーPCK(授業を想定した教科内容知識)を意識したバイリンガル授業 | 23 |
| 外国語コース 石田真理子 | |
| (2)特進コースの英語4技能向上対策:「オンラインWeblio英会話」を活用したe-learning学習について | 29 |
| 特別進学コース 伊藤 需 | |
| (3)仙台育英学園生き生き教室「√2ってなに」 | 34 |
| フレックスコース 零石 利光 | |
| (4)教科BU研修会について | 43 |
| 教科教育センター長 板垣 徳昭 | |
| II 平成30年度 研修報告 | |
| (1)秀光中等教育学校 カナダ研修報告 | 65 |
| 笠原 千尋 | |
| (2)特別進学コース 関西校外研修報告 | 78 |
| 高橋 真理 | |
| 佐々木正人 | |
| (3)情報科学コース 沖縄研修報告 | 84 |
| 船越 正志 | |
| 野坂 有生 | |
| (4)フレックス・技能開発コース | |
| 沖縄研修報告(男子) | 90 |
| 西山 大樹 | |
| 沖縄研修報告(女子) | 93 |
| 石川美紀子 | |
| (5)英進進学コース | |
| 沖縄研修報告 | 96 |
| 藤倉 善将 | |
| 台湾研修報告 | 108 |
| 熊坂 治平 | |
| (6)外国語コース ハワイ研修報告 | 113 |
| 松崎 希莉 | |

| | | |
|-------------------------|-------|--|
| | 下浅 雄大 | |
| (7)仙台育英孔子課堂 第2回北京語学研修報告 | 120 | |
| 平成29年度孔子課堂長 | 鈴木 茂幸 | |
| (8)職員会津研修報告 | 123 | |
| フレックスコース | 栗石 利光 | |

Ⅲ その他

| | | |
|------------------------|-------|--|
| ILC 青森校の状況と社会人養成講座について | 128 | |
| ILC 青森所長 | 三笠 勝彦 | |

編集後記

2020年3月 第35号

| | |
|-----|-------|
| 巻頭言 | 加藤 雄彦 |
|-----|-------|

トピック

| | |
|------------------------------|---|
| eスポーツ部の設立及びeスポーツ講座と今後の展望について | 1 |
|------------------------------|---|

| | |
|---------|------|
| 情報科学コース | 村上 淳 |
| | 日野 彰 |

I 研究報告

| | |
|----------------------------|-------|
| (1)SDGsを意識した授業づくり | 6 |
| 秀光コース | 菊地恵美子 |
| (2)新学習指導要領に向けた英語4技能の指導について | 14 |
| 特別進学コース | 新谷 仁 |
| | 伊藤 需 |
| | 安部 宏紀 |
| (3)英進進学コースにおける英語課外学習 | 21 |
| 英進進学コース | 木村 汐里 |
| (4)IB授業実践例 | 23 |
| 外国語コース | 小湊 陽 |
| (5)「せんだいまなびや」の導入 | 33 |
| 技能開発コース | 宮浦 靖次 |
| (6)教科BU研修会について | 52 |
| 教科教育センター長 | 板垣 徳昭 |

II 令和元年度 研修報告

| | |
|------------------------------------|--------------|
| (1)秀光中等教育学校・秀光コース (高校) | |
| カナダ研修報告 “Canada Study Abroad Trip” | 83 |
| | Kerry Winter |
| 京都研修報告 | 92 |
| | 加藤 隆寛 |
| | 横山 佳絵 |
| (2)特別進学コース 関西校外研修報告 | 97 |
| | 庵原 直樹 |
| (3)情報科学コース 沖縄研修報告 | 102 |
| | 村 貴之 |
| (4)フレックス・技能開発コース | |
| 九州研修報告 | 107 |
| | 西山 大樹 |
| 九州 (長崎) 研修報告 | 110 |

| | |
|-------------------|-------|
| (5)英進進学コース 台湾研修報告 | 116 |
| | 寺澤 信枝 |
| | 五十嵐春祐 |
| (6)外国語コース ハワイ研修報告 | 120 |
| | 川村くるみ |

(7)教職員研修会報告 (講演会)

(「学習障害・発達障害について」)

| | |
|----------|-------|
| フレックスコース | 126 |
| | 村岡 信章 |

Ⅲ その他

| | |
|----------------------|-------|
| ILC 青森における本年度の活動状況報告 | 132 |
| ILC 青森教頭 | 丸山 裕治 |

編集後記

編 集 後 記

昨年に引き続き今年度もコロナ禍の影響で、生徒の命を守るために多くの取組が制限されましたが、その反面研究においては、多くの先生方の工夫があった一年間でした。今回の研究紀要36号では、先生方の研究の一端を、紙面を借りて多くの方々に紹介できることを嬉しく思います。お忙しい中、原稿を執筆していただいた先生方には改めて感謝申し上げます。

これまでの研究紀要を振り返ると、加藤雄彦理事長・校長先生のリーダーシップのもと、文科省の方針や時代の流れを的確につかんだ研究・研修報告になっており、先生方も生徒の現状を十分に勘案した教育に真摯に向き合って研鑽されてきた様子が見て取れます。今年度も興味深い研究が多く、ICTの活用やZoomによるオンライン授業、デジタル教科書の活用、広域通信制併修の活用など内容は多岐にわたっており、時代を先行する研究報告が紹介されています。また、研修報告では、生徒の研修が制限される中で、県内の価値ある防災施設・歴史文化施設への研修を行ったことで、参加生徒が地元の良さを再認識し、将来多くの人々に紹介できる下地ができたようです。

今年度も、研究紀要の内容をClassiにアップし本校の研究・研修の内容を多くの方々に知っていただくことで、本校の教育に対するさらなるご理解につなげて行きたいと考えています。

今後も先生方の研究や研修の内容が生徒たちに還元でき、本校生徒の学びがより一層深まっていくことを祈念いたします。

研究紀要36号編集担当 岡崎 徹郎

発 行：秀光中学校・仙台育英学園高等学校

所在地：〒983-0045 宮城県仙台市宮城野区宮城野二丁目4-1

電 話：022-256-4141

研究紀要36号

巻頭言 加藤 雄彦

トピック

秀光コース20期生 TOK実践報告と振り返り TOK担当 加藤 隆寛
「国際バカロレアMYPとDPを活用した中高一貫教育の取組」
..... 仙台育英学園IBチーフコーディネーター 高橋 郁夫

I 研究報告

- (1) 秀光中学校・秀光コース オンライン授業実績報告
..... 秀光中学校ICT推進委員 小保内陽大
- (2) 『先輩、教えて下さい!』～ICT活用からOn-Line授業へ
..... 特別進学コース 御代 力夫
- (3) 情報科学コース デジタル教科書における取り組みについて
..... 情報科学コース 金福 瞭
加藤 芳己
- (4) 公私間教員交流研修報告 外国語コース 小林 祐喜
仙台二華高等学校 上島 佐輔
- (5) ICT推進の取り組みについて 英進進学コース 五十嵐春祐
- (6) ICT推進の取り組みについて フレックス 技能開発コース 山田 大
フレックス・技能開発コースにおける広域通信制併修の取組
..... フレックスコース 小原沙希子
学級だよりの有効性～学級だよりを核にした学級経営の研究～
..... 技能開発コース 館 和廣

II 令和2年度 研修報告

- (1) 英進進学コース
地域探求研修報告 尾林さつき

III その他

- (1) Office365・Zoomオンライン授業研修報告
..... 秀光コース 小保内陽大
情報科学コース 日野 彰
- (2) 数学問題間の類似性認識に関する考察
～数学における問題づくりを通して～
..... 広域通信制課程ILC沖縄 新里 孝雄
スクーリングにおける理科実験の意義－ILC沖縄の理科実験教室－
..... 広域通信制課程ILC沖縄 渡邊 正俊

総目録(第1～35号)

編集後記